

ごあいさつ

札幌に生まれ、育ち、しかし街をはなれて暮らすようになり、既に人生の半分以上の時間がたつようになりました。それでも私にとって札幌という街は特別で、くるたびに「帰ってきた」感じをうけます。札幌でできることはないか、様々に模索をしてきましたが、なかなか活動しきれていないのが現状です。それでもなぜ私は惹かれるのか、そんなことを知りたくて、Amanogawa 札幌計画はスタートしました。

震災について、原発について、四年が経過した今再び考え直してみると、今の生活がみえてきます。なぜ私はここにこだわるのだろうか？なぜ私は生きているのだろうか？何が自分にとって大事なのかということは人によって様々で、また同じ人においても時期、時代でかわっていくものです。なので、このワーク内で語られた言葉もあくまで今この時を切り取ったものすぎません。しかし、心から語る時その言葉は真実であり、人の心を打ちます。ダンスや演劇経験の有無にかかわらず、心からの言葉や動きは美しく、そこに踊りの本質はがあると私は考えます。そこには正しい答えはありません。様々な声を聞き、受け入れ自らの糧にしていくその繰り返しです。私もまたこのプロジェクトにより学び、考えさせられています。今回の参加者にはダンス、演劇経験を私以上に積み重ねている方もいらっしゃいました。が、ダンサーや役者である前の一人の人として率直に意見を出し、また参加していただきました。

職業芸術家は一度亡びねばならぬ

誰人もみな芸術家たる感受をなせ

個性の優れる方面に於て各々止むなき表現をなせ

(中略)

まづもろともにかがやく宇宙の微塵となりて無方の空にちらばらう (宮澤賢治「農民芸術概論綱要」)

今回参加して下さった皆さん、ご協力下さった各施設スタッフの皆さん、手弁当に近い状態なのに札幌まで来てくれるスタッフたち、私を育てた札幌の街に感謝いたします。

木野 彩子

2015年3月15日レッドベリースタジオ(札幌琴似)で行われた上映会にて配られたプログラムより

### 「Amanogawa プロジェクト」とは

ダンサー・振付家の木野彩子がファシリテーターとなって、体と心を解きほぐしながら住民の皆さんと意見交換やインタビューをし、映像作品に取りまとめる市民参加型映像づくりプロジェクトです。

今の生活への思い、過去への悔み、失ったもの…さまざまな記憶や思いは一つ一つが天の川を構成している小さな星。みんなが持ち寄り集うことで、それぞれの土地ならではの集団的な記憶の外郭が浮かび上がります。さまざまな土地の違いや時代の違いを蓄積していき最終的に天の川を構成するべく、インタビュー・ダイアローグを取りながら映像とダンスの作品にします。2012年川崎市アートセンターアルテリオ小劇場(新百合ヶ丘)よりはじまったこのプロジェクトを札幌にて開催しました。

今回のワークショップ内容はテキスト、写真などとあわせ、ウェブ上にて公開されます。この冊子は1週間弱のワークショップで起きたこと、対話を原則そのまま文字にしています。(録音不明瞭など一部かけている情報もあります)プライバシーを考慮し参加者の言葉は名前を挙げず、羅列する形にし、ファシリテートを行う木野(及びスタッフ)の発言と区分けしてのせています。

Amanogawa プロジェクト 20120311 新百合ヶ丘は以下のサイトをご覧ください。 <https://sites.google.com/site/amanogawaproject/>

Amanogawa プロジェクト@札幌 2015.03.04 (水) 午前グループ (10:00-12:00)

参加者：A、B、C、D、E

スタッフ：木野、中川、門馬さん（北海道新聞取材）

場所：あけぼのアート&コミュニティセンター 12号室

9:00 準備開始。札幌ということもあり部屋を暖めたり、順路の張り紙を用意。

10:00 今回初めてということもあり、趣旨説明等を行い、同意をいただいた。

- ① 映像を録画すること、それを公開すること、テキスト化などの承諾。
- ② ただし不都合な点がある場合はきの、中川に相談することができること。
- ③ 保険にはいっているため、ケガなどで入院・通院などが発生した場合はお知らせしてほしいこと。
- ④ 中川さん門馬さんの紹介をし、取材の許可もいただくこと。

10:05 Eさんが少し遅れて登場。

話している中で、Aさんは2002年きのがSTスポット（横浜）で踊った作品を見ているということやBさん、Cさん、Dさんも共通の友人がいるなど、全くの知らない間柄ではないことではないことが判明。札幌演劇、ダンスのネットワークを感じる。

10:08 ワークスタート

円に座ってお互いの足をもみながら自己紹介をしていく。

Eさんのマッサージが非常に上手く、理学療法士であることがわかる。

左右の足をもんでいくが、右よりも左をもんでいる時間がふえてしまい、左の足の血行がよくなったため左右で色に変化する。人間の手にはエネルギーがあってそれが伝わっていくのではないかという話しをする。

共通の知人がいたり、姉妹という関係性が含まれていること、人数が少ないこともあり、和気あいあいと笑いつつ、進行していく。

10:20 ワークA

2人組の寝るところからのマッサージ

(一方がうつぶせで寝た状態から行うもの)

2人組の肩をほぐすワーク ((シェイクハンズ))

身体を緩ませるときもちいい。

確かに肩がほぐれると手が長くなった(ようなきがする)。

肩の痛み(50肩?)が取れた。

感想をきく前に少しずつ言葉がでてくる。

奇数人数だったこともあり、門馬さんにもご参加いただく。

立った状態での軽いストレッチ、スイング運動、身体をバラバラに動かすなどのウォームアップ。ダンス経験者、演劇経験者が多いせいか、動きが大きいものにも柔軟に対応できていた。そのうえで頭の重さを考えてみようという木野より提案。次のワークへと移っていった。

11:05 ワークB ロールダウン、ロールアップ、身体モノ化

多くのダンスの基礎として捉えられているロールダウン、ロールアップを2人組でやってみる。(先ほどとは違う組み合わせで)背骨を少しずつ触ってもらいそこを意識することで、丁寧に動きを分節化できる。ゆっくり重力を感じていく作業。

腕に力がいってしまい、重さを感じ取っていない自分に気がつく。脱力できているようで脱力できていないこと、動きがスキップしてしまったり、早く動いてしまう傾向などもわかる。ゆっくりと動いてみることで、シンプルな動きでもできることとできないことが見えてくる。やってみて、つい「きもちいい」と声が出る。

11:16 再びロールダウンを床にねるところまで一人だけで行ってみる。先ほど触ってもらっていた手の感触を思い出しながら、自分の速度で横たわる。

木「意識がどんどん遠のいていきます」「身体がだんだん重くなって行って」「少しずつ微生物にたべられていきます」「身体が土になって行って」小声での言葉掛け

全員が横たわったところで、Eさんの元に木野が近づき、ゆっくり起き上がって横たわっている皆をみるように願います。(かわりに木野は倒れる)

11:23 話し合いの時間

木「今やったことから感じたことをあげていきましょう」

開放っていうとこまでできないね。自意識過剰だからね、脱力するというのができないんだよ。脱力するということを考えてしまうから。土になるとかいうと脱力っていうの考えなくなるね。一番難しいと思うよ、でもなんとなくこんなことするのかな？というかんじはわかった気がする。

木「答えはひとつではないし、人によってできる範囲も異なっている。自分なりのこちよいものというのがあると思う。こちよく脱力している状態は美しいと先ほど話したけれど、その人なりのそういうものが見つけ出せればよいのではないか。」

「今やったことはいろいろなことが含まれていて、例えば、崩れていく過程でおこったこともそうだし、倒れている間に感じたこともそうだし。少しずつ自分の感じたことをおはなししていただければ。確かに脱力脱力って考えてしまうとそれだけになってしまうので、大事なことは、土になることであって、そこにいくための方法論として今はこういうマッサージとかぐねぐね動きをしているのであって、私自身も学んでいるので、演劇的な手法などでこんな方法もあるのではないかといいのがもしあれば、お話いただけるとうれしい。」

えっと一床が冷たいなあって(笑)毛布(注:マッサージのときにはあった毛布をしまってしまった)ほしいなあって。

すごく同化するようなかんじで。

結構土になるって開いているような感じがして、普段楽な姿勢とか寝る体制できゅってなっているんだけど(横になってみせる)開いた方がいいのかなあって、思ったり。

木「それはそれぞれの人だからこうしなきゃというのは考えなくていいですよ」

ロールダウンして横になったあとちょっと迷ってしまったんですよ、あつちかな、こつちかなって(ごろごろうごく)。で結局寝る体制になってぼーっとしていたんですけど、ふと昔って土葬ですよ、土に帰るときってこんな感じなんだろうなと感じました。

木「そこにいきましたか、たしかにそうですね。今かわっているアフリカンダンスの振付家さんはバオバブの木は全ての生命につながっているといっていて、そこに埋めているわけではないんだけど、先祖だとか、様々な生き物が土にかえて、そこから栄養をうけて育っているというんです」

普段固めるような動きを多くやっていて。なんかちょっと速く動いちゃうところがあって、それがいけないなあと。でも今日ははじめのゆるすのとかあって、ゆったりできた気がする。(しゃがんでみせて)普段これできないんだけど(木「私も一緒!」とやってみせる)、これができる!っていうのがうれしくて。

木「このグループの中でも一番すごくこだわってゆっくりゆっくり動いている感じがしたんですけど、それはなにかありました?」

すごく集中できていたのかもしれないです。

木「なるほど。(他の方に)ただゆっくりすればいいということではないです。それよりもそれぞれのペースでできることのほうがいいと思うし、丁寧にできた方がいいと思うんです。このワークをやっている感覚をシェアできたらと思います。」

「今このワークで土になってとかやっている中、Eさんに立ち上がって皆さんをみていただいたんですけど、どうでした?」

皆すごくリラックスしているなど。最後終わったときに皆のびをしたのがすごいそろってきれいで。

木「そうか、最後が、、、(笑)」

「今リラックスという言葉がでてきたんですけど、寝てるっていうのと土になるっていうのは質感が違うんですよ。それをやってみましょう」

11:32 ワークC 水の身体、木の身体

木野がまず手本としてうつぶせになり、Dさんに動かしてもらおう。

身体をみずだとおもう。→もうひとは揺すったり転がしたりしてうごかす。

身体を木だとおもう。→同じ形なのに動かしにくくなる。

別に身体に力をいれて動かないようにしようとしているわけではない。それはみてもわかる、でも動かない。ではなぜ動かないか。

木「冗談でやってると思うでしょ??そんなことないです」

実際に2人組になってやってみて驚く。

木「では見た目的にはどうでしょうか?水!木!」

皆でお互いをみあってみる。

11:40 話し合い

「さわってみてどうでした？わかりました？」

すごい、びっくりした。

水るときはすごい脱力しているような感じで、でも木るときは力はいっていないのになにか芯がとおっているようなかんじで。みてもなんか違うのはわかるんだけど。

(皆うなずきながらきく)

芯がね、中心にあって、全然動かなくてびっくりしました。

縦に長い感じで。足は足、手は手でひばられていて、一本な感じ。意識していないけれど。

木「意識していない、でも明らかに違うなにかがあったでしょ」

水るときは床にくっついていないんですよ。でも木るときは床に完全にがっちりついていて。

木「水の状態って動けるし、生命体は水っていうけれど、ゆるゆると動けるんですよ。木になったときにモノ化しちゃうとか。」

「今やっていた崩れ落ちていくワークなんですけれど、もう一度今やってみた感じで土だったらどんな感じが考えてみましょうか。水だったらゆるゆる、でも土は生命体ではないし。その感じでやってみましょう。」

「Eさんがやってくれたみんなをみる役をいれかわってやってみましょう。おこされた人は誰かのところについておこしてあげて自分は土役に戻ってください。他の人もそうすると観察もできるし」

11:44 再びワーク B'

応用としておこされた人は誰かをおこし入れ替わりながら観察する。

木「(倒れてからの部分だけを行うと思った参加者に対して) たっているところからやるのって木がだんだん枯れて崩れ落ちていく感じがしていいと思うんです。なのでたっているところからもう一度やってみましょう」

四人目が2回目にあつた人になり、戸惑った表情でいたので、一回ワークを切り上げ話すことにする。

11:51 話し合い

木「1度もあたっていない人もいるかもしれません。逆に2回あたってしまったり。いいんです。だって誰があたるかわからないんだもの。」

そこが面白いところだと思います。

木「歩いてみての感想もあるし、2回目になっているので、先ほどと土の感じはどのように感じられたでしょうか」

身体の形が面白いなと思って。Eさんが大の字じゃなくてちょっと斜めになっていたんです。だらっとしているんじゃなくて、対称じゃなくて、こう(やってみせる)とか。木野さんの脚の形がこう(片足が少しのっかってひっかかっている)で、脱力ってこんな(大の字みたいに広げた状態)だけではなくてありえるんだなと思いました。

木「自分が楽っていうのもあるけれど、そうなっちゃった身体っていうのもある。なってしまったらそこにいるしかないとか。ここが痛いとかいう場合は無理する必要はないけれど」

「確かに一人一人が全然違う形をしていて、それが個性とか。」

「でも土感はあるとか。さっきと比べてどうだったかみれると(と、Eさんを見る。Eさんはあたってないですとの回答) そうだったのね...」

「立ち上がって見たときの感情っていかがでした？」

土化した身体ってねー、難しいけれど、なんか異様にみえた。僕は11年12年と韓国で「水の駅」という無言劇をやったんだけど、そのときのテーマは3.11をテーマにしている砂の上に死体の役をごろごろころがすようにしてたんだけど、今のがもっと死体だったね。(一同思わず笑) 死体になろうじゃなくて土ね、身体のイメージをきちんと作ろうとしないとなかなかね、こういう形で伝えようとしてもなかなか伝わらないけれど、こうやってみてみるとすごい面白い。

木「演出家的にはおもしろいですか？(笑)」

演劇って言葉でつくるけれど、イメージをふくらますっていうのがね、非常にナチュラルで。脱力とかそういうのじゃなくて動きとかやっていくとちゃんとリラックスできるのね。すごく絵になっていてさ、いや、うまいなって。

木「(照れ笑い) ありがとうございます...」

土っていうのがさ、木から枯れ葉が落ちて、ずぶずぶずぶずぶと、なんかね。

木「その枯れ葉のイメージはいいかもしれませんね、

土になってドロドロになるころまではイメージいかなかったけれど、身体が朽ちていくとかね。

木「やっぱり演出家さんだから言葉がでてくるんでしょうね。私は木と話しましたが、枯れ葉というのは腐葉土とかそういうのをイメージしたでしょ？(うなずき) そういうものがぱっとするのは演劇とか言葉の力が大きいと思います。今土と話したのですが、土じゃなくてもよいのかもしれませんが。自分がやっている、やりたいものと自分の身体がどう見えるかというのは違うことがあるわけですよ、そういうときにどう結びつけていくかはダンスを作る上でも課題ではあって。言葉を

使わない分、説明できないことはあるけれど、でも今みてみたら水と木をみたら違うのわかるでしょ？（一同うなずき）、それは難しいことではないんだよね。そういうことに気がつくときと雰囲気とかもかわっていくし。私水です！とこうやってアピール（胸をそらせて）するのではなく、何かできることはあるかもしれないことに気がつけば。」

「死体という言葉がでてきたんですけれど、311があった年にこのプロジェクトを作ったんです。自分の作品ができなくなったりとかいろんなことがあって、こういう失うことというのは、私は家族を失ったとかではないんだけど、喪失感とか脱力しちゃって何もできないような感触って、実は全ての人の生活にあるんじゃないかなと思って、いろんな人からお話を聞いてみようと思ったんです。」

「このようなワークをしているときに、ちょっと離れてみると自分の身体を死体化しちゃっているよって笑っちゃうようなシチュエーションなのだけれど、そうしてみると、死体化しきれない自分がいて、それが要は生きている証拠というか。例えば息はしているとか、床冷たいって感じちゃう自分とか、そういうところから自分を知ることができて。感じちゃったことは率直な意見だし使ったことのない言葉とか感覚がうまれるような気がするんです。」

ここで12時になり、時間のある人はお茶でもしましょうという話しになる。

#### アフターワークトーク

毛布を広げ、マンゴーウーロン茶(!)をいれ、お茶の時間。

ここで参加者の一人より Amanogawa ってなに?? (ご本人は Amazon と間違えていたらしい) という質問があり説明をする。

宮澤賢治の銀河鉄道の夜から発想をえていること、天の川は川のようにみえるけれど実はひとつひとつが星で、全ての人の命はかけがえのない星のように光っている。普段の生活の中で思っていることやつづやきも大切に、特別なダンサーさんとかだけではなく、いろんな人のいろんな視点全てが星になっていくのではないかと話す。ダンスを指導する上で身体の堅い子をどうしたらいいか、マッサージを一人でするにはどうしたら?などの質問がでる。

リラックスしてやれるのは芝居のウォームアップとかにもいいかも、マッサージをすることで(関係性が)近くなるというような感想もいただく。

今回の参加者は演劇、ダンスに興味がある方が多く、マッサージの考え方のベースにしている野口体操(及びそれと間違われやすい野口整体)の話しや、木野がフランス時代にお世話になっていた師がベースにしているフェルデンクライスメソッド、理学療法などの世界で応用されているアレクサンダーテクニクなどの身体知覚系についても話しが及ぶ。Eさんは理学療法士であるだけでなく少林寺拳法をやっていたことがあり、特に身体については詳しい様子。

札幌の演劇情報、稽古場情報などもいろいろ伺う。

途中から門馬さん(北海道新聞)の取材となってしまったが、説明をしながら、現在の活動を言葉化する必要性を感じた(翌日朝刊に紹介記事を載せていただいた)。

参加者が演劇などの経験者が多いことではいりやすかった反面、はなす時間をあまりとることができなかったことは反省。この2日間の中であけぼのの関係者、参加者の話しをきき、今回札幌に初めて来た中川さん(映像)は「札幌って演劇が盛ん」という印象をうけたという。

午前ワーク終了後校内ロケの可能性を考え、校内のプランを試し取りする。

**Amanogawa プロジェクト@札幌 2015.03.04 (水) 午後グループ (19:00-21:00)**

**参加者 : F、G、H、I、(Jさんは仕事の都合で急遽お休み、かわりに5、6日に参加)**

**スタッフ : 木野、中川**

**場所 : あけぼのアート&コミュニティセンター 12号室**

18:00 午前の部終了後、買い出しや学校内のロケ場所チェックなどを行っていて、あっという間に時間がすぎる。特に夕方の光が北海道的だという中川さんの声をうけ(雪のせいで青っぽい感じの空になる)8日の撮影時間を少し遅くまで延長することをきめる。

Fさんがはやめについたので、コミュニティダンスについて、近況などをはなす。

19:00 今回初めてということもあり、趣旨説明等を行う。(午前の部参照)

19:05 ワークスタート

円に座ってお互いの足をもみながら自己紹介をしていく。

すごい足柔らかい!

あたし教師で、黒板の上の方かくのにつま先立ちしていたら30何年たってすごいやわらかくなってしまっ(と甲をだしてみせる)

それぞれのひとの足の形が違う、というのをさわりながらみていく。

自己紹介ではなぜか皆さん「木野さんとのつながりは、、、」と話しはじめる。やはり直接知っている方の応募が多い。

19:10 ワークA

2人組の寝るところからのマッサージ(一方がうつぶせで寝た状態から行うもの、午前の反省を生かし、時間短縮のためシェイクハンズは省略)

軽い立った状態でのストレッチ、スイング運動、身体をバラバラに動かすなどのウォームアップ。

19:38 ワークB ロールダウン、ロールアップ、身体モノ化

多くのダンスの基礎として捉えられているロールダウン、ロールアップを2人組でやってみる。(先ほどとは違う組み合わせで)

触られているとそこが意識しやすい気がする。

木「確かにやってもら側も意識がしやすいというものもあるし、やってあげる側もその人がどこに意識しているかをちゃんと見る目を養うので、いいワークだと思います。」

「こういう動きはダンスでもあるのですが、こんなにゆっくり行うのはなかなかないです。丁寧にゆっくりやってみることで、意外にできないことがみえてきます。」

「今触ってもらった感じを思いつつ、自力でやってみましょう。Hさん、今回は前におちそうになって手をついていたのですが、そのまま床まで転がってしまいましょう。この床、木なんです、その木になってみるところまでやってみます。」

午前の会と違い、この時点で木になるというイメージを出してみる。

皆準備をしようと黒板にむかって1列に並ぶ。

木「いま気がついたら皆さん一列で黒板に向かっているんですけど、これは何か理由があるんでしょうか、学校だからでしょうか?無意識??」

一同笑いながらうなずく。

木「先生としてはどうですか?こちら(黒板側)の方がやりやすいのでは?」

こちら(生徒側)のほうがいいです、気楽で一。(一同笑い)

木「学校ではありますが、正面というのは考えず、カメラも動きますし、好きな方向でやってみましょう。速度も人によって違うので、自分のペースでやってみてください」

全員が横たわったところで、Iさんの元へよって行って、ゆっくり起き上がって横たわる皆をみるようにお願いする。(かわりに木野は倒れる)

19:57 話し合いの時間

木「身体を木化して、木材化して倒れてみていてどんな感じでした?」

床の気持ちってどんな感じかなと思って。踏まれる感じとか、この上を人が歩いている感触とか。たまたま平べったい形になっていたの、床ってこんなかんじとか。自分が空間の上を動くことはあっても、受け止める側になることはない。自分が底の面になったという感覚が面白いとか。

木「感情的にはなにかとかありますか?」

感情というのはあまり、、、なにか裸足の足で踏まれると気持ちいいかんじがして。この床は気持ちいいに違いないみたいな。  
木「ほー、私もこういうワークをいろいろするんですけど、このような声を聞いたのは初めてで、面白いです。」

同化するって気持ちいいなって思いました。一緒の気持ちになるとか、溶け合うと気持ちがいいなというか。友達とだったらハグするとかなんでしょうけど、今木なので、感触が冷たいんですけど、冷たくてもあたたかい感じがして気持ちよかったです。

木「堅いし、モノじゃないですか。人じゃないでしょ？同化というのは私が（説明で）使った言葉だけれど、でも溶け合うって感じがしました？」

しました（確信的に）。肌と肌がぴたーとして。相手の肉体にちょっと入り込むような感じ。

木「そうか、、、でもそれは今やってみてもらいたいことなので、すごくイメージがわくというか。なかなかそういうイメージってするの難しいのかなって思っているんですけど。」

ありさんに踏みつぶされるってこんなかなって思ったりしました。

「あり??」（録音不明瞭のためその後の受け答えが聞き取れず）

木「今ひとり起き上がってみてもらったんですけど、どうでした？」

とIさんに聞く。Iさんはワーク中しやがんだところから動かずじっと耐えているようにみえたので、そのまま立ち上がってもらった。

なんか、同化できないっていうか、頑ななところがあって。

木「同化できないってどういうところから？」

ここの場所が初めてだとか、すぐになじめなくて、ためらいが、、、

木「(うなずきながら) うーん、なるほど。ロールダウンしてしやがむところまで来て、ずーっと耐えてて何か迷っているみたいで「どうしたらいいんだ」みたいなかんじをうけました」

そこからどうしたらいいかなと思って後ろにもベターツという感じにはいかないし、前にもいけなくてそのままいたという感じです。

木「倒れてもいいですよ」

うーん、でもイメージとしてはだーっといきたかったんです（実演）。でもわあって（尻餅をつくようなかんじでどんといく）感じで。

木「必ずしも足をそろえている必要はないし、手をついてもかまわないんですよ。「同化、私できないな」とか抵抗があったらそのままでもいい、それもその人の感性なのでそれは大事にした方がいいと思うんです。」

実は私も同じ葛藤があって。(皆笑) こうやって(しやがんだ姿勢)安定しちゃって。こうやって溶けていくときにふにや一、ぺたーんってすいこまれるようになるとイメージがあったのに、自分の身体はここから溶けていかないって思って。でも私は「ま、いっか」とおもって(後ろに尻餅をつく実演)どーんって転がったけれど。重さに任せていったんだけど、「あ、力はいってるかも」とか何段階も通りながら崩れていって、イメージにあったようになかなか身体がすーっとはいかないなど。液体ではないし、肉体のようなものを感じつつ、、、

木「それは確かに。肉体って思っちゃうとね。」

ここに横たわるまでに自分の肉体との葛藤が何段階ありました。

木「テクニカルな意味で、できる、できないではなく？」

なんか、イメージと身体の違い

木「うん。わかる気がします。今水じゃないしといういい方をしたんだけど、そこで決めつけてしまわないほうがよくて、そのままのイメージでやれちゃうときと、ぴしっとわけてしまう自分という頭があるから難しいという気もしますね。なるほどねー」

「(一人立ち上がって皆をみた I さんに対して) 今皆さんの状態をみてみて、なにか感じたことってありますか？」

はじめはロールダウンしてるんだと思っていたんですけど、なんか途中からしーんとなって。バラバラでやっていないかんじになっていたんですよ。先生が意図しているかんじなのかはわからないけれど。

木「バラバラでやっているような感じがしない？」

そう、なんか踊っているかんじ。

木「みんなと一緒に動きをしているみたいなの？」

一緒に動いているんじゃないけど、それぞれ存在していて、醸し出すじゃないけれどもまとまっているという感じがして。一体感のような、、、

木「一体感というのは、同じ動きをそろえてやれば一体感はつくられるけれどそれだけではなくて、同じものをイメージするだけでもだせます。例えばこの床、この床をイメージしているからここは一緒なんです。寝方や顔のむきは全然違うけれどもでもなんか、近いんです。なにかある、でもダンスでもないという。すごいそういうことって大事なことで、共通のイメージを持つとか。」

何か一瞬すごい面白かったです。

木「そういうことが作品としてすごい大事だったりしますよね。映画だったりダンスだったり、そんな難しいことしていないのに引き込まれるとか。わかりませんが。」

木「身体の質についてちょっと話しが出てきたのと、葛藤はあるけれど、それをパスしたときに、身体のイメージを変えることでどれだけかわるかということをやってみましょうか。」

#### 20:10 ワーク C 水の身体、木の身体

木野がうつぶせになり皆に動かしてもらいながら変化をみてもらう。

その後2人組になってお互いの身体で実際に体験してみる。ワーク内容は午前の部参照。

#### 20:17 話し合い

木「なる側と動かす側と両方やったので、それぞれ思ったことがあると思うのですが」

動かす側はよかったんだけど、なる側は木だったらどうやって動くんだろうとか、水だったらどうしてあげたらとか思っています。

木「いい人すぎます！（一同笑）というのはイメージによってどのように身体がかわっていくかを練習してきているので、木だったらということ（先に）作ってしまえば、イメージによってどのようにかわったかはわからなくなってしまいます。親切すぎて、ちょっともったいないかんじです。触ったときの感じや、やってもらったときに受けた感じから受け取るイメージってすごく大事で、言語化するのが難しいんですけど、こういうところでみんなで話すと言い合えるから。どうぞどうぞ」

どうい感じ、、、うーん。わかんなくなっちゃった。

水のときはやっぱり重たさが。

木「動かしている時？動かされている時？」

両方かな。自分が動かされているときには落ちている感じで、力に対しても抵抗しない。木のときに、木って何だろうと思って、芯がある感じかな。不定形じゃなくて、こういう方向性があるもの（手を横にひろげるような動き）で。実際動かされていると、自分は関節で曲がったりするんだけど、木だったらぽきと折れるとか。

（木だったら）ここ（二の腕）がぶよぶよしてなくて、方向性のある。。なんだろう。木のとき、頭つかっちゃったんですけど。いろいろうごかしてくれたんで。

（そのとき動かす役だった人が不安げに）ただうごかしたんですけど、、、。

木「いやいや、どんなワークでもいえるんですけど、これがよかった、これをすべきだったというのはない。私のときはこうだったけれど別のときにはこうなったということはあるわけだし、いろんな動き方をすることで新しい動きが見つかるこれが正解というのはないんです。これは朝のクラスではいってなかったんですけど、クラシックバレエやモダンダンス、ジャズダンスなんかだと、こういうふうになるのがいいよと教えられて育つんです。（手でピラミッド型を作ってみせる。）理想というのがあるんです。でも今私たちがやろうとしているのは理想のすごい人を目指してがんばろうというのではなくて、それぞれが星というか、それぞれの色をもっと出せるのではないということなんです。例えばそこで、他の人と違う発想がでてきたりするの面白いという。そういう発想もあるんだ！ということを集団でシェアするために意見を言ってもらっている。だからこれが正しいとかこういうことをしたい、しようというのではない。例えば先生がこういうことを考えているとかを考えると余計に新興宗教のようなものになってしまう。それが上手く説明できないんですけど。今木野先生という話しが出てきたのですが、私が指導者とか先生ですとなってしまわないで、みんな本当は同じところ（にいます）。（手で平らにならすしぐさ）とはいえ今日は初日なので、基本的なことはどんどん教えちゃってますが、同じレベルで発見は価値がある。そこが伝わるといいなと思ってやっています。」

私が言いたかったのは、自分が思いがけない方向に持っていかれたので、このとき例えばこういう丸太だったら（と全身を棒のようにしてみせる）こうやって動かないだろうと思うんだけど、鉄じゃないし、こうやって力が加わったときに折れたりとか、そのときに柔らかくもってかれるんじゃないかと、やっぱり割り箸の線がはいって折れるとかそんなことを思ったりするの。

結構伝わってるんじゃない？等と言ひ、もう一方の組へ。

私は水のときは自分が羊で皮を剥がれて（一同 皮を剥がれる！！と驚く）そう、で身体の中は全部水で、水タンクみたくなって地面にボンとおかれている感じ。本人にとっては初めての感覚で不思議な感覚がありました。

木「羊、しかも皮をはがれちゃった？」

はい、今まで羊として生きてきたけれどもこんな経験初めてって思うんです。

転がされているときはぼよぼよしてて、初めての経験でなんか時々自分でも愉快になっちゃうようなときもありました。木になったときは森林、森のなかの自然に倒れてしまった木を連想していました。彼はなんだかともうごかしづらそうで



人体のような感じで。あれ、私かわっちゃったんだとか。羊のときはぼよ、ぼよってなんか楽しい感じで気持ちが動いたんですけども、木のときはなんか感情が動かない感じで。字面で、というかタイプでカタカタカタと打たれた感じで。タダイマココロガコオツテオリマスというような。

木「なるほどね。すごい面白いですね。木はモノなんですね。物質のイメージがちゃんとあって。それに対して羊ちゃんのイメージは生命体に近い流れるもので、そのギャップというのがカタカタカタというような言葉にあらわれていて。」

個人的に（音声不明瞭のため聞き取りできず）

雑に動かさずいなのというのがあって、マッサージのときもそうだったんですが。

木「今羊ちゃんモードという話があったのですが、そういう感じはありましたか？」

水のときの方が動かしやすいです。こうやってするだけでも動かし。

木「抵抗しないでそのまま流れるという？」

そう。で、木はほんとにぼきっとおれるというか、そんなんで。あまり下手に動かすとおれちゃって怒られるという。（一同笑）

木「倒木って思っていたみたいだからそんなに折れるわけではなかったのかもしれないけれど、それで丁寧にあつかったと。」

そう。

木「本当に水の身体という感じで寝ているのと木の身体という感じで寝ているのでは感じが違うし、人によって違ってくるし。そのイメージを動かす側がどう捉えているかもかわってくる。大事なことです。想像力の深さ、羊ちゃんみたいなのも面白いと思う。」

「今崩れて落ちていく、というのと観察役を行ってもらったのですが、観察役を他の方はやっていないので、やってみると、この木モード、モノになった身体の異質な感じというのを見てみた方がいいので、入れ替わってやってみましょう。手で、とんとんとおこすので（あつた人は）ゆっくり起き上がってみんなを見てみましょう。見回して自分が気になった人のところへいっておこしてあげる。自分は入れ代わりで倒れてしまう。そうやって入れ替わっていくと、ものすごくあたらない人がいるかもしれないけれど、一回はあたるだろうと思って（笑）お試しでやってみようと思います。」

20:33 ワーク B・C

木「今はこの木（床をさわる）になってみます。ロールダウンから床にはいるのが上手いかわからないかもしれませんが、形はどうなってもいいし、ガッタンとなったとしてもそれも含めて木でいきましょう。いろんな方向を向いてスタートにします」

木野→G→F→H→G→I

木「一回目をさましましょうー（のびをするよう指示）遠くにいきすぎているので、戻ってきてください。で、（円になって集まって）すわります」

20:41 話し合い

木「さっきまでとにか感じはかわったでしょうか、他の人たちを外から見てみてどうでしたか？」

さっきは木にならなきゃとか考えていたんですけど、別に「ま、なんでもいいか」と思いはじめて。ちょっとリラックスした感じになって。さっきは木っぽくなきゃと思っていたんですけど、。木は考えないかと思って。

一人でたっているときに取り残されちゃっている感じが、しました。

木「ちょっとさみしい？」

うん。すごい静かなかんじで。

私はたっているときは自分が立っている木だと思ってたからあまりさみしくはなかった。

木「取り残された感はある？」

あー、別に。

私は取り残された感がありました。立ち上がったときに毒ガス事件かなにかあって私はこれから一人で歩いていかなきゃいけないんだと思って。そこにあるものは生命体には見えなかったですね。

木「木になった身体になることで、感じるとか考えるとかそういうのを超越した感じが伝わったのでしょうかね。」

木「この Amanogawa プロジェクトは 2012 年に作ったのですが、前回もそうだし、今回もベースには東日本大震災のことがあります。私たちはその場にはおらず、報道では死体などはうつせないとかカバーされた情報しか知らない。こういうことが起きたのだろうと想像するけれども。実際にはどんな状態だったのか。それをやってみました。

やってみただけでも、そこで悲しいとか苦しいとか（表情に出していかにも悲しんでみせる）することが大事なわけではない。だって、既に何か気持ちは感じているし、ちょっと落ちた感じになりますよね、多分それだけでもう十分というか。それが今回私が大事にしていきたいことなんで

す。表現というのは出すだけではなく、そのときに感じている身体からでてしまうものもある。表現じゃなくて表出されてしまうものもある。取り残された感もそうだし。死んだ身体をやってみて、自分の身体をはなれて見てみるのも大事なことを考えています。」

「少し悲しくなっていましたね、すみません」

「今回映像を作るにあたり、おそらくいくつかの動きは前回と同じものを使いますが、皆さんとの対話によってかわっていくこともあると思います。この場所だからこそというのがあると思います。なので明日以降も続けていきたいと思います。」

「Gさん、Iさんが今日最後（明日、あさってはお休みの予定）ということで、学校時代の思い出を話してもらってもいいでしょうか。」

#### 20:47 話し合い 学校時代の思い出

付箋をもってきて、書きながら話してもらおう。Gさんは現役の教師でもあるので、教師としての思い出もある。

他の人も世代は異なるものの小、中、高校のいずれかの思い出を話してもらおう。

子供時代って長過ぎて、何をはなしたらよいか。

思い出話のようなものをしますね。

札幌で生まれ育ちましたが東区のタマネギ畑の中で育ちました。子供の頃は幼稚園にも保育園にも行きませんでした。春からかようS小学校当時は一クラス45人くらいいて、私がいいたときには一学年10クラス、卒業するときには11クラスありまして、マンモス学校でした。入学式が体育館で行われましたが、生まれて初めて見るたくさんの人にすっかりおびえきってしまった。教室まで母と来たのですが、教室には名前がフルネームではあって自分の席で待っているようにと言われていました。自分の席が一番前なのは字を讀めてわかったのですが、教室の一番後ろからはいって一番前まで一人で歩いていくというのができなくて、「おかあさんと一緒ならいく」といいました。母は「一人でいかなきゃだめ」「おかあさんと一緒ならいく」と問答をしているうちに先生が来て、母のスーツの裾をぎゅっと握りしめ口を真一文字にして、先生の目をきっと見て、絶対座らなかつたんです。

父は教員でして、母も教員でした。私は第1子です。母は自分の子供が集団生活になじめない子供だということにすっかり仰天してしまいまして、そのあと大変なスパルタ教育がはじまりました。勉強1日に5時間くらいさせられて、(周りから小学生で??と問い) そう、小学生で。なんか落ちこぼれというか、落ちこぼれ何ですけども、あの日を境に私の楽しかった子供時代は終わったというような記憶があります。

木「すごいことになりましたね、短ければ(付箋に)書いてもらおうと思ったのですが、かききれないですね。」

衝撃の小学校入学式! みたいなのでどうでしょう。私の幼児時代の終焉みたいな。(重い話しではあるものの明るく話してくださいました)

木「その時おかあさんの裾ぎゅってにぎるときの気持ち、ものすごく強かつたんですね」

強かつた。私妹がいるんですけど、5つ年が離れています。ですから5歳まで一人っ子で育っていて。幼稚園や保育園にも行かなかつたし、専業主婦だったので24時間ずっと私と一緒にいた。団地だったんですが近所の子は幼稚園か保育園かどちらかにいって、4歳、5歳のときには友達も一人もいなくて。ずーっと母とビッタリの生活をすごし、そして45人10学級の入学式で、母と一緒にいなければ教室の縦のラインを歩けなかつたんです。教師として指導してきて、自分の子供がこうなるというのは母にとっても衝撃的だったようで、母の中で絶対あってはいけないことだったんです。母的には。

木「ちなみにそこからだんだんなじんでいくのにはどれくらい時間がかかりましたか？」

今もって母がどういう子育てをしたのかかわからないのですが、母から小学校今日入学式という日に、前日だったか入学式の日にかかされたのは「学校でお友達をつくってはいけません」ということでした。どういう意図があったのかはわからないのですが、子供ながらに学校の先生の言うことはきかなくやいけない、学校の先生はまず第1にお友達と仲良くしなさいという。お友達たくさん作りなさいという。あまりのちがいに、、、家ではお友達の話は一切せず、学校ではお友達をつくるという二重生活で。

木「ではクラスの方はだんだんなじんでいったということですね」

はい、時間はかかりましたね。やはり幼稚園いきなかつたなど。

木「遊んじゃいけないといった本意はその後きいたりしました？」

きいてはいません。恐ろしくて。

母に内緒でお友達作りましたというのいえませんが。(笑)

ただ、母や父にはこうやって育てるとするのがとても強くあつたのだと思います。世の中の他の家の子育てには疑問を感じていて、自分たちの理想とかかけ離れていると感じるものがあったのだと思います。小学校にはいることによって我が子が染まるのを恐れたのではないかと思います。だけど子供にいつかさせるのが上手じゃなかつたらしくて、一番短い言葉で伝えようとしたところ「お友達を作ってはいけません」になつたのではないかと。これはわたしの考えで確認したことはないです。

木「すごいきになりますね」

木「(付箋を他の人にも渡しながら) ここまでインパクトの強いエピソードでなくとも、どうぞ。なかなかここまではないと思います。いろんなエピソードがあると思うので、ひとつに絞り込まなくていいですよ」

高校で、ストリートダンスは始めるんですけど、それまでは誰とも話したりしていなくて。話したのが同じクラスだった

ストリートダンスやっている子で。その影響でストリートダンスのクラスいきはじめたりして。

木「今は普通に話しているけれど、その頃までは人とは話さず、静かめという？ダンスとかも踊らず、運動とかも苦手みたいな感じだった？」

そう。ダンスが自分を開いてくれたというかんじです。

木「私は高校の頃演劇やって、朝から晩までほんとに演劇尽くめで。朝練して授業でて昼練して授業でて夜は他の学校行って部活みたいな。学校いつているけれどよく考えたらあまり学校の記憶ないぞっていう」

「高校でもしその友人に会わなかったら、今ここでHさんにはあわなかったわけだ。」

そもそも仕事とかしているかわからない。人としゃべったりできなかったと思う。面接で無理でしょって。

私小学校の5年生のときに合唱部にはいって。6年生のときに転校しちゃうんだけど、転校しても合唱部は行って、中学でもは行って。体育会系でもないのに、朝練昼練放課後練とあって、夏休みもビッチリ練習してという生活で。でもそれがすごく楽しくて。小学校の低学年くらい、部活はいる前まではすごいおとなしくって、めっちゃ引込み思案だったんです。それが部活やるようになってしゃべるようになって。あと運動できなかったんですけど、すごい腹筋とかよくやって。中学校で背が伸びたんですけど、小学校のときは超ちびで。すごい細くて体力なくて。筋肉系というか腹筋とかそういうのでできなかったのに、合唱部はじめてから腹筋100回くらいできるようになってすごい身体もかわったんです。体育会系じゃないのに、すごいやらされたんです、こういうのとか（実演してみせる）。

木「もしかして現在の身体能力、ダンサーとしてのそれは既にそこでしこまれていたとか」

合唱部は行っていなかったら踊っていなかったと思う。（笑）なにがどうなってこうなったのかはわからないんですけども。

私が一番最初に外に出たというかんじ。窓を開いたという感じが合唱部にはいったということだったんです。ものすごい音痴だったから歌をやりたいという気持ちもなかったんだけど、5年生のときに担任ではない先生に「合唱部にはいりなさい」といわれたんですよ。「いい声だからはいりなさい」って。子供ながらにうれしかったんですよ。高校は合唱部なかったからはいれなかったけれどずっとやってきて。その先生には今思えば感謝だなと。些細な一言なんですけど。

木「確かに声がよいですね。役者さんとしても通りやすいいい声だなと思います。」

学校＝部活動なかんじです。

木「合唱合唱ときて演劇とかダンスにかわっちゃったのってなんですか？」

演劇部は一度もあったことがなくて、在校していた学校に。だから興味もなかったし。田舎だったし、見る機会もない。ダンスにいたっては考えたことすらなかった。なので演劇とダンスについては二十歳をすぎてからで。学校の体育からはなれてすごい開放された感じになって。そうやってみたら逆に身体動かさないとだめだと思って。その頃はジャズダンスが主流で、コンテンポラリーとかあまりなくて。友達につきあってお稽古場にいったんです。そしたらそこでみんなで腹筋とかしてて。あたしこれならできる！と。（笑）

そんな勘違いからはじめは週1くらいからはじめて。でも超できなくて。振りなんて覚えたことないし、バーに脚あがなんくらい固かったんですよ。でもできないんだけど、すごいハマってしまっ。行く時は行きたくないんですよ。つらいし。だけど終わったときの身体が温まって気持ちも開かれているあの感覚が忘れられなくて、今は行きたくないけど行ったらきっと楽しくなるとそう思っはじめて、週1が週2になり、週3になり、毎日になり。20代はジャズダンス。演劇とダンスはほぼ同時期にはじめて、演劇をやっているあまりにも動けないことに気がついてダンスをはじめたのでした。20代は会社勤めもしてて。

木「全て今につながっていると。学校で合唱にであってなかったらどうなっていたんでしょう。はじめて外に自分を出せたとき、自分がひらけたのが学校だったんですね。先ほどのストリートダンスもそうですよね」

「時代は少しちがうけれど、その小学校の入学式があったから、今がある。そういう場所なのかもしれないですね。学校って」

「今その話をきいてて、私一応体育の教員なもので、体育の弊害みたいなものを感じました。」

私ダンスをはじめて、身体動かすの嫌いじゃなかったんだと言うことに気がつきました。体育の授業苦手で。球技とか痛いし（ボールに）当たりたくないし。

木「私もどっちかという体育苦手だった口です。体育教員なっちゃったけれど体育は苦手。（笑）」

私得意（笑）。体育とか、休み時間とか授業じゃないところが楽しい。夏休みとか春休みとか。学校はちょっと我慢というか、正直。それを乗り越えたら休みがあるとか給食があるとか、そんな感じだったな。

木「学校という授業のイメージがあるけれど、例えば友達と話す休み時間とかお昼とか、部活とかそういうのだけで持ちこたえていたところもある。」

帰りに寄り道して帰るとか（あーと同意する声）

木「それも書いときましょ、ほんとは行きたくないとかそういうのもあり」

短大のときに保健体育コースにいったので、好きなことができて、部活も創作舞踊だったんですが、好きなことができて、楽しく過ごせたけれども。

木「ふと思うと自分の好きなことを続けてこれている人たちなんですね、皆さん。完全にそれがお金を稼ぐすべということではないかもしれないけれど、自分の好きなことをやるために仕事も並列

しつづつ続けて(こられて)いる。ある意味すごくレアな(珍しい)グループなのかもしれません。」  
「実は9時を過ぎてしましまして、明日もお仕事ですよ。今日はこの辺でおしまいにしましょうか。またあとで思いついたことなどあれば明日以降付け加えていただいて。時間があればお茶などいれるんですが、、一度ここで区切りましょう。ありがとうございました。」

21:13 ワーク終了後、書きかけの付箋をかいていく

書きながら学校思い出話をつづく。

小学校の時リコーダーが好きで、毎日吹きながら帰ったこと。

合唱の時腹バンってたたかれたりした→課題曲なに?など合唱モードで盛り上がる。札幌は合唱部活動のレベルが高いらしい(北海道の他の地域に比べて)

着替えたりしながらも話しは止まらず。

終了後ということで映像、録音記録とにもないものの、たまたま教員家庭に育ったGさん、Fさんがそれぞれ教員であるがゆえの子育てに対するこだわりがあったという話を伺う。Gさんが大学進学後しばらくぶりに家に帰ったら家が雪山に埋もれていて、必死で探した話しは非常に印象的であった。(8日撮影時にもお話下さっています。)

21:50 ごろ 終了

Amanogawa プロジェクト@札幌 2015.03.05 (木) 午前グループ (10:00-12:00)

参加者：A、B、C、D、E

スタッフ：木野、中川

場所：あけぼのアート&コミュニティセンター 12号室及びセンター内各所

今日は毛布(天神山さんよりお借りしました)を二枚に増やし、そのうえで皆ごろごろしたり、足をもみながらはじまるのを待つ。木野ズボンを忘れてしまい、パーカーでスカートを作る。

10:03 Aさん、Bさんが遅れて到着、急いで合流してもらおう。

イヤー、昨日おそくなっちゃって、、、

木「稽古ですか？」

そうそう、普段ここでやったあと、7時くらいかな仕事終わったメンバーが集まってきて稽古してるんだよ。

木「私たちの夜の会と同じですね、おつかれさまです〜」

10:05 ワークA

2人組の立って行うマッサージ。今までくんでいない人とくむように促す。

ワーク中に「実は肩こりがひどくて」という訴えがでてきたため、急遽肩こりほぐし運動を追加(横にねて腕をまわす運動)。

すごい肩軽くなったー

これなら一人でもできそう

朝起きてやったら目が覚めそう

おおむね好評な様子。

一般の方、高齢の方などそれぞれの身体に合わせてできることや、身体が柔らかすぎてケガをしやすく筋トレが必要なタイプの人もあることなどを話す。

木「自分の身体を知ることが大切。左右差は少しずつ調整していきましょう」

10:42 ワークB ロールダウン、ロールアップのおさらい

毛布を移動、広く使って、一人ずつで行う。床まで寝るのではなく種になるところまで行って戻ってくる。速度が人によりかなり異なる。特にEさんは膝でしゃがむのがつらそう。

木「どうでした？昨日と比べて」

だんだんだんだん朽ち落ちていって、そして水がね、すーっちはいっていって。こうやって水がゆっくりあがってくる感じなんだよ(実演しながら説明)。

木「それは大事かもしれませんね。木の話しを昨日したからかもしれないですが、こうやって水があがってくるということは身体の質感もかわっていくということですよ？あがっていくごとに水モードの身体になると。いいですね。やっていたときに感じたことがそれぞれ言葉にできると面白いと思うんです。」

背骨を意識してあがってくるのができた気がします！

木「お！それいいですね。大事ですね」

なんか今日違う！という

木「背骨一本一本あがってくる感じっていうのはどう？感じられる？」

そこまではまだ達してないですけど、、、でもなんか。

木「一個ずつというのは難しいかもしれないけれど、なんかわかれているというか、解剖図みたいな、わかるかな？とろろろろろってあがっていく感じがつかめると、やりやすくなっていくと思います。技術的にもね。」

こうなって(しゃがんだ時)おきあがりたくないなって。一番最後頭おこすの大変でした。

疲れてんのかなあ、寝起きだからとか(参加者みんながぼろぼろいいあう)

寝起き30分で家でたからかなあ。。(笑)

木「朝クラスだからねー」

「いい忘れていたんですけど、足先とかあまり私いっていなかったのですが。この話したかもしれませんが、私こうやって(足をとじて立っているところから)しゃがむのできないんです。そんなこともあって、別に足をそろえる必要はないし、ダンスではパラレルと言うのですが、肩幅に開いて足の向きをまっすぐにしてこれが普通で基本形だから覚えなさいと練習する足なのですが、必ずしもそうでなくてもいいと思います。足を少しひろげてもいいし、足先ちょっと開いてもいいし。ただ、開きすぎるところ(ヤンキー座りのように)になってしまう、、、(笑)。気にする人は気にするので。ダンスの立ち方ってこんなですけど(1番ポジションで立つ)、普通の人こういう人い

ないでしょ？だからあんたダンスやってるでしょってすぐバレる。」

あたし、そうなっちゃいます。

木「でも確かにこの1番の足ってちょっと普通じゃない、ヘンな足で。油断すると私も開いていたりする。でもこの会については気にしません。」

身体のゆすり、スィング系の動き（全身、手、足）などで身体をほぐす

#### 10:57 ワークD 大切なもの①

ウォームアップのワークの延長上で丸めた靴下を手のひらにのせて落とさないように動かす（片手ずつ、両手、その場で）

いつの間にか握ってしまい、笑いが起きる。肩に頼らず腰や膝をつかって大きく動かすように工夫していく。グラスを1つ選ぶ→マイグラスとして覚える。（グラスは東京より持参、凡そ20個形がひとつひとつ違う）グラスをもって同じように動く。グラスにはろうそく（火はついていない）がはいっている。グラスは握っていても、ろうそくが落ちてくるので、気をつけて。

難しいー

右はいけるけど、左はつらいー（靴下のときもそうだった）

#### 11:05 話し合い

身体こわばっちゃって、すごく。落とせないのが大変。

すごく緊張しちゃって。

木「みんな緊張してましたね、動きが固くなるし（皆うなづく）例えばこれが大事なものを、落とすてはいけなくなったらかわりますね、明らかに。」

手に汗かいちゃう。

脚開いて、腰を使って、、、

木「手をかばうように？」

（うなづく）疲れた。

集中力は全然違いますね、靴下と。うおーって。

重さとか。グラスの。グラス持った時、手にすっとなついていて、身体全体が動くという感じがします。今、身体がかばってくれるという話がありましたけど、そういう身体全身使っている感じがします。

木「なるほど。身体の質が変わるといのはさっきの木と水の話と一緒に、モノによってもかわるし、意識でもかわるし、些細なことなのだけれど、映像見ると確実に違うみたいなものなんですよね。」

「このグラスをマイグラスとして覚えておいていただいて、次回以降もグラスを使うときはこれにしようとおもいます。」

#### 11:07 ワークE 私の好きな場所

木「今から少し違うことをします。あけぼの（アート&コミュニティセンター）のこの空間全部を使って映像を撮りましょうと話していますが、自分の好きな場所を探してきてもらおうと思っています。体育館は他に貸し出しています（なので使えません）、1階の交流室といって給食の部屋があるんですよ、それと音楽室といってピアノがあるお部屋も一般の方が使っていて難しいんですけど、例えば廊下とか階段、トイレとか、それぞれの場所、あと図書室はカギをかりなければいけないのですが使えます。様々なところをパパパとみてきていただいて、「わたしここがいいなー」とおもう場所をちょっと見つけてきていただきたいんです。あとでその場所をみんなに、教えるため、案内してください。5分くらいで。靴下などはいてあたたかい格好をしていてくださいね。ここはあたたかいけれど、外は寒いので。グラスはおいていっても大丈夫です。」

木野は各自のグラスに名前をつけ、誰のグラスかわかるようにする。5分後（11:15）までに戻るようお願いする。各自学校内へ散らばり、中川さんはそれを追っていく。

先に戻ってきた人たちは手持ち無沙汰でなんとなく話し始める。

面白いですね。この辺、町並みが郊外と全然違いますね。

木「（なぜここだったのか尋ねられて）学校というのが面白いんじゃないかと思って。学校で撮影できる場所って少ないんですよ。（あけぼのの方によれば）コスプレの人とかよく撮影なさっているそうです。しかも札幌市外とか遠くから「学校が使いたい」と。結構きれいで、しかもこれだけいろんな場所が使えるところは少ないんです。」

2カ所あるはずです。こことあとすすきののはじの方に、なんだっけ？

星園じゃない？

あ、それかも

などと話しているところに最後の人がかえってくる。

おかえりー、おかえりなさいませー。

11:19 マイグラスをもって各自の選んだ場所へ移動していく。一番上の階の人から順に。

それぞれの場所にみんなでいって、撮影をする。ろうそくのついた状態のグラスを持って、それぞれの場所をなぜ選んだのか、その場所にまつわる自身の経験を語ってもらう。

Gさん：屋上前の踊り場（入り口に近い方）

2人がけのソファがありそのはしにすわる。「はあーっ」とくつろぐ。

まず、外から見える風景が街中の学校ならではだと思って。さっき中川さんにも話したんですけど、こうやってみると（窓の方を見て）ホテルが見えたりとかノボテルがみえたりとか下町にちかいかもしいけれど、やっぱり郊外とは違うからと思いますね。あとこの机（ソファの横においてあった職員用机の引き出しをあける）何もはっていないんですよ。プロジェクターって書いてあるのに。学校の先生が張ったものをそのままにしているのかなって。ちょっと気になりました。あと札幌市備品とかがあって書いてあって、だからそのままにしてあるんですよ。昭和47年とか。年季はいつてる一って。

木「生まれてないんじゃない？」

全然生まれてないです。母親が多分3歳とか。それくらいじゃないですかね。あ、年ばれちゃう。

木「自分の小学校中学校高校くらいのときで、屋上みえているんですけど、なにか思い出とかありますか？」

中学の屋上が昼休み開放していたんですよ。で、昼休みになると給食食べたあとに、重いおなかゆらしながらなぜか皆鬼ごっこをはじめます。それがすごく楽しかったですね。

木「私も中学校のときに夜学校で鬼ごっこをするというのがはやっていました。どういう管理してただってなるからあまりいえないんですけど。」

制服もスカートだから。鬼ごっこしてる年じゃないし、そんな格好であそぶの？？て感じだったんですけど、楽しかったですよね。あと、入学してすぐの頃って何もかも新鮮じゃないですか。「屋上は入れるの！！遊びにいこうよ！！」みたいな感じで遊んだ記憶があります。

木「ありがとうございます」

Aさん：2階と3階の間の階段踊り場にあるロッカーの脇

僕は基本的にね隅っこが好きなんだよね。部屋の角。彼女（先ほど屋上で話してくれたGさん）がなんかさつきかくれんぼじゃなくてなんだっけ？（鬼ごっこですとの訂正あり）鬼ごっこね。僕なんか小さい頃かくれんぼしたけど、いつも鬼でね。昔はね6時くらいまで誰もみつけられなくてね。かくれんぼするの上手くてね、こういうところ（ロッカー）はいつたりするからみつけられない。で、ごはんだよーとかいってみんな帰っちゃう。（「ひとりどりのこされちゃう」の声）そう。

木「それはさみしいですね」

そう、ずっとさみしい。おっしくなってからずっとかくれんぼだからね、いないんだよ、友達が。昔はこんなよ、（いまは）おしゃべりだけど、ほんとに内気で。

木「なにがきっかけで」

芝居をするようになってからかなあ。ほんとに寡黙でね、教室でもいつも一番後ろに座って。10回くらいおやじの職業で転勤してるんだよ。だから友達できないしよ、教室の一番後ろの端っこのところで、数学の時間も物理の時間も自分は嫌だからいつも本よんで。数学なんかなんもできないけれども、昔は数学の時間に自分のよんだ本の訳の分からないのをつら（感想を）かくと70点とか80点とかくれたのよ、昔は。だから友達はできなかったしね。

（かわったのは）芝居を20歳くらいの時寺山（修司）に出会ってからね。

木「じゃあ学校を卒業してからですね」

そう。ほんとに高倉健になりたかったんだよ。（笑いが起こる）男は黙ってと思ってただけだけど、おしゃべりでおしゃべりで。人にしゃべらせない。あのねといつてもでもねって。（笑）でも原点はずみっこで。落ち着くの。今日は寒いけれどもね、隅っことはおちつく。ほんとにはこの中にね（ロッカーと壁の間に15cmほどの隙間がある）はいりたいんだけどね、でも狭くてちょっとさ。

木「昔の小さい身体だったらはいっていたかもしれない」

そうね。

木「ありがとうございます。」

（ろうそくを持って）一人でいるところを撮影。

この絵は葬式でつかえるな。（ぼつりとつぶやく）

Bさん：2階廊下（中央部分）

この場所を選んだのは今皆さんのいる位置（廊下のはし）から見た感じがよかったのと、今は冬だけれどあたたかくなったら日差しがはいってきて光の感じで空間がかわるんじゃないかなと。そういうなかでちょっと踊ってみたいなど。

普段は自分のアトリエも地下だし、劇場も閉塞感があるので、開放された空間がいいと思うんです。

木「自分がここで佇んでみるとしたらどういう感じで立ちたいですか？そのままでもいい？さっきの写真をとるときのように佇んでいる、どっち向きにいたいとかどこを見ていたいとか。座ったりしゃがんだりしていてもいいし。」

光の感じだとこんなかんじかな（と後ろ向きで振りかえるようなポーズをする）。

木「今窓際、そして教室の前の廊下にいるんですけど、廊下にまつわることとかがありますか？昔の記憶というか体験って。」

小学校の頃だったんですけど、廊下を走って。小学校の頃とかが廊下を走っちゃいけないんだけど、一度だけ走って、廊下に立たされたことがあって。それこそ夜思いついて学校中を3人ぐらいでほうきで掃いた。なんでそれをしたのかはよくわからないけれど、学校にはいつて学校中を掃いたっていう、廊下を。（皆で笑「3人で??」）3人か2人かわからない、

でも一人ではなくて。真っ暗だったのと、掃いているときは一人。他みんなそれぞれバラバラで掃いて。それで田舎の学校のわりには結構広くて。なんでそれをしたのかはわからないし、実際にはしてなくて、そういうことをした思い込みだけなのかもしれないけれど、なんか、私が掃いた場所を覚えているというか。

木「すごい印象的だったんでしょね」

そう、トイレが、今みたいにドアじゃなくて、トイレ自体が開放されているところで、はいつてすぐお手洗い場があって男女に別れているんだけど、ドアがないというか。個室になるまでドアがない。そのトイレのところからでた廊下と階段が私の担当だったの。

木「すごい細かく覚えている」

それは今でも時々思い出す。

木「その時一緒にやった子とか覚えていないんですか？」

覚えていない。何年生だったかも覚えていない。

木「でもその場所のことは覚えている。場所の力って大きいですね。ありがとうございます。」

中川「走りたいっていったので走ってもらいましょう。」「いま。」

廊下を往復して走ってもらう。(身体が見える面と、背中の中面両方でとるため)横へ曲がって階段の方へ抜けて戻る。

なんで廊下はしっちゃいけないうらさ？

え？危ないからじゃない？

人同士がぶつかるというか、教室からでてきた子とかがうわっ！って。小学校の頃って注意できていないから気がついたら振り返ってパンってけがさせちゃうとかあるんですよ。それを防ぐために廊下を走るな。

2人で立たされて、男の子と。しばらく立ってなさいっていわれて。その子が凄い機転がきく子というか「しーばーらーく」って行ってハイ終わり！みたいな。(皆笑う)しーばーらーくって、、、。凄い子がいた。でも誰かはわからない。

木「今廊下を走るときもちい？」

(笑いつつ) ちょっと緊張しましたね、みんなが見てるから。

木「なんかちょっと走るのはいいなって思いました。ちょっとまた後日みんなで走りましょうとかなるかもしれません。」

その後静止画を撮影する。

Eさん：3階水飲み場前のソファー

3人がけソファーに横たわる。ちょうど手すりが枕のようになっている。

さっきの上のところ(屋上前にある小さめのソファー)でも寝転べたんですけど、ソファーでゆったり横になれる、それがいいかなと思って。2階も見えてきたんですけど(2階にも水飲み場前に休憩スペースがある)一人がけで横になれなくて。特にここがいいのは、ここ小学校じゃないですか。小学校にこういうスペースないじゃないですか。新しく再生されたというのがわかりつつ、こういう風な卒業記念の美術品(当時の学生の顔の木彫りレリーフ)とか、廊下、階段に広がりがあるっていいなあって。そんなところで寝そべれるのはちょっと贅沢かなと。この年になって小学校の景色を見れるのはうれしいな—というかんじがしますね。

木「たまたまなんですけど、そこ水飲み場なんですけれど、水飲み場がらみの思い出話みたいなものはなにか思いつくものありますか？(困った様子)ソファーでもいいですが、卒業記念の絵とか。昔つくったりしませんでした？」

ああ、つくりました、つくりました。スタンドグラスとこういう木彫りの小学校6年間の思い出みたいなものを作って。でも僕、友達とよく遊んだりとかなくて。僕も内向きの少年だったので、結局かいたのが通学路の絵だったりして。なんかちょっとさみしい小学6年間だったかなと覚えています。

木「内向きな感じにはみえないですけどね(皆で笑)さっきのAさんもそうですね、どこがですか？ってかんじですけどね。」

でも友達少ないんですよ、、、。

木「まあまあ、ここで増やすということで。」

はい。

木「こういうものって作りましたね。今も自分の小学校に残っているんでしょうか。今もいったりとかします？」

小学校には選挙でいきますね(まわりからもああ—という納得の声)選挙会場になっているので。でも上の階とかのぼれなくて結局体育館とか見て回るだけでさみしいんですけど、でも着々とかわっていくんだなって。自分からしたら体育館は小さくなっているし、一方でいろいろなポスターとかそういうのはかわってなくて。

木「この小学校の関係者じゃないけれど、なにか懐かしい感じとかありますね。はい。ありがとうございました。そのまま寝ちゃいそうですが起きてきてくださいね。」

Dさん：1階図書室

図書室は通常しまっているため職員の方にカギを開けてもらう。

木「私ここに立っていたいなとか座っていたいなという場所はある？椅子とかも使っているの？」

図書室真ん中にある机のところにある椅子に座ってスタート。

えっと、なんかいろいろぐるぐる回ってみてたんですけど、図書室があるってきいて、行ってみたいと思って、あけて



もらってきたんですけれど。あたし、中学校と高校でだいぶ図書室にいるのが好きで、高校のときは図書館もやっていて、なんか本とかかわるのがすごく好きな中高生時代を送っていて、それで図書室とか図書館には思い入れがあるんです。図書室でほんとは静かにしてなきゃいけないんですけど、お話ししたりとか、すごい楽しかったの覚えています。こんな感じで座って本を読んだりとか、貸し出しのこともかもやったりしていたので。みんなでしゃべりながら作業したなというのをすごく覚えています。

なんかあと絵本とか見ていたんですけれど、(立ち上がって本を手取る) これ「もちもちの木」が、なんか結構衝撃的だったというか。小学校の頃読んで。なんか演劇もみたんじゃないかと。曖昧なんですけれどこれを見つけて。(これを読んだの) ちっちゃいときだったんで衝撃的だったというか。とても印象に残っています。

本とかずらっと並んでいるの、タイトルとかみるの好きで。ずっとみていて楽しいです。本屋さんとかもいいんですけど、本屋さんだと手に取ったり簡単にできなかつたりとか、すぐ買うわけじゃないからなかなかできないんですけど、こういう貸してくれるところだったらいくらでもみててもおこられないから、いいかなあと。すきです。はい。

木「ありがとうございます。図書館って思い入れありますよね。図書委員とかやっていると特にそうだし。(静止画をとろうとしている準備中) 昔お世話になった先生のところはその切り絵の絵本のシリーズでダンスの作品を作っていて、確かに衝撃的というか、ヘビーな話しですよ(注農村部の飢饉の話などがでてくる)。)

絵本の最後のところを読んでもらい、その様子を録画する。

(Cさん) 関係ないけれど母親が高校生の頃このもちもちの木の主役の男の子の役をやったんです。小学生のときにこんな本があるのよっていわれた記憶があります。

71年か初版、、、。(といいながら本棚に絵本を返す)

木「ありがとうございました！では上に一回戻りましょう！」

11:54 教室へ全員戻ってくる。

木「おつかれさまでした」

毛布を広げ一休み。

木「今おはなしいただいたエピソードのキーワード的なものを書いていただいてもいいでしょうか。

(付箋とペンを渡す) それ以外でも思いつくものがあれば何枚でも書いていただいて。」

皆書くことに没頭してしまう。その間にお茶の用意をはじめ。

木「学校って、なにか自分が卒業した学校ではなくとも学校とわかるものがありますよね。懐かしさというのはどこで感じるのでしょうか？」

あのかけるやつ(壁際にあるコートなどをかけるようになっているフックと棚)が。小学校にはありました。中学にはあったかな？あれぐらい低いと幼稚園みたいなイメージも。

木「学生が多いとこの数じゃたりなくて、ロッカーだったりとか。みんな持っている共通して持っている記憶イメージというのがあって、それがなんかすごい面白いなあとと思って。」

(なんか変だよと皆に指摘されている様子)

勉強の勉強って??(漢字を尋ねる)

それは違う(と笑、でも教えたつもりが間違っていて、それも違う！とまた大爆笑。)

魂と勉強の勉強は一緒??いや違うなどいろいろな言い合う。

木「今日学校にいた頃はどちらかというと引っ込み思案でという話しがでてきたじゃないですか？たまたま昨日の夜あった方々の中にもそういう方がいて高校は行ってダンスは始めるまで誰とも話さなかったとか、親に友達を作っちゃ行けませんと言われて学校では仲良くしているんだけど、親の前ではおとなしくしていたとか。表現活動をしていたりやりたくてきている人たちのんだけど、学校にいた頃はむしろしゃべっていなかったとかそういう人が多いのではないかという気がしたのですが、その反動ですかね？反動で話すようになったんですかね？」

ぼくは絵ばっかかかっていたからね。絵は小学校の3年生くらいから描いてて、美大にいかうとしてね。絵を描いていたからね、非行に走らなかつたんだよね。手先は器用でね、昔はさ、手こうやってかざすとモノ消えるんだよね。こうやったらね、あれって(ポケットの中に収まっている)

木「それじゃ放映できないですね(笑)」

お父さんおまわりさんだったからね、小さいときにはこんなに。

今はしないけれど、昔はカギとかピンひとつでピンってあけちゃえるの。今のカギはね難しいからできないんだけどね、昔はさ。だから小学校中学校高校とさ、絵の先生だけだね(次の台詞で消えてしまう。おそらく、「認めてくれてたの」)。

今日差し入れが、

私も！

木「じゃあ、お菓子出しましょうか。お茶入れようとしているんですが。寒かったし暖まれるようにと思って。お時間ない方はここで大丈夫です。(差し入れに対し)ありがとうございます。」

お茶を入れ始める。紅茶緑茶ミントどれにしましょうなどとやりとり。

木「(話しを戻して) なにか、どっかのきっかけというかなにかがあつて、反動ではないけれど、

表現の方向にあって、一気に開花というか開いた、。それは面白いと思います。」

僕らが小さい頃はそうだけど、幼少の頃からダンスやってたの？

木「はじめにダンスを始めたのは3歳くらいで覚えがないくらいで、ピンクレディが流行っていた頃で。N先生のところ、N創作舞踊研究所にはじめから家が近所であったのがはじまりでした。なのでもちもちの木ではないですが、花さき山とか火の鳥とかそれが幼稚園の時とか小学校のときに踊らされていて。

子供のコースにいったの？小さい時？

木「小さい時から。で、一回親の転勤で東京に行っていたときがあって戻ったときにはみんな上手くなっちゃって、N節にはいれなかったんです。で、ちょっと離れてしまって。」

Mさん（木野の大学の先輩）もNさんだったかね。Mさんにあって身体表現っていうの？面白いと思ったんだよね。

木「Mさんははいてないですね。Mさんではない友人が同期にいて今は愛知にいます。」

「N先生のカリスマ性みたいなものがあるってあそこは成り立っていて、そこに入れない子もいて、小さい頃一緒に踊っていた子たちは中学高校くらいでバタバタやめてしまった。」

道場ばいものね。

木「初心者から専科まで一般もABCってあってだんだんあがっていくみたいな。すごくシステムがぴしっとしていて、作品もN先生がいて、あとはみなぴたっとそろえてってなっていて、そのぴたっとそろえるのができないタイプの人はずごくつらい。ここにいてどうなるのかなと思っていて頃に演劇とかはじめてしまう。高校演劇をしていた時代があって、中学のときは生徒会で高校のときは演劇でN先生のところからはなれてしまったんです。大学はいるときにダンスやり直したいなと思ったときにここでは難しいと思って東京の大学へでたんです。」

演劇やってたんだ。

木「はい。なのでTくん（共通の知人）と同期とか。学校違うんですけどね。（石狩支部には）合同公演というのがあって、そこで大失敗をしてしまって、台詞覚えの悪さを悟り、そこから演劇は離れました。」

なにをしたの？

「いや、すごい台詞すつとばかして。言葉を覚えるのも大変だし、言葉をそのまま正確に言うという事自体が難しい。こういう内容を言うくらいはできるんですけど。だから言葉に対するアンテナが弱いというか。」

振付とかは？

「振付も覚えるの苦手です。でも身体にいれてしまえば何とかなる。台詞覚えなきゃ行けないダンス作品を作ったときには動きの方を覚えて、この動きをしたらこの台詞を言うみたいと思わせるようにしたんです。」

身体の人なんだね

木「はい、私は身体の方が強いかなあとと思っています。」

「言葉を使わないから見ている人は抽象度がまして想像できていいよねというのはあるんですけど、でも言葉で伝えられることって大きいんですよね。こうやってイメージの話などしたときに、皆で共通のイメージを持つためには言葉の力を利用しないと難しいなとは思っていて。昔演劇をしていたからではないけれど、言葉とかテキストを使うのは意識しています。」

身体言語だからね。

人間は言葉だなんて言葉やっているとね、言葉ってなんて無意味で、伝わらないなって思うんだよ。で、一回封印してね、詩劇とかするでしょ、そうするとまた帰ってくるの。モノをきちっと伝える作業がやっぱり大事だなと。一回こうして封鎖というか封印してみると、僕ら言葉を使っている職業だと言葉が大事ということに戻ってくるんだよね。

木野さんの創作はどのようになされているの？

木「いろんなアプローチをしています。毎回かわります。例えば Edge とか箱女、箱女ってあのロッカーみたいなものにはあってでこないで踊る作品があるんですけど、ロッカーのなかで踊るイメージというか絵みたいなものがビジュアルでうかんて。他の作品ですごい狭いところで踊るシーンがあったのでその過程で「これ（箱）ちょうどいいんじゃない？」とおもってはじめてのがきっかけだったとか。俗にいう身体感覚とか、イメージ、絵の感覚できているものと。逆に自分が生まれてきてからの人生を自己紹介で話しながら踊るという作品もあって。そういうものは台詞もあるんです。なので、その作品によって作り方も変わります。」

「たまたまというか自分が演劇をやっていたということもあってなのか、そういう些細な動きから、物語を見つけ出すというのが私は結構得意みたいで。踊っていてもでてくるんです。例えば二人が同時に振り返った、それだけでも何かでてくる。それを見つけ出していく、それが私は楽しい。」

「ソロ作品だと別にいらないんですけど、こういうグルーブワークとか一緒に何かを作るというときには言葉にしていく作業は不可欠だと思います。」

「学校というときに20代の人の感じる学校と60代の人の感じる学校があって、少しずつ違うところと、共通して持っているところとあって。何となく「ここへ来るとこういう気がするよね」とかそういうところって普遍性というか例えばこれを他の人が見ても感じれることとかかわること、それはものすごくキーになるのではないかという。私だけの個人史ではなく、半分ドキュメン

面白いねえ

タリーみたいな半分お芝居ぽい、でもわかるみたいな。それが今私がやっていることなんです。」

「演劇とダンスを両方やってきちゃったから。高校演劇のあと、大学卒業して1年目のときに「やっぱり演劇」とかダンスでくじけかけたときに思った時代があって、今かかわっている SPAC（静岡舞台芸術センター）の影響もあると思います。当時舞台にはでていないんですけど。学校教員はじめた1年目で（皆に驚かれる）保健体育の教員、非常勤講師をしていたんです。」

以下録画が途切れてしまう。

AさんはSPACの創設者鈴木忠志さん時代をよく知っているそうで、現在も鈴木メソッドを中心に稽古を行っているのだそう。演劇の話しに輪がひろがりました。

午前ワーク終了後、15日の発表の場、レッドベリースタジオ（琴似）へと伺い、下見、プロジェクターなどの確認を行う。

Amanogawa プロジェクト@札幌 2015.03.05 (木) 午後グループ (19:00-21:00)

参加者 : F、H、J

スタッフ : 木野、中川

場所 : あけぼのアート&コミュニティセンター 12号室、及びセンター内各所

19:10 皆さんお仕事帰りということと昨日来れなかったJさんの遅れもあって少し遅めのスタートとなる。

Jさんへ撮影などの説明、中川さんの自己紹介など。(4日参照)

木「中川さん北海道はじめてで何見ても感動しているんですけど、私たちが慣れてる北海道の景色のようなものを逆に外からみて、北海道だけじゃない?とかポロポロ言ってくれています。家のつくりが違うとか、空の色が違うとか、夕暮れがなんでオレンジじゃなくて青っぽいんだとか。そういうことぼろぼろと言ってくれるんで、思いついたときに話してみてください。出来上がる映像も札幌市民だととらないような映像になるのではないかなと。札幌の人が考える札幌との違いというか。皆さんの札幌の好きなどころを書いてもらったんですけども、違う発見していたりとか。」

円になって座る。

「Jさんと、このお二人はご存知ですか？」

ここは知ってるけれど、ここは、、、

「では足の裏もみながら話しましょうか。」

自己紹介やJさんとながりのある木野妹の話しながら足をほぐしていく。Jさんはとある人に踊りのワークショップだからやめといた方がいいよといわれていたらしい。

木「今回のワークショップはダンスの要素を使うんですが、ダンスワークショップとは(チラシなどにも)書いていないんです。ダンスの思想を使いつつ、自分のことを再発見していくというテーマになっています。(でも踊れないとっていわれちゃってとの言葉に)よく踊れる人、踊れない人っていうじゃないですか。でも踊れるって何?ってことなんです。踊れないって何?どこから踊れないって(いうの)?踊りってどこからが踊りなんでしょう?って」

そもそも踊りってなんだろう?

木「私は昔から演劇とかダンスとかわけますけれど、その差はあまりないんじゃないかと思ってきました。結局見るのは、その人を見る。例えばそこにいるJさんを見る、Hさんを見る。ダンスをみようが何だろうが結局残るのはJさん。そこで踊れるか踊れないかはあまり考えなくていいんじゃないかなって。私はそういう感じ方をしています。もちろんその中で高いジャンプ飛べます!みたいな人がいていい。そういう人は必要かもしれないけれど、そうじゃない表現の仕方はいくらでもある。このプロジェクトはもちろんそういうダンサーさん目指している子たちもいるかもしれないけれど、普段の生活においてもその人がきちんと丁寧に意識を持っていると見え方も感じ方も変わるんじゃないか、それを丁寧にやっていくとしたら踊りになっていくのではないかと(考えてやっています)。例えばここにある足の置き方かもしれないし。そういうものをひとつひとつ意識していくだけで、それこそ立っている姿勢だけで、激しい動きをしなくても踊りになっていくのではないかと、と。なので、踊りを踊ったことのない人にもぜひ参加してほしいといういい方をしていたんです。」

「もちろん踊っている人が参加してもいろいろ発見があるだろうし。でも僕は踊れない部門でとか考えないでほしいです。境目を作らないでほしいなと思うんです。」

やった!

木「そうなんです。なんか自分ではできないからとか自分は踊りやったことないとかこうやってひいていく人ってたくさんいて、すごい問題だと思っています。」

反対足に移り他のメンバーの自己紹介を。

19:23 ワークA

2人組の寝るところからのマッサージ

Jさんが行っていない分を今日行うため、昨日の内容に準じて行う。他の人にとってはおさらいをかねて。

Hさんの両肩の左右差が気にかかったので、肩のストレッチ(四つん這いからの背中のはしの応用)を追加。本人も左右差を自覚した。

木「ダンスの人は右だけよく使う傾向があって、右側が柔らかくなってしまっている(左右差がある)人が多いんです。左右の差がなくなってほしいんだけど。ストレッチなどしながら弱い方を長くおこなったりして調整します。」

昨日できなかったシェイクハンズを今日行ってみる。肩周りのほぐし。

手が長くなったような気がします。

木「先ほどのワークは肩甲骨のところを動かしています。肩から先を普通手と考えるけれど、ダンスやバレエの世界では胸から手(腕)、背中から手(腕)といいます。手羽先っていうでしょ(笑)」

手がつながっていることに興味を持つ参加者のために追加でバレエのポールドブラの形を作る。長い手にしていくことと、腕の重さを確認する。

すぐくつらい人とそうでもなく頷を傾げる人がいる。

木「筋肉で支えられる人はいいんですが、筋肉ない人（女性など）のほうがこれはわかりやすい。で、これを支えているのが腕のあたりだけではなく脇とか背中とか身体周り全部なんです。」

（終わったとたん）重たいー。

木「みんな忘れているけれど手も重たいし、頭も重たいし、足も重たい。全て物質だから重さがあるんです。それをよっこいしょよっこいしょって動かしてる。脱力しているとその重さが少し軽く感じられる。」

人を持ち上げるときに気絶している人を持ち上げるの重たいじゃないですか。それと一緒にですかね。

木「意識の仕方にもよります。昨日やったんですよ。では昨日やったことを説明しますね。」

20:02 ワーク C 水の身体、木の身体

昨日行ったワークをかいつままで説明。（4日参照）木野が例となって皆さんに動かしてもらおう。

水のときはぐにやぐにやぐにやーってなっちゃうけれど、木のときはなんか関節が違う。

木「モノになるとなにか固いし、重いし、見た目も違う。」

死後硬直。

あーそれわかるかもしれない。なんか水はすべって行ってすぐ床について動くんだけど、木のときは面ってというか。ある形のものってかんじ。

木「死後硬直の話が出ていたけれども。木ってモノでしょ。水と違って液状だから動いていくし、例えばなんかクラゲとか。例えば人間自体もたくさん水を含んでいる。すごく生命的なイメージがある。水は無機質ではなるけれどまだ生命力がある。でも木は完全に（こんこんとたく）。その差が見てかわる。というのを昨日おはなしていました。」

木「ダンスって言うと質っていうのを忘れてしまうんです。一生懸命がんばって踊らなきゃ！って。でもすごく大事なこと。もしかしたらそういうことだけで表現が成り立つんじゃないか。あえてアタシ！って（ポーズを作る）やらなくても、その居方だけでみせれるんじゃないか。」

毛布を片付けて次のワークへとはいる。

20:10 ワーク B' ロールダウン、ロールアップ、身体のモノ化

Bの応用として、おこされた人は誰かをおこし入れ替わる。ロールダウンで床にねるところまで一人だけで行ってみる。Jさんははじめてなので、木野がサポートする。崩れ落ちたときは木になっている状態。

やってみての感想をあげてもらおう。

崩れたら木になるんですか？

木「最初から木の人もありますよ。最初から木で、朽ちて崩れ落ちて行って、最後は土になったみたいな人もいます。」

最初から木でした。

木「崩れたら？」

崩れたら倒木。

木「なるほど。木は木のままなのですね。他の人が崩れているのみでどうでしたか？ちゃんと木になっていました？立ち上がって見たときにほかの人が見えるので、自分がどのようになっているのか知るために入れ替わってもらいました。」

「2回目やってどうでした？おもいつくことは？」

立ち上がる時緊張感がありました。なにか冷たい空気みたいなのがあって。

止まっているものの中で自分だけが動くっていうのが、なんと言葉で表現したらいいのかわかんないんだけど、冷たい空気というか。

木「すごい変な感じとあったけれど、変な感じなんでしょうね。冷たいというか、不思議な。」

そう。なんか違和感というか。絵の中で自分だけ動いているみたい。

木「例えばここで私たちがいなくて一人取り残されていて、みんな外に行った状態だったというときと、私たちがこの木の状態でいるのだけど動きませんの状態とではどう（ちがう）？」

それは明らかに違う。自分しか動いていない状態は変わらなくても一人っきりでここにいるんだったら、なんかすごい、気楽にいると思う。そのことに何の疑問も持たないでいると思うんだけど。周りで動かない人がいる中で自分だけがいると、緊張感みたいなものがあって、一人動いていることに対し違和感を感じると思う。

木「他の人たちがいるからこそ、なのですね。」

「今おこすときに「起きてください、他の人起こすんですよって説明を付けてくれたんですが、ダンスだとかやって口で説明するのはなんなので、お約束ではなくその人にちゃんと伝える方法を考えなきゃいけないと思うんですよ。この人を起こしてあげるにはどういったらいいでしょう。言葉を使わないで、でも起きるんだってわかるには？」

朝日かな

「朝日みせてあげる！（笑）」

「この人起こそうと思ったときには何か理由があるのでしょうか。その人の気配を感じたとか、ポーズがすごくつらそうとか（笑）。なにかあるのでしょうか」

僕は円で回ってきてそうかと思った。

「でも（今日は人数が少ないとはいえ）4人いて、一人起こしてくれた人だとしても2択じゃないですか。どっちを起こそう？」

円を順繰りにまわってきたので。

何となく順番、、、。

今人数少ないからやっぱり順番みたいな感じになってるけれど（笑）でもたくさん人がいて誰かを起こすってなったら、、、（迷っている）

僕はできるだけ遠くの人を起こすと思う。ひねくれているから。

木「？ひねくれてますか？」

「今回これはおいておいて、次回人数が多いときにやってみましょう。やってみたらこの人に特別なセンスが、とか見つけるかもしれない。」

木野さんが土になったときに気配がなかったです。

木「どうも。（少し照れる）気配ってなんでしょうね。」

ここに「なんかいる」みたいなもの。

木「よく軍隊とか自衛隊の匍匐前進とか気配消せ！とか忍者の修行で「敵だ！」「ハッ」みたいなその気配？」

何がといわれるとわからないのですが、存在があまりなかった。

木「それがなんだろというのがわからなくとも、答えはなくとも考えてみてほしいです。存在ってなんだろ？って。存在をつくるものってなんだろ？って。」

何だろう、生きてるってことかな

木「私まだ死んでないから（笑）でもその俗にいう気配っていうのは何かというのは面白いヒントかもしれません。逆にその気配を出そうとしたらどうしたらいいだろうとかか」

結構それって演劇とかやっていても考えることかも。今のだと何かに同化しようとするということで気配の有る無しがでるけれど。

木「たとえば舞台上で役者さんがずらっと並んでいてこの人存在感あるな」

なんか目立っちゃう人っていますね。

木「それ、なんでしょうね。」

最近私人形劇にかかわっていて、人形劇って人形の方をみせたくって人間は黒子なんです。そうなんですけどすごく上手な人形遣いは顔を隠してなくても人形の方に目がいくんですよ。気配は人形が持っているの。でもあまり上手じゃない人は人間が見えちゃうんです。人形より。顔隠しているのに、気配がその人になっちゃうの。

それはこれにつながるのかわからないけれど、動きとか呼吸みたいなものなのかなあ。例えばその上手な黒子の人が人形と一緒に呼吸をして、人形の呼吸になっているからいいのかな。でもそれがバラバラで、自分のところに、、、でもどうなのかな。人形だとちょっと例が悪くて、人形が止まっているのにこっち（身体）が動いているとこっちが見えてしまうんですけど。

今ここで自分がじっとしていても意識が自分の方にあつたら気配になっちゃうのかな。木とか水とかは何かをイメージしていることで、自分のところとはなれていくということかな。

木「意識が離れていくというのが上手くできれば気配が消えていくという。でもここにあるとすると自分は自分だから消えない。」

見え方としてはそれほど差はないかもしれないけれど、頭で考えていると、その人のものがなにか見えるような気がする。何となく。

木「その気配の話っていうのは結構面白いかもしれないですね。役者さんとか存在感作るためにみんな一生懸命考えるけれど、気配を作り出す、なくすが自由にコントロールできるようになっただけで幅が広がるという気がします。」

なんかすごい気配がないというか、気がついたらすごい近くにいてびっくりした！みたいなありますよね。

木「気配をなくすというのと作り出す人はまた別かもしれない。なくせるというか両方できる人もいるけれど、ないままの人もいるしあるままの人もいる。いい役者さんとかはそれをコントロールする技をなんやかんやいって皆つけていらっしやるのではないのでしょうか。」

存在感というのとは違うのかもしれないです。今いったような気配っていうのは空気というか周りのものをゆらさないというかんじなのかな。むずかしい、課題ですね、、、。

ダンスだとなんか立ってるだけでも出してないと、立っているだけでも映えている男の人の話しとかされました。

木「でもそれはなにか人によってちがうから、動かなくても出し続けているというのがいいかどうかはわからない。そこは価値観がかなりかわってくる。」

生き物があると絶対何かの気配ってつづく（木「いきてたけどね、私（皆で笑）」）

赤ちゃんがいるとなにかエネルギーがすごい。ちっちゃいのになにかすごい目立つ。

（皆うなずく）

エネルギーを落とすみたいなのかもしれない。例えば呼吸もすごくゆっくりにしてあまり胸が動かないようにした状態。

木「生命力が落ちるんでしょうね、エネルギーというのは何かすごい言葉かも、ヒントですね」

じっとしてても漲った（みなぎった）状態でいるとたぶんその人がみえちゃう。

それって学校で目立たない人が、「あ、いた」みたいなものと同じですよ。あれ、いつからいたの、みたいな。

木「学校のそういう人の場合は自分でわざわざそうしているということではない。舞台上でそういう（役やシーンの）ときに変えることができるのはある種そういうことに気がつけるかどうかでは。」

「時間もかかってきてしまったので、そろそろ今日の課題に移りたいと思います。」

20:37 ワーク E 私の好きな場所

あたたかい格好をして学校内を探しにでてもらう。（午前の部参照）5分程度でこの場所が私は好きというところを探してきてくださいと指示。皆探しにでかける。

その間に木野は窓際にあつたろうそくたちに火をつけて電気を消してスタンバイする。

寒いー

なぜか外より寒いー

帰ってきた人から光を目にする。

木「本当の撮影の日は夕方くらいなのでこんな真っ暗ゾーンでこの明かりをみれないんですよ。これを見れるのは夜チームの特権」

写真とりたいな（と携帯をとりにいく）

木「でも写真あまりきれいにとれないんですよ。難しいの。光が弱いから。」

（後から戻ってきて）あーきれー、すごーい。

木「1個1個グラスの形が違うんです。朝の人たちも自分のグラスを選んだんです。さっき、この人起こそうと思ったのなんで？って話していたけれど、このグラスたちがならんで、私これだなあと思うのなんでだろう？という（のに近い）。これ好きだなとか。炎がゆれてて、ちりちりがんばってます！って感じですね。」

全員が戻ってきたところで、マイグラス、マイ灯を選んでもらう。

木「迷いますよね。私のこだわりこれ、みたいな決めると難しいですよ。」

3人みあってなかなかきめられない。

20:48 それぞれの場所へ皆をつれていって紹介してもらう。

Jさん：屋上前の踊り場（入り口に近い方）

Gさん（午前のグループ）と同じ場所だが、ソファではなく机の上に手を置いて立って外を見ているポーズ。

木「ここを選んだ理由ってありますか？」

だれも来なさそうだから。

木「来てほしくない？秘密の場所？小中高とか学校時代の思い出で誰も来ない場所とか？」

小学校のときに屋上であそびました。鬼ごっことか。

木「小学校とかあがれるんですね。」

ほんとはカギがかかっているんですけど、かかっていないときもあって、用務員さんがあけたりしてて。

木「え、それって忍び込んでいるというんじゃない？（一同笑）ま、時効だからね。」

いつもはあかないところがあいていたりすると結構面白い。

木「午前のクラスするときにもやっちゃいけないことって惹かれるよねって。学校にはたくさんある。

それって楽しいよねと。それがJさんにとっては屋上のイメージ、...」

そうですね。静かに過ごすんです。

佇んでいる写真をとらせてもらう。

Gさん：2階と3階の間の階段踊り場にあるロッカー

Aさん（午前のグループ）と同じ場所だが、はじめはロッカーに入るという。

そのためまず階段を上がってロッカーに入る→閉める→ロッカーの外へでていくという映像をとらせてもらう。しかしロッカーが小さく、金具が引っかかってしまって笑いが起こる。防寒のためジャンパーなどを着ているため仕方がない。再び火をつけなおし、佇む場所を探してみる。再度ロッカーの中に入ろうとしたがなかなか

うまくいがなく、最終的にロッカーの脇の手すりのようになっている部分にのぼり寄りかかりながら立つ形。  
木「ここを選んだ理由は？」

とにかく現実から隠れたい。

現実的なもので身をくるみながら、現実にとけ込みながら隠れたい。ロッカーで。

木「小中高の思い出で、ロッカーに関連したものはありますか？」

現実的ではないんですが、小中高と誰ともしゃべらず、テレビゲームばかりやってる人間でしたので、なんかまあ、そういうゲームでロッカーの中に隠れる、敵に見つかったらロッカーの中に隠れて潜んでれば「ああ、気のせいかな」と通り過ぎるみたいな。

木「テレビゲームのイメージなのですね。」

そういうことですね。

木「実際の小中高のロッカーに隠れるということをしたことは？」

なんか一回ありますね。合唱部中学でやっていて、一番先に来たんでロッカーに入って驚かそうみたいな。で、なんかぞろぞろきてでてくタイミングをのがして、あれ、いつでていこうかなみたいな（一同笑）。もりあがってるしな、みたいな。練習の間にいつの間にか出て行って、いつのまにかしれっとはいつてみたいな。

木「なかったことにした、ちょっと切ない話ですね。合唱部だったんですね。」

はい、中学の時。

木「わかりました。ありがとうございます。」

Fさん：屋上前の踊り場（入り口から遠い方）

Jさんの反対側の階段を上がっていったところ。小さい木の椅子が並んでいてそこに座る。

木「ここを選んだ理由は？」

小学校、中学校もそうかな、そのときで一階の階段のこの下のところ（手で斜め線をつくって説明）とか、教室の2重になっている扉の袋になっているところとか。そういうちょっと人がいないようなところに友達ともっておしゃべりをするみたいなことを結構していて、そのクセは大人になってからもかわってなくて、会社にはいつてからも、なんか人のこない倉庫とか、必ず自分のその、まあ秘密の空間、秘密の部屋みたいなのを探すクセがあって、多分私がこの生徒だったらきっと、このあんまり人のこなさそうなところで、放課後とかこっそりいるかなーと。外も見えて。

木「人がこなさそうというのが結構ミソみたいですね」

なんか隠れ家みたいな場所。

小学校のときに外でもそういう場所つくって、秘密の基地みたいな。自分で名前を付けたりとか。これはなんとかなの木とかなんとかの丘とか、名前つけて自分地図みたいなつくったりとか。なんかそういうちょっと、まあ、現実の空間なんだけれど、ちょっと空想して特別な場所にするみたいなことを子供のときはすごいしていたなと思って。家の中なら押し入れの中で遊ぶとか。

木「狭いところってありますか、さっきのロッカーとか」

（笑）私はあそこまで狭いとだめなんだけれど。せまい場所も安心するけれど、何か人が知らない秘密の場所っていうところをつい探しちゃう。

木「なるほどね、、、学校時代になにかこれっていうエピソードありますか？もう話してくれているけれど。」

中学校のときかな。階段のこうなって（手で斜め線を作る）一番下のこの三角の奥のところ、なんか友達とこしょこしょなにかおしゃべりしていた記憶が。あとは合唱部だったんで、音楽室が防音のために2重の扉になっているんですよ、その外がわの扉と内側の扉の間でなにか秘密の、好きな男の子の話とかしてました。それはすごい記憶にある。

木「ありがとうございます」

合唱部多いですねなどともりあがりながら教室に戻ってくる。

21:08 ごろ 教室へ全員戻ってくる。

ろうそくの灯が100物語みたいということでいつしか話題は怪談に。

トイレの花子さんとかあったよね

うちのころは口裂け女が流行っていて、みんな知らないでしょ、口裂け女。

木「おつかれさまでした。ろうそくの灯はけしてあげましょう。帰れなくなっちゃうから。ありがとうございます。」

時間がすぎってしまったこともあり、今日のワークはこれでおしまい。8日の撮影時間延長の話（中川さんは北海道の青っぽい夕暮れがよいのではないかと話していることなど）をする。

翌日もあるため早く終らせようと思ったが、その後着替えながらも合唱部話してもりあがったり、Jさんの印刷業（お仕事で印刷を手がける関係で演劇のチラシなども多数取り扱っている）の話、札幌初めての中川さんにおすすめ（ほっけとザンギは必ず食べるように、スープカレーの美味しいお店などを教えていただく。）を話しはじめ、結局遅くなってしまふ。

21:50 頃 完全終了。



Amanogawa プロジェクト@札幌 2015.03.06 (金) 午前グループ (10:00-12:00)

参加者：A、B、C、D、E

スタッフ：木野、中川、木野妹（遅れて登場）

場所：あけぼのアート&コミュニティセンター 12号室

10:00 ワーク A

2人組の寝るところからのマッサージ。いつものように練習スタート。2人組の組み合わせで迷う（人数が少ないこともあり、組み合わせは限られる旨を説明）

おおよその順番を覚えたつもりであっても、あいまいだったところを確認していく。

10:20 簡単なストレッチ、腕回し、スイングなど。

10:28 ワーク B ロールダウン、ロールアップ

昨日のおさらいとして倒れたあと起きてくるときに足をつけて、そこから水が身体にはいっていき感じをもつて（昨日の A さんのコメントをうけて）みましょうと提案。倒れている間の時間を長く設定し。土に還る言葉掛けをする。

10:35 話し合い

木「やってみて、いかがでしたか？」

私の髪の毛が長いせいかもしれないけれど、朽ちていくときに髪の毛も広がっている気がして。身体だけではなくて頭も全部ひろがっている感じがするんです。とけこめたなという感じと。

あと土になっているときも息をするように若干動いてみたりして。土になっても息はしているんじゃないかと。

木「命は続いているんだね」

はい。

木「いかがでしょう？昨日と比べて今日は、とか。」

土に還っているときに、木の表面に水がしたたるイメージができて、あ、今この辺にあたってると、

木「こけがはえてきたな〜とか？」

しばらく起き上がるの大変！って思いました。

木「大変だった？今、え？ここで起き上がるの？？みたいなの」

ちょっと思いました。あーもうですか？みたく。

ロールダウンとアップはなんとなく3回目、自分の中で身体が感じられるようになって。ただ、私も多分みんなもなんだけれど、こうやって丸くなることはできるんだけれど、ここからそっちに行く（小さく丸まった状態から倒れるところの実演）ときの身体が、なんかすごい、、、（疑問の顔）。それまでは受動的な感じなんだけれど、どうしても自分で土にはいるというか、自分でどうにか足を（コントロール）しないとはいっていけないというのと、起き上がるときもちょっといろいろ考えてはやってみただけで、、、どうしてもみんなこうやって起きてきてしまう（仰向けに寝ているところから身体をがばっとおこす）というか、今までのものがつながっていかないんじゃないかなって、人を見ていて思いました。それが上手くふわーとどうやってたつたの？みたく起き上がれたらと思うんだけれど。

木「それはどうしたらよいのでしょうか？」（皆笑）

自分でもそれは一、、、でもそれが解決するといいいのではないかと。

木「皆さん、どうです？今のなにかありますか？」

技術的な問題もあるかもしれないけれど、もうちょっと工夫すれば面白いような気が。なんか、こう根っこから立ってますよ！みたいな。

木「面白いということは考えなくていいと思う。面白いというお客さんから見てこっちの方が美しいんじゃない？とかみたいなことを考え始めるときりがない。じゃあ何が美しいの？とか。何が面白いの？って戻っちゃう。ただ、自分がやっていてその瞬間だけすごい素に戻った自分、木モードだったのにBさんに戻ったみたくしてそして土（モード）に戻ったみたくなると、それはすごいギャップとなって気持ち悪い。木モードのままでお話をちゃんとできあがっていけばいいんでしょうね。例えばこうやって（しゃがんで手を床につく）このついた手から崩れ落ちていくのかもしれない。もしかしたらばったんといくかもしれないです。だって、実際の木だって、森に生えている原生林みたく倒れているけれど、あれだって何かのきっかけがなければ倒れない。雷がとか。そんなに大きなきっかけでなくても、ものすごい時間がかかってとか。そこがあれば別にガッタンと倒れて音がまずいとかそういうことはないと思うんです。」

意識をしない方がいいということかも。

ぼくはね、昨日までそんなことなかったんだけど、今日ね、頭重く感じるようになってきたんだよね。昨日までは行為をしないようにしないようにと思うほど、こう10カウントくらいかな20カウントくらいかなとか考えちゃって。重いとか思わ

ないんですよ。でもね、今日は重たいの、頭が。カウントしないでね。そうそう、おりれた。とんとつくまではいいんだよ。で、ついてからさ、

木「どうしようかな、、、って」

そう！だから今のって、そうだよなって。木って朽ちてきたらちょっとした風とかね、隣とぶつかったとかしたらとたんにくしゃくしゃってね。何かそれは、ここまで（しゃがんだところ）はいいんだけど、こっから意識しちゃうからな。

木「その意識した瞬間にかわっちゃうんですよね」

膝つくんだったらついた方がいいかなとか

木「こっちの方が音しないかなとか」

そうそうそうそう。

木「でも音したらなんでいけないのかはよくわからない」

普通のダンスじゃないんだからさ、別にカウントする必要ないんだよな。

木「音楽にあわせて踊る場合は、音のここまでに倒れなきゃとなるけれど、そういうことではないと思いますね。おそらく今のBさんのようにすごく早く起き上がる人や一人早く倒れているなんてこともありえると思うんですよ。それがばらついてた方が自然だと思うんですよ。実際の原生林だってわーってたくさん生えていて、朽ちているのもあればちゃんと立っているのもあってということがおきるように。」

なにかこの間、映画でたくさん生えている木が丸ごと土に丸ごと吸収されていってしまうのを見て。なんか全部ずぼーって下にはいっちゃって。なんだろう、何を見たんだろう、、、。（「ゴダールじゃなくて？」の声）ゴダールじゃないと思う。すごい木がうっそうと生えているのに全部土に。平らになっちゃうの。なんだっけ、最近見たんだよな。

木「中川さん、映画詳しいですよ。」

もしかしたら映画じゃなくてテレビかも。テレビで映画見たのかな、、、。

昨日見たゴダールの映画とか、シュールとか不条理じゃないな。ああいう作品が。深い。ゴダールだからってわけじゃないんだけど。今まで見たなかで一番簡単だったんだよな。なんだこれ、これでいいのかなって思った。愛の言葉だったかな。

中川「さらば、愛の言葉よ」じゃないですか？」

そうそうそう。みました？ぼくゴダール好きだからね。

中川「3Dでみました？」

そうそう。

木「(中川さんは)映画ネタはすごい詳しい(注:中川さんは仕事として映画ライターをしている)ので、あとできいてください。」

「立ち上がってくる時、こうなってこういっちゃうといていたじゃないですか(ベッドから起き上がるようにがぼとあがるのを実演してみせる)。(うなづく声)でもそれ自体はそんなに問題はないという気がするんです。ただどこからおきてくるんだろう、どこからあなたはエネルギーを得ているんだろうというのは考えてみてもいいと思うんです。」

なるほどね。

木「つまり、先ほどAさんアイデアで言っていた水を根から吸うみたいな話したとすると、足の裏からになる。で足の裏から吸収していきたくないとすると足の裏がつかないもしくは根が張られないとスタートできない。それが他のところから行くとすると、そこが引っ張られているとか、そういう感じになったりもします。例えば神さまがいたりして、神さまがよんでますとなるとああって(胸の方から引き寄せられるみたいな起き上がり方をみせる)なる感じ。木だとすると、神さまが引っ張ってくれる感じではないので、足をつけてとか、1回種になるとか何かがあるとイメージが付きやすいのかなという気がします。どっちにしてもやっていく過程でその土から、木の新しい芽になるところは0から1になる。0と1の差はかなり激しいから、ちょっと時間はかかるんですよ。「え、ここでのん？まだ0なんですけれど」みたいな。そここのところはちょっと大事にしてあげた方がいいのかもしれない。」

「ちょっとこのワークは明日もみんなで一緒にやりましょうか。毎日ちょっとずつやると「あ、今日重さ感じれた」とか、「今日おきあがるときこんなかんじがした」とか」

毎日違う発見がありそうだね。

木「多分また皆さんいっていただくとそれぞれのアイデアから気になることやヒントが出てくると思うので、いいと思います。」

#### 10:45 ワークD 大切なもの①

昨日のワークのおさらい。丸めた靴下を手のひらにのせて落とさないように動かす(片手ずつ、両手、小さい丸、大きい丸、内回し外回し)昨日のガラスを持っていたときの感触を靴下で思い出して行ってみる。自分の身体の周りをいろいろ動かしてみても比較する。昨日の応用としてその場から移動しながら行ってみる。ぶつからないよう周りをよくみてゆっくりめに動いてみる。

難しいです。

動く前にやってたときは合気道というか太極拳っぽいなと思って。

木「太極拳は自分の身体の中にあるエネルギーをまわしていくというのがあってつないでいくという。この右手から出ているエネルギーがこう通ってつないでくという感じなので、身体周りで円を描いているみたいなんです。なので動きが似ている感じがするのだと思います。腰が安定していないとがっくんと来てしまうので、そういう要素がないとできない動きでしょうね。意外に難しいですよね」

肩が動かないからこれが一番難しいなあ。落とさないと思うと手がね（にぎってしまうのをみせる）（笑）こっち（手）に意識がいつちやっつてね。

移動した方が楽かも。移動しないと手の可動域で制限されてしまうけれど、なんかちょっと楽っていうか。身体でこうまわしていける。

木「立っている状態でも膝とか腰は自由に使ってよいので、ある程度は動かせるんですよ。おそらく（Bさんは）このへんが既にコントロールされているので、動いてもむしろ楽みたくなっているのですが、慣れていないと動く方にも意識が行くし、こっち（手）の方にも意識が行くので注意力が散漫になってしまつてがつつと（落としてしまう）。その辺の難しさはありますね。腰回りっていうのかな。自分の身体がどうなっているかを意識していける、そういうトレーニングを既に積んでしまっているのだから、そんなに難しくは感じないのではないかと。」

ずっと回っていたような気がする。もっとそっちに行けるかなと思ってたんだけど、手がこういくからこういつちやうなあーと。

木「いいですよ。（手に）いわれるがままに、誘われるがままに、円運動とは限らないです。」

動いていた方が楽しいです。

木「それはあるかもしれない。何が楽しかったですか？」

動きがダイナミックになる。

木「周りとか見えていたりします？」

周りはみてましたー

木「でしょうね、結構みていましたよね、結構冷静にこっちの方に人いるからこっちにしようかなと判断していましたよね。動かないでやっていると、「この場所私」ってなって周りの人のこと考えなくても、私のことだけ考えてれば OK となるけれど、今動いたのだから外に意識が開いていた、それも楽しい理由かもしれない。ただその分難しい。」

「これもまた明日か 8 日か続きをやってみましょう。」

グラスを片付け始める。

これってちなみに大きいものを持つのと、小さいものを持つのと意識としてはどうでしょう？

木「そんなに差はないですが、大きいものになればなるほど落ちやすくなります。新体操のボールで練習したりするんです。新体操の選手とかもあのボール握っちゃだめなんです。それを握らないで手のひらに載っけて練習するんですが、重い分だけ難しい。グラスでも（落としたり）怖いからだけではなくて、重ければ重いほど遠心力も働かし難くなっていく。（靴下のような）軽いものでやってみてというのが今の状態。これ（靴下）があることによって指先の方まで意識をしたりできますよね。いいワークではあるけれど、場合によっては鳥の羽根とか紙とか、紙、、、このワークとは別の新井（新井英夫）さんのワークかなにかだと思ふんですけど、手のひらにティッシュペーパーか A4 くらいの紙をのっけて、そのまま落とさないように動いたりする。それはむしろ速く動いた方がいい。早く動かないと落ちちゃうから。だけれど紙を意識することで動き方がかわりたいなことをしていました。多分そういう（上にあるものの）質感でまたかわっていく。」

なんか靴下はじめ大きくなって、小さくしたら小さい方がやりやすいなと思って。

木「つかみやすいじゃないけれど、ちょっとのかこみでカーブになるじゃないですか。大きいボールになればこうなるから、違って（そうは上手くないかない）。」

「ではもうひとつ身体動かし系ワークいきましよう！」

10:58 ワーク F もしものとき、私はどうするだろうか。

身体動かし系ワーク（2人組で円をかこって逃げる）を行う。だんだん応用として人が入れ替わっていくものへと促し没頭していく。木野も一緒に動いていく。

その間に中川さんは倒れる。しかし皆ワークを続けている。

11:07

木「ありがとうございますー、（中川さんに背を向けるようにして座り、皆さんに話しかける）、どうでした？」

どんどんせまくなつちやっつたね

とめるのがね、逆にね、それをしないとね、連鎖みたいのが（あまりにはやくてみようしなってしまう）、つかむとすぐいつちやうから。止まってないとね。きちっとポーズしないとね。連鎖見たくならないように。つかむことばっかしで鬼ごっこ

じゃないんだけど。ポーズをしないとっていうのがわかった。

(とワークの感想を話す人たち。一方で中川さんの様子に気がつきつつ、どうしようかなとおもって戸惑っている人もいる)

木「ふむふむ、ポーズをしないとというもあるし、相手や他の人のことを気がついていないと、自分の身体のことだけ考えていたらできないですね」

そうそう。(それぞれ話している)

ちょっといいですか？すごい気になる。(と中川さんのそばによる)

木「？中川さん？」

息しているから大丈夫です。

木「息しているからって！ちょっと中川さん大丈夫?? (近づいて肩をさわってかるくゆする。中川さんは無反応) ちょっと具合悪いのかな。」

寝不足でないの？

木「中川さん?? (もう一度さする) ちょっとあの、えっと、、、(動揺してうろうろしつつ) 下(事務所) ってきます。大丈夫かな、、、」

木野は1階の事務所へ向かう。

どうしたんかね。

急だったよね。

なんか「終わりました」って時にはこうなっていたから。途中かな。

寝てんのかと。寝不足じゃないかなと。

最初なんか冗談で倒れているのかと思って。

え、倒れはじめたところ見たの？

みてない。

みてない。

みました。ゆっくりしゃがんでいったんで、貧血かなって。疲労か。

暑すぎるんですかね。

ストーブからでるあれ(注：おそらく一酸化炭素中毒などをイメージしているのではと思われる)はもっとヤバいから、あれで筋肉とかホント死んじゃうから、息しているってことはそうじゃないと思う。

なんか暖かすぎてちょっと気持ち悪くなったとか。

緊張感がない、、、。

何人かは中川さんのそばでおろおろしたり、脈を取ってみようとしたり。一方で掲示板(昨日までに書いた学校の思い出付箋を貼ってある)や廊下の冊子を見ている人もいる。

木野が戻ってくる。

木「大丈夫そうですか？」

えーとー、穏やかではあります。意識はないけれど。

木「どうしよう」

どういう風にしたらいいかな、貧血かね。救急車呼ぶとか。身体向き変えようか。

下手に触らない方がいい気がするけど。

そうですね。頭とかぶついているかも。

脈はちゃんとあるでしょ？

(そばにいたEさん脈を取る)失礼します。大丈夫です。

木「すみません！パン(と手を叩く)！！」

中川さん起きる。

木「ごめんね、皆さん。申し訳ございません。」

皆、安堵して笑う。

木「すみません、私がお願いしました。」

心臓にわるいー。

うちの芝居でもらいたいわ。(倒れた役が)うまかった。

木「まあまあ、一回座っていただいて」

中川「すみませんー」

あなた一番はじめいったでしょ(「スルーできなかったんです」との返事)。

気がついたんだけど、こういうときどうしたらいいかわからないねー  
なんかどっきりみたいー。

木「どうぞどうぞお座りください」

「おそらくちょっとどっきりカメラ状態で、でもうっすら気がついていたりしたかもしれません。  
どうかな？ってところもあったと思うんですが。徹夜徹夜で勝手に寝てたと(笑)」

「今おそらく、ストレスというか、え、どうしよう、ヤバいと思ったと思うんですが、どこまでほんとかわからないにしても、木野さんは行ってしまったし、と思ったとして、どうでした？どんなことを感じました？」

神奈川のワークショップのドキュメントを見ちゃっていたので、きっとどこかであるだろうとは思っていました。(木「ネタバレですね」皆で笑)だから木野さんがつくってくれて、これをとめないと呼があかないかなと思って。みんなしゃべっているけれどちょっとすみませんってとめてみました。

木「ちなみに倒れているのはいつくらいから気がついていました？」

この話しをしている途中、Aさんが話しているあたりでした。ワークしている間は気がついてなくて。

あたし、気がついてた。

僕は倒れるところみたら。

木「倒れるところ見た！(笑)それから、ワークをしている間も気がついてた。でもじゃあなぜそこで「大丈夫？」とか何らかのアクションを起こさなかったのでしょうか？ワークに集中してて気がつかなかったって人もいます。はい。」

なんかまだそこまで思わなくて、どうしたんだろうっていう。

僕は二日酔いか寝不足だっと思ってたからね。みないようにしといた。

木「ちなみにいつくらいにきがついていました？」

長くなってた時、話ししてたときね。

気づいていたでしょ？

うーん、終わったあと、話しはじめてちょうどこっち側むいたじゃないですか。

木「そう、私がわざわざ背中を向けるように座りました。私が中川さん寄りに見ないように座ったんです。私が気がついちゃうから。気がついてない振りをするためにこっち側に座っていたんです。だから皆さんは私を見る形になって(その後ろにいる中川さんを見ざるを得なくなる)。いつ中川さんにいい寄るかなと思ってたんです。ワークをしている間も倒れているのは気がついていて、でもネタバレしてしまうので知らない振り、気がついていない振りで押し通しました。」

そろそろいわなきゃヤバいなって思って(Dさんと)目を合わせようとしたけれど、(Dさん「わかってなかった、、、)通じねえなと思って。やっぱりそういうの言い出すときってすごく勇気があるけれど、ほんとに危なかったら早くしないと大変なことになっちゃう。(神奈川のをみて)知ってはいても少し怖かったです。

木「Cさんは知っていたけれど他の皆さんはそういう発想はなかったですか？」

気になったけれど息してるかみて、息してるし。

木「結構冷静な判断していましたよね」

もしかしてわざとかなという気はしたんですけど、倒れている時間が結構長かったんでほんとにまずいのかなと思いました。

木「ちなみに今までこういう風に例えば地下鉄の駅でとか、具合悪くなってとか酔っぱらって吐きそうになっている人とか、いろいろ見かけたりすると思うんですけど、どうですか？」

ありますね。結構声かけます。軽くたたいて反応があって息していたらそのまま行きます。

電車に乗ってて乗り換えようとしたら、足の下に首があって、(皆動揺)そのままびっくりして車掌さん探さなきゃって思ってそのままでちゃって、ちょうど乗ってる電車が真ん中に車掌さんがいるタイプで、そこまで走っていくの間に合わないしと思ってとりあえず昇ったら、何人かの人が出てやっていると、乗り換えしようと思っている方の車掌さんが出てきてくれたんで、とりあえず駅の人におまかせしましょうかって。来てくれた人3人くらいと大丈夫ですかって話しかけて。

木「それは落ちちゃったのかな」

完全にこういう状態だったんですよ。(注：実演しようとするがわかりづらい、記述不可)で、なんとか起き上がらせて、一回意識ははっきりして、「大丈夫なんですよ、そんな持病とかないし」っていついたのに「ううう」ってなっちゃって。「おじさん病院いった方がいいよ」ってなっちゃって。その人曰くそんなの初めてのことで経験がないっていついたので急なことだったみたいで。そのあと私は若干先を急いでいたので、あとにしたんですけど、怖かったです。

すすきのしょっちゅうあるよ。

木「そういう人どうします？」

私、そっち側(助けてもらう側)になることが多い。(笑)

緊張感、緊張感って雰囲気じゃなくて身体の緊張感とか姿勢、これはヤバい姿勢だとかそういうのを見て。大体座っている人は、何とかならない場合も疾患の場合はあるんですけども、座ってたいて反応なくて時間的にも「酔っぱらったんだな」ということが多かったり。転んだ人はすぐわかるから助けます。そんなかんじで姿勢と緊張と呼吸みて。でも救急車を呼ぶことになったのはいままでなかったです。

突然倒れてということで、階段から転がり落ちてというのに遭遇したことがあるんです。札幌駅構内だったので、周りに大人が何人かいて。私が一番動けそうだったんで人を呼びにいったんですけど、その場所が駅ではなくて商業施設の管轄でそこにいけなくなって、広い場所だとどこが管轄かなんてわからないし、知らない場所だったら一体どこに行けばいいんだってなるから素早く判断するのは難しい。

木「どこで起こるかなんてわからないから、そのときパッと判断して動かなきゃいけない。それで動ける動けないというのは結構大きな差ですよ。」

「つい2週間くらい前に友人と歩いているときに道ばたで倒れている人にてあって、その奥さんみたいな人がいておろおろして。家近いから大丈夫です、つれて帰りますっていうんだけど、重たいし、それどころじゃないから、あわてて119番かけたんです。でも今いるところが出先でよくわからないし、住所どれ？(注：そのときは商店街のフラッグと電信柱にあった番地、近くのマンションの名前で上手く説明することができました)みたいなことになって。たまたまいた友人というのが2人看護婦で。(応対が)はやい、はやい。はい、ゆっくり呼吸して一つでできて。でも例えばそのとき一人しかいなかったら、札幌駅は大人がたくさんいたけれど、もし一人だったら自分は何ができるだろう。どうしたらっておもうんですよ。それはどの人にもおこりうるし、考えてみるといいんじゃないかなと思うんです。」

「このワークはどっきりみたいでほんとに申し訳ないと思うんですが、やったほうがいいんじゃないかと思ったんです。」

私、木野さんの発見して(事務所へ)行く前の(感じが)すごいきっぱりしてて、演じてるの上手いなっていうのとこれは違うだろうというのと2つが私の中に浮かんでしまって。それで、もしかしたらこれはやらせかなと。もしこれが本当に倒れてこの反応だったらって急に芝居みたいに思えちゃって。でもほんとにこれが現実だったらこんな風にはいかないだろうって。

木「難しいんですよその辺は。(皆で笑)あまりここにいちゃうとやらせみたくなっちゃうし、とにかくそとへいこうと。新百合ヶ丘のときは私が倒れる役をしていました。」

そうだったんだー

これみんな心配してたりして、わかったときにすごい怒り出しちゃう人いたりしません？日本人はいないのかな？

木「今までのところそこまで怒られたことはないです。何のためにやっているワークなのかかわかるし、そのあとの話しの中で意見交換もできるので。ただやはり驚かれるのはあります。そういう場にも動じない人も結構いて、まったく気にもしない人もいます。たとえば「どうしよう、どうしよう」っておろおろして近くで見ている人もいれば、全然関係ない、例えば地下鉄のところで倒れている人がいたとして「どうしよう、どうしよう」ってやっている人が一人いたときに、通り

過ぎていく人もいないじゃないですか。そういうタイプの人もたくさんいる。ここの人たちは人数が少ないこともあるけれど、中川さんも知っている人だし、こうやって集まっているけれど、これ知らない人で、たまたま通りかかってだったら、大人が一人誰かいたとかだったら。困っているらしいというのが見えたとしても、じゃあ大丈夫かなーという感じでいなくなってしまう。」

呼吸状態とかみて

木「もちろんわかる人だからというのものもあるかもしれない。それは特殊技能であって。一般の人たちで通り過ぎてしまうタイプの人たちってというのは、そういうのをちゃんとみて判断しているのではなく、下手に動かさない方がいいよねという話しがたように、動かして逆に悪くしたら困るとか、下手にかかわらない方がいいかなとかちょっとそういうのが最近多いんじゃないかと思うんです。」

7割から8割の人は都会はみんなそう。おばあさん転んで倒れてるしょ。明らかにケガしてそうだけど、通り過ぎちゃう。木「今都会って行ってましたけれど、札幌もそうおもいます？札幌そうかなあ？」

札幌もそう。

いました。見ました。地下鉄で。地下鉄の椅子のところにばたっと倒れている人がいて、みんな知らんぷりしてあがっていくんですよ。で、ぼくだけ「大丈夫ですか」って声かけて、息調べて、たたいて。もしかしたらその時119番かけたらよかったかもしれないけれど、駅員さんよんだらよかったかもしれないけれど、状況として時間的にも姿勢的にも酔っぱらっているから何とかなるだろうとそのままあがっていきました。

あと、転んで倒れた人とか、それは意識あるから当たり前ですけど、そういうのは助けます。

急いでいるときとかだどうしてもごめんなさいとか思って（「気持ちはあるんだよね」という声）。

時間に余裕があれば「あっ」って思うんだけど、余裕がなければ申し訳ないけれど通り過ぎると思う。

木「都会の人は時間がないのかなあ？」

仕事とか時間に追われている人は特に。帰り際とかだったら違うかな。

そのときに急いでいるとか時間がないということだけじゃなくて、日々の生活そのものに時間がないのさ。多分、都会の人たちは。時間とか、お金とか、わからないけれど何かに追いかけているとね、そんな余裕がないんでしょう、知らない人だとね。だから僕はいつも冗談でね、学生にさ、もし俺がニューヨークとか四国とかいってね、倒れていたらさ、俺の背中を踏んでは行かないだろ？関係性ってそういうことだよいつも冗談でいって。知っているとね、そうそうそう。こうやってであってさ、マレーシアとか、四国とか、奄美大島とか島でさ倒れていたらね、全然知らない人だったら「えっ」って思って、背中をふんではいけないけれど、全く知らない人だったらさ、どうかなーって、正直言うとね。でも、それはきちっと日常の生活の仕方を反芻しないと。普通に考えて、無条件で、こうやって関わりを助ける人普通いない。実際そうなるって忙しいとかほんとかなくて。こうやって映像、、昔あったでしょ、なんか、子供が餓死しかかかっていて禿鷹がねらっているという写真があってね、それをニューヨークかどこかの富豪がビフテキ食いながら「可哀想にねえ」って太ったおばちゃん泣いてね、同情している風刺画が。ニューヨークタイムスかなんかだと思うんだけど。似てるんだよ、それに。かわいそうにねえって自分はケーキ食ってるのに「ひー」ってないてるんだよ。ぱちってテレビ変えたらわけわかんないお笑いみたいなやつってるの。そういうことにならされているから。でもそれは映像、虚構でみるから。でも実際その場所にいてみたりすると（意識が）変わると思うんだよ。触ったり。

こういうときで、映像じゃなくて、実際に息をしたり。そういうところって火事でも災害でも実際にみるとね、一瞬でわかるね。一瞬で。壊れたもの見たり、死んだ人みたり。だから映像って怖いよね、そういう意味で。だからいっておいでって。悪い意味じゃなくて普通の言葉でいうと洗脳されちゃう。せつかくそういう気持ちがある、若い人なんかね。でも真似してしまうんですよ。そうはいつでも実際現場に行くとさ、そういうのがあつという間に溶けてしまう。ピュアな気持ちにまたかえってくるしょ。だから僕は現場に必ずね、行けるときにはね行って、違うからね。映像見てえーってなく暇があったらね、どういう形でもいいからねやろうとしてるんですよ。

木「東日本の震災後なんですけれど、東北にも実際に行かれたりしていますか？」

311 終ってね、次の日、3日目くらいかな、表現者はみんな力のない自分をみて祈るってことしかないだろうと思って。でも祈るだけじゃしょうがないから、3日くらいあとか、アトリエでみんなで募金箱つくって。40くらいしかはいらないんだけどビッチリは行ってね、売り上げ全部、(チケット代)1500円だか2000円だかでやったんだけど、急遽うちの息子の芝居をやって。そしたら1万円札とかはいって。募金。入場料の他に。僕らにとっては高額なんだけれど、20万とか30万とか(が集まった)。1ステ(ステージの略)しかしなくてね。それはね、札幌では僕らが一番はじめにはじめたんだ。ともかく何かやろうって。すぐには行けないし。

木「そのお金はそのあとどうなされたんですか？」

それを赤十字に渡したんだ。まだ大々的な基金ができる前だったから。僕はそれ失敗したと思ったな。赤十字なんて信用していないから。実際もってね、福島でも岩手でも持っていけばよかったって。赤十字インチキじゃないけれど、僕のポリシーとしては時間も何年もかかるだろうし、組織が半分吸収してしまうし。遅いでしょ。だから直接ね。

この前東京で芝居つくったときね、1年後くらいだったかな、福島の若いこと東京公演、一緒に作ったときね。なんだかにいちゃんっていう、きいにいちゃんだったかな福島の子。

皆さんが助けるっていう方について、震災とかわっちゃうけれど、私はどちらかというと助けない。助けないタイプかなど。みんなの話きいてすごいなと思ったのは、倒れているとは思うけれど、どうしてと思ってそのあと自分は特別何もしない。私結構なんていうのかな、それが意図的なことのように思えちゃう。

木「今は確かに私たちが作ってしまったし、私の演技力不足もあったと思うんですが、そういう風にしたけれど、道とかでそういう風になっている人を見かけても助けないなど。それはなんででしょう？」

犯罪を恐れちゃう。

木「そのあとなにか問題が起きたときについていうこと？」

いや、そういうことじゃなくて、倒れている人自体が本当に具合が悪くて倒れているのか、オレオレ詐欺じゃないけれど、そういうの私多いし、そういうことにあうことも多い。周りの人も好意でやったがゆえに刺されてしまったり、そういうことが私の周りに結構多い。なんかすごく、全然話しが変わってしまうかもしれないけれど、道をきかれても相手を見て無視しちゃうときもある。おばあちゃんなら大丈夫かなと思うけれど、男の人にきかされるとほとんど私は無視する。

木「怖い？」

怖いというかちょっと、見た感じが柄悪そうなひとだと、こうやって距離とっちゃうし（と身体を引く仕草）、よっぼどでないと教えないとか。そういう自分の警戒心があるから、東京にいた頃とか池袋とかで知り合いとか駅とかで寝てるの何度もみるけれど、「何この人！」とか思っても、助けないし、「警察に！」と思ったりとかして。そういうところ自分にあって、（録音不鮮明）、おそらくみんなの話しがすごいなって。

木「多分そういう人は増えているし、実際今はこうやって中川さんだし助けようかと思っても、実際できない人もいると思う。多分8割9割はしない。犯罪のことだけでなく、下手にかかわったらとか触って具合悪くなったらどうしようとか。例えば震災の復興についてといて、募金はいれるけれど募金いれてそのあとそのまま忘れちゃうみたいなことも多いし。じゃあなにかやらなきゃ、やらなきゃっていてもそのあとそのまま、、放置になっちゃうみたいなのもあるし、なかなかそこでアクションを起こせない人は多いと思うんですね。」

アクションを起こす自分に満足している人も多い感じがして。私の周りの人とか多いんですけど、最後の最後には震災にあった人におごってもらっちゃうみたいなのがおきていて、何やってんだと私はおもうんだけど、自分は「かわいそ、かわいそ」とかいてゴミ拾ったりしているんだけど、そういうボランティアをしている自分によって、最後はそのうちに泊まらせてもらってご飯までごちそうになって、お前違うだろうって人が圧倒的に多い。なんかそういう感じ？になっちゃうのが目に入っちゃう。って何かやってあげることだけじゃないって思う。そういう日本人的な感覚が私は結構苦手。やってあげてるんだっていう感じがして。

宗教観があるのかもしれないけれどさ。かつて日本は儒教だからさ。つまり無償というのがね、キリスト教とかは無償の愛とかあるけどさ、無償ということが日々の中で欠如してきたと思う。なんでしないのかって思っていたけれど原因は一体なんなのかと考えると、現実の問題とか長期的に解決しなきゃ行けないこともあるけれど、日本人の中に何も求めないで何かをしてあげるといことがないのかなと思う。昔はそうでもなかったんだけど、かつてはね、どういうことかという311でも911でもいいんだけどボランティアに行くときにね、余裕がね、お金とか時間とかそこを削っていくんであって、自分の何かを、12あって2だすのではなくて、10あってそこから5出すのか1出すのかっていう。そういう思考が（日本人には少ない）、だから僕は尊敬する人誰ですかっていうときは、あまりいい人だけれど、マザーテレサをあげるんだ。自分の人生そのものを弱者にこうやってゆだねる。そこまでやれとはいわないけれど。そういう思考は日本人にはないのかなと最近思う。昔は日本は儒教だから無償の自分自身を差し出すというのがね、何なのかっていったら道徳観じゃなくて宗教観だと思ってね。余裕がなくなる現代人っていうけれどそうじゃないんじゃないかと。

話しはちがって、子供が親を殺して親が子供を殺してっていうのもね、僕はそういうの書いてるんだけど、子どもたちの闇の世界を解かなきゃっていうんだけど。言葉としてはそうなんだけれども、もっと根本的なことって何なんだろうかって。闇の向こう側にあるものね。それはね、ずっと明確な解決法とか答えはでていない。自己犠牲の精神が現代の日本人は戦後70年トレーニングされないできたのかと。でもそうやってしている人もいるんだよね。そういう人が2割くらい。

木「自己犠牲という言葉がでてきたんですけど、自己犠牲として捉えるのか、そもそも自分の意思と考えるのかなのと思うんですね。社会との関係性とか。自分というものはそんなに守らなきゃいけないものなのか。自分の財産だったり仕事というものは何のためのものなのか。何のためにあなたは生きているのかということが、意外に見失ってしまっているかもしれない。わかりづらくなっているかもしれない。今アトリエ公演をしてという話があって、それはもちろんいいことで、ものすごい人が集まって、ものすごいお金が集まったその熱さ、そのときの感覚というのは今もう4年経ってちょっと薄れて忘れがち。でも実際にはまだ全然復興はついていて、今でもやっぱり大変なところはある。仮設住宅もあるし、福島なんて今まさに大変なことになっている。という状況だけれど、情報統制ではないけれど、ニュースとかで見えない状態になっている。そういうのが当たり前になってしまう。でもそういうところを忘れてしまっはいけないのではないかと思うし、場所にいくとわかるというのはある。」

「その場所に行ったからってアクションが起こせるかといったら起こせなかったり、そこまでやるのはどうなのかってなったり。ほんとに被災地の人ではない周縁なんだけれど、気になっている。気になっているけれど見ないことにしている人たちのなかにも葛藤のようなものがあると思うんです。」

「神奈川県って、私がいた地域（注：木野居住地、Amanogawaの一回目の開催地）は距離がだいぶ



離れているので、揺れはすごい揺れたけれどやっぱりちょっと離れているんですよ。だからほんとに被災した人に直接会うわけではなく、だからってボランティアにすぐに行ける距離でもなく、というところの人たちだった。ましてや札幌はもっと離れているんで、じゃあそこからボランティア行けますかといっていく人は多くはなく、友達でいっている人もいるかもしれませんが。だからその中でどういう風を感じているかなというのはいちよっと思ったんです。その時どういう風にアクションをおこしたか、起こしたくなかったか、今どう思うか。」

僕は芝居やってて、何の変哲もない日常性をきちっとね、きちっと普通に生きることが、それはそれぞれやっていることが違うだろうけれど、僕のやっていることは舞台表現だから、舞台表現をきちっとやるということが、それが311とか大変な人たちに対するね、やり続けることが原点だと思う。出発点だね。そこがそういう人たちや地域に対するモノの考え方の出発点。自分が自分の日常性でやらなければならないことをやるというそのことは忘れないでしょ。それをちょっとボランティアとか、それは悪いことではないけれど一過性なんですよね、それを延々とやっていくわけにはいかないんだから。仕事しなきゃいけないし。そうすると残念ながら人間の記憶っていうのは薄れるよ。生活していくかぎりにおいてはね。だからそう意味では僕は、今イヨネスコの作品を練習しているんですけど、それは不条理なのね。不条理ってのは意味の分からないものとみんないうんだけど、違うんだよ、意味のないものを意味付けするのが演出の仕事なんだよ。不条理そのものをきちっとやる。今不条理そのものでしょ、現代人って不条理だからさ、言葉悪いけれど不合理でしょ。そういう風な矛盾なんかそのまんま受け入れる、カミュなんかさうね。シーシュポスなんかさ(「シーシュポスの神話」)神さまが罰与えてね、山の上に石があってさのっけているんだけど、頂上がどうなっているかっていつも考えている、一生こうやって考えている。それがわかりやすい。日常生活もさ、そんな風に不合理なことばっかしでしょ。上手く行かないし、予算はきたって全員助けてくれないし、(録音不明瞭)そういう風なものをそのまま受け入れようというところからはじまるわけ。だから僕はそういうところにおいて、さっきのと矛盾するかもわからないけれど、即現場に行つて助けないと、とはあまりおもわないんですね。行かない人に対してなんでお前助けないんだみたいなのが多くてね。だから僕はまず自分の今の立ち位置をきちっとすべきだと。そこからね、自分自身の存在証明みたいなものをきちっとしようとするね、必ずその困った人や弱者に、マザーテレサにならなくて、ぐーっとそこにいくと思う。びよーっというびよーっとかえって。それは木野さんじゃないよ。プロセスを大事にしてる。すぐ手振ってなにしていって、足あげてなにしていってそこまで行くその気の遠くなるプロセスをずっとね、いつかはここにたどり着くのと同じようにと思うんだよな。Bなんかは人なんか助けないっていつているけれど、言葉ではそういつてるけれど、そんなことはないんだよ。助けてんだよ。今は自分の足元、表現ってなっているけれどね、ずっとその立ち位置を確認するということは、自分の存在を確認していけば、他人の存在も気になるんだよ。一人じゃ生きられないから。人っていうのはね。ロビンソンクルーソーじゃいきられない、人間は、他の動物と違って。だから僕は人はなぜ他の人を殺してはいけないのかといつもきくんだけれど。法律とか宗教論とかそういうのあるけれど、神さまがこういつているからとか法律で決まっているからとか。

木「Aさんはちなみに人はなぜ殺してはいけないとおもいますか？」

ぼく？僕は答え持っているの。ずーっとうちやうと殺していくとね、一人になっちゃうよ。人類は一人では生きられないんだもん。宗教論とか出さなくても。だから人殺してもいいよという人はね、この世に人がいなくなってもいいよという論理と同じなの。人は一人では生きられないから人を殺してはいけないと僕はいう。だからいけない。戦争だって人を殺している。犯罪ではないけれども。殺戮だって。(なぜいけないかといえば)人は一人では生きられないから。絶対他者がいないと。そしたら人がいなくなる。この世に2人か3人しか人がいなかったら、こんなにいればわからないけれど、5人しかなくて、一人になったらいきれない。僕はそう思っている。だから仮設住宅で孤独死とかあるのは、一人で生きられなくて心が死んじゃうんだ。だから人殺しちゃうんだ。違った意味もあるかもしれないけど、と僕は思っている。

木「答えはひとつではないですよ。(A「ないよ、もちろん、もちろん」)様々な形があって。人を殺してもいいという意見もあると思うんです。これがというのはなく、Aさんはそのように感じているということだと思っんです。実はもう12時で、なのでワークはこの辺で区切ります。お時間あればせつかくなんでいつものようにお茶でも飲みつつお話できればと思います。ご飯食べつつでも」

いつの間にか背後に登場していた木野妹を紹介。

今の中川さんの倒れていたのって、こういう話しをするためだけですか？

木「倒れていたのは、何かもし自分の目の前で起きたときに自分はどうするかということ、例えば震災とかっていつ起きるかかわからない、交通事故とか、遭遇したときに、反応する人もいるし、反応しないでBさんのように離れる人もいる。それはそれぞれの考え方の差だということを皆で話すため。それこそそういう人(通り過ぎる人)はたくさんいて、そういう人は冷たいじゃないかという人もいるかもしれない。だけど実際にはそういうことではなかったり、それなりの理由があったり、そういうことが話したらよかったと思っんです。」

(中川さんがわざと倒れているということが)全然わかんなかったわ。

中川「どうもすみません。」(一同笑)

ふつうだったらさ、息してるよっていったら気がつくしよ。あなた(木野)でつつつしよ、おれ単純なのかな、救急車きたら大変だな、俺車出した方がいいのかなって。

救急病院は行った方がいいかなって。

彼（Eさん）もまたなんか脈とって絵になるんだわ。

みんな彼（Eさん）に頼ったよね。

なにか詳しいんだったらお起こすとか頭たたくとかした方がいいんじゃないかと思ったんだけどさ。

中川「(Eさんに) 脈とってもらったのちょっと嬉しかったです」

木「呼吸見て脈があった場合は楽な姿勢で寝かすというのが一番いいですよ。呼吸がない場合は気道確保しなきゃとかなるんですけど、そうじゃないときに下手に動かすとよくないこともあるんですね。だからEさんは正しい判断であるんです。」

ぴよこぴよここつねってたんですけど、いたくなかったです？

中川「大丈夫です」

すごいきれいな倒れ方で。こんなきれいに倒れるものかと、、、

お前疑り深いからだろ。サタンだとかメフィストフェレスだっていうけどこういうところにするね。

様々なかけあいをしながらBさん、Aさんはこのあとのご予定があるとのことで、大急ぎでおかえりになる。

木「ではまた明日、1時です。よろしくお願ひしますー。」

#### アフターワークトーク

残ったCさんDさんEさんと木野妹の差し入れのパンなどを食べつつ話す。CさんDさんは双子姉妹、木野姉妹と2組揃ったこともあり、姉妹ネタで盛り上がる。

CさんDさんは短大、専門学校を出て春から就職という。Eさんも転職予定(このプロジェクト期間中に決まり、あと1週間ずれていたら参加できなかったと話していただきました。)とのことで、旅立ちの春のイメージが浮かぶ。その後中川さんと話し合い、CさんDさんの旅立ちのシーンを撮れないかと相談。翌7日のワーク終了後急遽ロケを行うことにする。

午前の部終了後、4日終了後にGさんがおはなしくださった雪山を登るのができないかという話しになり、木野が実際に登ってみる。3F窓、1F両方から撮影してみる。現状では可能だが、8日に大雪などの可能性があるため、取り入れるべきか迷い、以降毎日の天気予報とにらめっこがはじまる。

Amanogawa プロジェクト@札幌 2015.03.06 (金) 午後グループ (19:00-21:00)

参加者 : F、G、H、J

スタッフ : 木野、中川

場所 : あけぼのアート&コミュニティセンター 12号室、三階トイレ

19:00 ワーク A' 2人組の立って行うマッサージ

急遽仕事が早く終り Gさんがこれになる。昨日いなかった Gさんに、内容を説明。  
10分 500円のワンコインマッサージでお金をとれないかななど和気あいあい話しながらすすむ。

19:10 Jさんが遅れて到着、そのままマッサージのされる側に合流する。  
その後簡単なストレッチ、腕回し、スイングなど。

19:30 ワーク B ロールダウン、ロールアップ

昨日のおさらいとして倒れたあとが難しいという声が出ていたことを紹介。木が倒れるということもあるので、足をどうしたら、音がなど考えなくてもできるのではないかと一回倒れて、しばらく時間をあけ、合図で起き上がってくるように指示。(午前の会参照。朽ちていくところの言葉かけを増やし倒れている時間を長くとる。)

19:41 話し合い

木「昨日までよりも大分ゆっくり目の速度で行ってりましたが、いかがでしたか？」  
少しぼーっとしている参加者たち。

連続感がありましたね。死んでいって、よみがえってっていう。

木「どうですか？(なかなか言葉が出てこないの)昨日とかと比べても。これで3回目、2回目の人もいますけれど。何回かやっているうちに気になったことがあれば。」

うーん。言葉のリードがあったせいか、時間の経過のイメージが持てたので、倒れている間が気持ちよかった。土に還っていく感じになって、芽が出て行く感じになってというイメージ。自分が何であるかということよりもその流れのなかに(のった)。

木「昨日まで木の話をしていたじゃないですか。木になる。モノ化する。モノ化とするとある種のテンションがかかってくるんですけど、今そこから土までいったんで、なにかさらにこう、身体がリラックスしている。(実際にみせる)一回は木を通過するんですけど、木はさらに朽ちていくというのがすごくイメージがつかみやすいんじゃないかなと思って。そこからまた芽が生えるんだったらまた立ち上がる理由ができる。今Jさんが崩れるときにゴトンって倒れたときがあって、それはすごくモノ状態だったんです。ああ、そうか木だ、って。でもかわっていく。その感じがあるとこのワークはすごくイメージがひろがるんじゃないかと思うんです。時間の流れが、私今数千年までいっちゃったんですけど、すごいそういう長い時間が流れている感じがあると多分呼吸がかわるのではないかと。どうですか、男性陣？」

倒れていくときは冬っぽいイメージがあって。雪が降ってる感じがして。起きるときは春になってく。雪が溶けて。

それは私もわかる気がして。具体的に季節とは思わなかったんだけど、色がモノトーンから起き上がるときにあ、色があるって感じがした。白の世界から。冬から春にというイメージがあった。

木「まさしく命は循環で。落ちてく、死んでく、木が枯れてく、ということから、次の命が立ち上がっていくという。このワーク自体はすごくいいというものもあるんですけど、みんなで一緒に継続的にできるといいなと思っていて、明日、あさってまた一回ずつできたらいいなと思います。多分やっていくごとにちょっとずつ違う発見があると思うので、それはどんどんみんなでシェアできたらと思います。」

19:46 ワーク D 大切なもの①

丸めた靴下を手のひらにのせて落とさないように動かす(片手ずつ、両手は時間の都合もありパスし、かわりに動きながら)

元々肩まわし運動のためにはじめたことを話す。(夜チームは肩こりの人が多い)左右差など話し合う。  
グラスをもって同じように動く。

昨日いなかった Gさんにはお好きなものを選んでいただく。

木「どうぞ靴下だしと思って行うのではなく、大切なものと思ってやってみてください。落とさないように、こぼさないように。もしその中に火があったら、大変なことになりますね。不安だったらその場から動かなくても結構です。周りをよくみて、丁寧に動いてみてください。」

怖い！

まわしていけないですね。

木「今（グラス）とさっき（靴下）とどう違いますか。」

重み。

丁寧に動かないとという意識が。

私は早くは動けなかった。早くも大きくも動けなかった。まわすときとか傾けないようにがんばって。さっきは結構こんな感じでやっていたんだけど（軽々動かしてみせる）

木「こうやってやる時見てたでしょ。（「みてたかも」の声）できるだけ見ようとするし、できるだけそこに意識が行くし、かなり今集中力をものすごく使ったと思うんですよ。短いけれどめちゃ疲れたいな。終わったあと「はあっ」てなる。」

スピードを出すとぐらっとするんですよ。ぐらつくとあっ！って。

木「スピードを出すとぐらぐらする？」

スピードを出すと揺れるんで、危ないと思ってちょっとゆっくり動く。

木「ゆっくり動くのも逆に難しかったりしますよね、それをキープし続けるのとか。なにかスキップしてしまうところがあって（あーという声）意外と難しい。そういうときにぽこっと（落ちてしまう）。多分今持ってやってみたら全然違うというこの感触、動きがゆっくりになったり、見るようになったり、かなり震えていたり、そういうことが水と木の違いと一緒に、これとこれ（グラスと靴下）の違い。そういうことが意識できるというかなあと思うんです。」

「これはひとつのヒントとして、実際にこれがどうなるかわからないですけど、実際に火をいれて行うことはないと思うけれど、大きく動くことだけが大事ではない。むしろそのときに感じている重さの感じというのが見れば、それがその人にとっての真実ではないかと思っています。ありがとうございました」

グラスを片付け始める。

20:00 ワーク G 歩く

木「これまで立っていくというところまでやってきました。寝ていく、エネルギーを0にしていく。0から1にしていく、生きている身体にしていくというところまでをやっていたんですけども、木だったものを人として歩くというところまでいきたいと思います。」

「自分が思っている以上にまっすぐの線の上を歩くというのは難しい。例えばこうして立っているときにダンサーさんはダンサー脚ってこうやって足を開いてしまう傾向があって。もし一本の線を歩くとしたらかなり集中力を使います。例えばここに一本自分の線を決めたとしたら（木目をさす。注：あけぼのの床は木なのです。）、この平均台の上を歩くとしたら。どうしても足の幅があるのでみ出ちゃいますが、ここに一本の線上を歩いていくとするとかなり難しい。それを皆さんでちょっとやってみたいと思います。」

黒板側に一列に並び、一本の木を決める。平均台とおもって歩いてみる。一回わたったところで一休み。

木「ダンスやっていた人ほどつらい。そして歩いている間こういう状態（かがんで下を見て歩いている姿をみせる）なので、まっすぐ歩いていきたい。なおかつ自分のできる最大限のゆっくりの速度で歩いてみます。線、木の上が難しい人はこの木と木の間の境目を利用してみてください。足で触ってわかるので。」

「まっすぐというもおさらいしてみましょう。ロールアップってあがってきて、耳と肩、鼻とおへそがすーとつながっていて、髪の毛が2、3本引っ張られている感じ。そこから歩きはじめます。人によって歩幅、速度が違うので、自分のペースではじめて下さい。」

2回目スタート

「さっきまで生えていった根っこをひきはがして、ひきはがして、はがして、はがして、、、次のところへ根を張っていく。ぐらついてもそのままリカバー。自分のペースを守りつつ、自分の持つ最大限のゆっくりさで」等と言葉掛け。

かなりの時間がかかる。

雪の中をあるているような気がしました。

木「ざくざくって？」

ここまで埋もれちゃうような（膝上あたりをさす）。

綱ですね。

木「綱渡りの綱？」

うん、一本の綱。

木「膝曲げているんですよね。これまで私がこのワークをしている中ではじめて綱のイメージがでてきたんです。膝とか、少し内（側）気味で足がはいってきていたの。（お能のような感じという声）それぞれの歩き方でよいと思うので、何かありますか？」

私は根っこが生えてという言葉があって、根っこのイメージで、おりにいくとこっから根が生えていくと思うと足が離れなくて。すごい安定して。だから根っこが、根っこがってイメージして。

木「それはよいと思います。私はそういうイメージがあって言葉を仕掛けたんですけれども、後ろの足を忘れてしまうだけども、後ろの足も根っこをよっこいしょってというのが必要なんですよ。」

徐々に徐々に徐々に。

木「とするとかなり時間がかわってくると思うんですよ。」

「あと F さんのね、足がびわーって広がる感じ、すごいと思って。(やってみせてもらう、それを見てメリメリメリメリ、ミシミシミシと効果音をいれる G さん) これはかなり印象的でした。F さん足の指がすごく長いというせいもあるんだけど、根が生えるというのが見えると思いました。」

私はすごく地面の感じだったんです。

「これみたらわかるでしょ。たまたま横並びで (大分違うかんじで) 印象的でした。」

木「(それまで静かにしていた J さんに話をふる) いかがですか? こういうの得意?」

得意じゃないです (笑)。

木「昨日僕踊ったことないとかいっていたけれど、普通もっとぐらぐらしてそれどころじゃないのに、すんなりできていて、おおっと思って見てました。」

踏むっていうのは意識して。

右踏んだら左踏んで。左踏んだら右踏んで。前に進もうとしたら顔も前にでちゃう。

木「なんかちょっとね、こうなっちゃう (首から先だけ前に少し出す) 傾向はあるかも。耳後ろって話しをするとすーってなおる。でも直すと胸が反っくり返ってしまうので、それはそれで難しい。自分が一番楽にできることを (探しましょう)。ちなみに肩こりとかありますか?」

あると思うんですけど、もう麻痺しているんで。

木「少しこう (首が前に出たかがむ姿勢) 傾向があるので、ここ (首周り、僧帽筋) をとおしてあげるといいんじゃないかなと思います。」

3 回目スタート、隣の人の影響をどうしてもうけるので、今度は並び方を変える。(往復つまり 2 回歩いており、3 回目の中の 1 回目、2 回目というのを参加者は話している。)

2 回目の方がちょっと楽だったかな。最初結構緊張感があったなと思って。今ちょっと上半身楽にしようと思って。

木「私は上半身楽な方がよいと思います。緊張して「私大変!」ってならなくてもいいのではないかと。綱はある程度こわばると思うんですが、皆がこわばる必要性はないのではないかと。ゆっくりって難しくないですか? 早い方が簡単だと思うんですよ。たんたんたんって。ゆっくりな動きというのはできないことがわかってくる場所があります。」

2 回目の方が緊張した。

2 回目の方が自分の世界にはいったというか、集中していた。すごい物体化していた。

木「ものすごい集中していましたね。何を見てるかはわからないのだけれど、何かを見ている。他の人とか一切見ていない感じ。さっきはまだ周りの人も感じていたんですよ。でも今回はマイワールド (うなづく声)。」

「こうやってもらったんですけど、それぞれ違う道を歩いているというのは、それぞれの人全然違う人生を歩いているけれど、同じ時代を生きているみたいなそういう感じがちょっとするんですよ。だから例えば教員生活かもしれないし、それぞれ別々なだけども、同じ札幌とか 2015 年のこのタイミングとか違うところにも同じように時間が流れているというか。ああ、そういうことなのかなと思いました。さっきちょっと場所とか根っこのイメージとか違っていたのも含めて。」

「ちなみに何かありますか? こういうイメージが出てきたとか」

おばあちゃんがみえました。おじいちゃんおばあちゃん、亡くなっているけれど。どっか他のところにいて。なにか記憶の中の。

木「昔あったおじいちゃん、おばあちゃんみたいなかんじ?」

そうですね。

木「それはふくらましていくと面白いかもしれない。さっきの 1 回目と 2 回目だと 2 回目の方が J さんは目線があったんですよ。びして。ここ 2 人 (G さんと J さん) は一緒に、二人マイワールドができていて。何だろうなと思いました。」

「ありがとうございました。これは多分 (映像の中で) やると思います。みんなで。向きなどかわるかもしれないけれど、ひとつ覚えておいてください。」

20:23 ワーク H 離れること

G さん D さん (午前グループ) のために作ったフレーズを皆でやってみる。

まず準備運動として、2 人組で舟をこぐワークを向かい合って行う。(合気道の基礎) 相手と呼吸を合わせる。相手が押した分だけ押された分だけ返す。相手の間合いを感じ取る。

いまのところ、、、うまくいってないですね。。。  
手が疲れてきました。

木「手だけで動かそうとすると疲れるので、身体全部と一緒にゆれているだけ。自然運動でつながっていきます。さっきマッサージのときにエネルギーをあげる、うけるという話をしましたが、あげるのとうけるのが同じだからいいんですね。私だけが押しているとめっちゃめっちゃ疲れるという。相手と呼吸があってないとすごく気持ち悪い。そんな感じ。」

間に入って木野と皆くんでみる。入れ替わりつつ、説明していく。

あ、ちょっと円みみたいな感じだとわかるかも。

木「でも、かといってこう（完全な円を作ってみせる）ではない。楕円みみたいな感じでなおかつ動き続けている。」

人が入れ替わる。

「（今のをきいて）楕円って考えているけれど、楕円の前に私です。私に向かっていく。この押し時。全身が揺れる手のひらも一緒に。」

人によってそれぞれ違うので、なかなか難しい。

さっきより全然（わかるようになってきた）

木「いまのこの動きって合気道（の考え方）なんですよ。今二人の中でこういう風に循環していたんですけども、エネルギーを受け渡し続けている。で、これが片方の人がすごいがんばってもだめだし、あだしあだしあだし！！ってやってもだめなんです。お互いの出し引きみみたいなものがあっていけばやりやすくなっていく。」

「この2人であわせていくかんじのまま手のひらをあわせてみましょう。」

向かい合って両手のひらをあわせ、漂う。相手が行きたい方向を探りつつ。

木「手のひらは結構敏感なので。手から仙骨はつながっていて、その身体の先につないであげる。足が動いてしまったら動いてかまいません自分だけが一人で動くのではなく、相手の気配、相手とどっちに行きたいのか一緒に話しながらすすんでいきます」

（どうですか？の問いかけに）大丈夫そうです。

ねむくなってきました。（一同笑）

木「なんだかこっくりさんを思い出すんですね、、、でも相手の気配がちゃんと伝わっている時、手のひらすごくつながっている感じしません？上手くつながっていると手のひら伝わって、身体を押されたりして気がつくようになります。それはともかく。今日最後のワークはこのワークをしているところから手のひらをゆっくり、ゆっくり、ゆっくり離れていきます。」

20:36 再度スタート

低くなったり、移動したり、先ほどの回よりも大きく動くことができるようになる。一度ゆっくりもとの状態に戻っていくよう促し、そこからゆっくりと離れていく。でもできれば、離したくない。

20:40 話し合い

ぴたっとは行かなかったんですけどもエネルギーはつながったかなという感じがします。何度も切れそうになったけれども、切れたことはなかった。

木「何度も切れそうになったけれども、お互いつなごうと努力したということでしょうか。つなごうという意識が働いて。つなぐの難しいですね。お互いに相手のことを考えていないと。完全に受け身になっても操り人形見たくなくなってしまいうし。どうですか？（もう一人の方にきいてみる）」

つながっているんですけど、ちょっとタイムラグがあって、こっちはいたいんだなというのが伝わってくるんですけど、移動しながら伝わっていくとか伝わりながら移動していくとか、脳だったらすぐ動くんですけど。

ちょっと接触悪かったかもしんない。（笑）

木「もしかしたら今Jさんは目で見た情報で感じ取っているところがあるかもしれない。目で見てこうきてこうなってだからこうだって頭で判断して。多分手のひらの質感とかで出そうとしている。やっていくと慣れていくと思います。この手のひらから感じ取るのと手からつながっている感じは重要ポイント。なんか宗教っぽくなってしまいうからあまりいわないんですけど、でもすごく大事な、ダンスの根源に近いことだと思う。」

輪になっている感じがしました。

木「手と手がつながってこう輪になっているという。この円が少し歪もうが広がろうが円は円のまま。今やってみて離れていく感じはどうでした？」

離れまいとしてた。切れまいとしてた。気配が残りました。

離れてもつながっている感じがしました。

私も鏡か影かみたいな感じがした。

木「離れていてもつながっている。」

離れてさみしい感じもするんだけど、なんかその、、分身じゃないけれど、ずーとつながっている感じがありました。木「これは屋の回にCさんDさんという双子ちゃんがいる、ちょうど20歳になって、進路も違うし、いつも一緒にいたけれど、だんだんこれからかわっていくのになって話していたんですけども。大切なもの、大切な人が彼女たちの場合は双子だということもあるけれど、まさしく大切な相手です。いつもずっと一緒だし、自分の分身でいたものが離れていくというのをやったらどうかなと思って、やってみたんです。今このペアというのは自分の影でもかまわないし、自分の恋人とかかもしれない。自分のおばあちゃんかもしれないし。そういうものだとしたらそこから離れていく離れかたもかわっていくと思うんです。その時うける印象も変わるだろうし。離れていてもつながっている感じというのはひとついいなと思うし、離れたくないというその気持ちも大事ななと思います。そういう気持ちがにじみ出たら素敵だなと思うんですけれど。」

つながっているイメージで、離れていてもつながっていて、手が伸びていくというか。手のイメージがずっと続いているというか。

木「失って行って「ああ」って思う気持ちとか、でもまだ失ってないよって思う気持ちとか、そういうものがみえてくると。例えばそれが誰とかその人によって違うにしても。失ってもなおまじるとか、失うじゃないかもしれないですね、距離的なものとか、離れていてもつながっているとか。」

うーん。私友達が、亡くなってしまった友達がいるんですけれど。最期にあわなかったんですね。病気をして、最期入院してから、まだ会いにこないでっていわれているうちに、亡くなってしまったんで。具合が悪くなってからの姿を見せないで、逝ってしまって。本人の意向で葬儀とかもしなくて、全く実感のないまま別れてしまって。元々違う街に暮らしていたので時々しかあっていなかったから。なんか別れたんだけど、なんか、別れた実感が無い。ずっとまだつながりのようなものを感じたまま。今みたいにだんだんはなれていくというのとちょっと違うかもしれないけれど、失ったけれどずっとつながりを感じている、という意味では私はそのことを思い出す。

木「実感がわからないというのは、それは変ないい方だけれどお葬式とかいうのはそれを腑に落とさせるというかそのための儀式でもあるんですよね。悲しいけれど、でもみんなが集まって話しをすることで整理するために」

生きている人が、残っている人が気持ちを整理するというか、きちんとわかるためにあるという話を聞いたことがあります。だから本当に震災のときのように突然、しかも遺体も見つからないという状態は本当につらいだろうなと。生きているかもしれないという気持ちが絶対あるだろうなと。

木「もしかしたら生きているかもしれない、つらいけれど、だからこそ生きていけているのかもしれない」

私はその友達は多分そういう風に別れなくなかったんだろうなと思う。それは彼女の優しさかもしれないし、強さなのかもしれないし、、うーん、、だからずっと元気な顔しか覚えていない。それはきっとプレゼントなのだろうなと。思い出したときに悲しくならない。

木「(潤む目をみて) 思い出しちゃうね」

でもそういうふうに(思いたい)、、、、そうですね、、、。

そう、だからおじいちゃんおばあちゃんとか、ある程度年齢の、うちのおばあちゃんなんて大往生という年だったんで、100になるかそれくらいで、それだと遺される側も「ご苦労様でした」という感じになって。そういう心の準備というかあらかじめというか受け入れる気持ちがなく別れるのはとてもつらいのではないかと。

木「突然。でも突然といえば例えば札幌でも起きておかしくないわけで。今の私の命もいきなり突然ここでおしまいということもありうる。なかなか必ずしも当てはまることはないかもしれないけれど、自分もそういうことは起こりうるし、自分の家族も起こりうるし、それこそ交通事故などを考えれば、1年に3万人が亡くなっている状況(注:間違いです。3万人は自殺者の数。交通事故死は年間に4000人程)なので。もちろん震災というのは大きいから、すごくインパクトは強いけれど、自分たちの生活の中でも同じようなそういう突然のことは起こりうる。そういう風に捉えたときにこうして離れていくときに後悔はしたくない、何が起こるかかわらないって思います。今そのような話しをきくと想像していなかったの、上手くいえないんですけれど」

僕の教わっていた人ががんでなくなったときも、いきなりすごいいろんなことを教わっていたことを思い出して、なんで死んでいるんだろうって、気持ちがあったりして。参りましたね。本当に今みたいな、これだけの人と話してるんですけども、人が亡くなるのって非現実的といいますか、いきなりいなくなるんだなって。そういうこともあって、自分は何をしなればいけないんだろうって、そういう気持ちがあります。何ができるんだろう、、

もっと話しておけばよかったっていうのもあるんです。もっとその人のことわかり合っておけばよかったって。

木「私のダンスの師匠というのでしょうか、も、体調が崩れてから早く亡くなったので、なんていうんだろう、私がカメルーンに行っていたりしたこともあって、本当に骨と皮だけの状態になっていて。それでもそのときは意識があって、稽古場にはもうかえれないわねとか話して。発表会があ

ったのでそれがあるからまだがんばるわという感じで話していたくらい元気に。でもその日帰って翌週お見舞いにいったときにはもうそれが最期の日というか。あとから知り合いにきいたら私が話したのが多分最後で。その翌日には完全に意識がなかった。そういう状況なのに、最後に怒られて、あんたなにやってるのっていわれて、それで逝ってしまったので、余計になにか、あの時話しとけばって思います。あの時話しとけばと思ったときにはもう遅かった。それは去年の一番大きいニュースでした。私の中では常にもう最後なんだって。」

「どんな出会いも逃すとそれで終るかもしれないから。そのときを大事にしないとそのあとはないかもしれない。なんかそんなことを学んだりして。震災とは関係ないんですけど、ちょっと去年はダメージが大きかったですね。ダンスの先生つながりで。」

「9時を過ぎてしまって。なかなか重い話しになってしまいましたが、帰りますかね。」

「明日あさってもあるので、ここまで深くならなくとも少しずつおはなししていきたいと思います。」

21:00 ごろ 明日の時間変更、午前チームのことなどをおはなしして終了。

昨日いなかったGさんに学校の中の好きな場所を選んでもらうワークをお願いする（ワークE）。

Gさん：女子トイレ個室（3階）

皆を引き連れて案内するGさん。女子トイレに入っていく、皆「そりゃびっくりだ」と驚く。「みんなが訪ねていくのどうなの??」となり、他の個室をチェック、誰もいないものの、男性陣は入り口の扉が狭いこともあり、外で話しを聞くことに。（撮影の中川さんはやはりはいらざるをえなく、椅子を持ってきて個室の上からGさんをとるような形にする。「盗撮のにおいがする」などと笑いが起きる）

Gさんは便器のふたをあけた状態のところを体育座りのようにちょこんと座っている。

私の個室にできちゃいそうかと思ってたんですね。外に出ると自分だけの空間ってまず確保できないんですね。でもここ清潔だし。わたしの個室ができるなとか私だけの時間が流れるなって思ったんです。

木「学校時代とか小中高の間に女子トイレの思い出とか記憶とかありますか？」

私はこういうところに佇む子ではなかったですね。（しばらく考える）あえていうならば、私トイレに行くときに一人で行く子だったんですよ。それはとっても風変わりなことで、普通の女の子は「トイレつきあって」って言って「いいよいいよ」って2、3人とか3、4人でいくのに。私にとってあれはとっても不思議な文化でした。

木「不思議な文化ですね。」

だって私は歩いてトイレに行くことができるので、他の人の手や他の人のエネルギーを借りないで、行けたから。それはとっても不思議なことだったんですが、そうすること（一人でトイレに行くこと）は女子の世界には入れない、あるいははみ出すことを意味していました。ので、それになじむまでにはものすごく大変な時間がかかりました。

木「女子限定ですね。」

（トイレの外で話す声）

男子は？

ないですね。

なぜ女子は、、、？

男子は小学校の時こんなか（個室）にはいるのは、、、。

そうだよ、それで馬鹿にされたりするんだよ、学校ってそういうところあるよね。

で、我慢したり。

なんでそんな文化ができているんだろう??

ホはいいんだけどみられるんだよ。などと外は外でもりあがっている。（録音不明瞭）

ろうそくの灯を持っていてもらうのをわすれて、Fさんにとりにいってもら。再度撮影をお願いする。その灯が到着するのを待ちながら

多分、女の子はスカートをはいていて、重いものを持たないで、群れを作って多分そういう方が可愛い女性なんだと思うんですね。今男の子は便器の種類が違うので個室にははいるにくいっていうのがあって、一部の小学校では全てを個室にするという学校もできてきているみたいですよ。弊害があるんだと思いますね。どちらの用をたしようとかかなりプライベートな話しで、それが丸分りになってしまうということで、男子は男子でトイレに関しては別の重いものを背負っていますよね。別な文化を背負っています。

木「今Hさんたち言ってたんですねですけど、男子は個室でするのはちょっとというのがあって、しないように我慢をしていた。」

小学生の中学年でおなか痛ってくるこのかなりの割合が便秘なんじゃないかと言われています。幼いので自覚ができないのだと思うんですね。

ろうそくの灯をもっただき、映像をとる。はじめの質問だけ再録。火のこともあり体育座りではなく普通の座り方になる。

木「なんでここを選んだんですか」



家の中でなかなか自分だけの時間、自分だけの空間をとることができないんですよね。でもここにはいつてしまえばここは共通の空間なんだけれど、私がここにカギをかけたとたん、私だけの空間になり、私だけの時間を流すことができるなと思ったんです。なので、私はどこまでも、わがままに、私でありたかったから、ここを選んだんじゃないかなと思います。区切られているということでは安心感がありますね。私は私であってよいから。しかも相当赤裸々に。

木「ありがとうございました」

その後静止画などを撮影する。

翌日の仕事などもあるだろうが、皆さん最後まで残ってください、終わったあとも学校のことや札幌のことなど毎日話してくださる。

22:00 頃 終了。

Amanogawa プロジェクト@札幌

2015.03.07 (土) 午前、午後合同 (13:00-16:00)

参加者 : A、B、C、E、G、H、J (5分ほど遅れて到着)

スタッフ : 木野、中川

場所 : あげぼのアート&コミュニティセンター 12号室、札幌駅周辺

13:00

7、8日は合同にての稽古のため初めて会う人も多い。円になって座り、足のマッサージと自己紹介からスタートする。Fさんなど教文コミュニティダンス部と木野のつながりなども説明。

昨日までと比べなぜかおとなしい印象。

AさんはNONBEの会(月1回みんなで酒を飲む会)というのを開催しており、Hさんは参加したことがあるそう。お誘いをうける(木野は残念ながら東京へ帰ってしまっていて伺えず)。

Gさんの教え子がAさんの劇団を経由して東京でストリッパーになっているという。ゴスロリ系らしい。進学校の中で生きづらかったのでは、あれは天職だねえなどと話す。

そんな話しをしているところにJさんが到着。

Jさんは印刷業でチラシなどを印刷していると話し、では「後ほど名刺を下さい」などと現実的なつながりができていく。

ワーク A'

2人組の立って行うマッサージ

今までくんでいない昼夜のペアを作ってもら。既に一度行っているものなので、どんどんすすめていく。

簡単なストレッチ、腕回し、スイングなど。

13:47 昨日ワーク F で午前チームだけが行った身体動かし系ワーク (2人組で円をかこって逃げる) を行う。だんだん応用として人が入れ替わっていくものへと促し、木野も一緒に動いていく。

13:52 ワーク B 及びワーク B'                      ロールダウン、ロールアップ

ロールダウンを床にねるところまで一人だけで行ってみる。おこされた人は誰かをおこし入れ替わる。

起こすときの起こし方はわかるように触る、助け起こすようにする。(助け起こしたら、自分は土に戻る。起きている間は皆がどのように木になっているか、土になっているかを観察する。)

Amanogawa 一曲目を小さくかけておく(音源はパソコンより)

なかなか崩れられなかったJさんをそのまま立たせる。

木野→J→A→G→E→B→C→H→J

14:05 話し合い

木「倒れていた方、のびをして起きてきてくださいー。あつまりましょう」

すごい暑い!(口々にいいながら円になって座る。)

木「いかがでしたでしょうか。(Jさんに)2回あたってましたね、当たらなかった人もいますか?(手を挙げてもらう)」

木「昨日と今日を比べて倒れていく感じはどうでしたか?」

はい!より朽ちていく感じが感じ取れたかも。しなしなしてた。しおれている感が、こう、首をぐってなったときに、私しおれてるなって思いました。

倒れている時間長かったでしょ、なんか種になった気がしたな。種子。前はね、枯れ葉かなとか思っていたんだけど、ちょっと違うんだよね。種になった感じかなあ。

木「そういうイメージ浮かんだ人います?」

「確かに今日一人目のJさんは倒れる前に起こされてしまったんですけど、(他の人は)結構長く倒れていましたよね。」

なんか、簡単に崩れ落ちていくなという感じが。自分が。こんなに簡単にくずれおちちゃうの、あなたっていうかんじがありながら、身体は崩れ落ちていく。木であろうとはしていなかった、身体は。抵抗しないで簡単に粒になってしまった。

木「つぶ?それは原子とかそういう?」

もうちょっと大きい、土のパラパラパラとした感じ。なんでこんなに抵抗がないんだろうって。

木「必ずしも前回より上手くいったということばかりではないので、音があつて逆にやりづらいとか、長く止まっていると動きたくなるとかあるかもしれませんし。」

昨日より長く止まっていたせいか、床が冷たいと感じました。(皆笑)

木「確かにつめたかったですね。それでなにか自分じゃない感じがして、それは（前もって温めるのが間に合っていなかった木野側の）失敗。私も思いました。」

起こされた時とんとんとさされても起き上がれない。時間がかかる。種撒いて木になるのには時間がかかる。自分の身体が起き上がってくるまでに時間がかかりました。

木「意識がそれだけおちちゃってて、それこそ粒子になっちゃっているから、あがってくるの大変ですよ」「みんな固まらなくていいですよ」

結構僕は慣れてきたというか、動きが荒くなっていたなど。ロールアップもロールダウンもさーっと流してしまって。悪く言えば雑になってしまった。あと、起こす時、僕起こされる時結構介助されたんですけど、起こすときはちょっと手をふれただけで、ずっとおきてくれたんで、やっぱり人によって違うと。イメージというか、相手に対し方が違うんじゃないかと思いました。

木「確かに大分違いますね。起こし方もちがいますね。たとえばとんとんってやる人もいれば、一緒になってつれてあげてる人もいれば（とやりながらみせる）本当に起こされる側も比較的すつと起きる人もいるし、全然起き上がらなくてという人もいて。とんとんとやられても全然気がつかなくてずーっと寝てしまう人もいるかもしれないし、今そういう人いなさそうだけれど。でもそのバラバラさというのが一人一人の違いであり、それはすごく大事にしたいです。それをあえて「僕はこう工夫しよう」とかそこまでは考えなくていいけれど自然にやってしまったものが違うという。それが面白い。」

「起こされるのも大変だし、起こしてくれた人が倒れていくんですけれども、大丈夫でした？」

大体Jの起こし方よかったんだよ、ねてたみたくなくてさ、なんか若い女の人が起こしてくれたかなと思ったらJで。目つぶってたからさ、こうしてこうやって（実演してみせる）くれるの。で、みたら（Jさんで）とたんに倒れちゃうよ。（一同笑）彼女かな（CさんDさんをさす）と思ったら、それくらいすごい自然で。うまいなど。よかったよ、起こしかた。

木「残念なことに他の人のみれないんですよ。今体験したのしかわからないんですけど。でも、またもう一度やりますとかなれば違う人の違う起こし方でおこしてくれて、また違う発見があるのかもしれないですね。」

とんとんだけ、身体使っている人だとイメージ強いからとんとんだけでいいんだけど、使っていないとね、すぐになってしまうのは難しいね。

木「難しいというのもあるし、もしかしたら、つんつんってやってそのままって、ちょっと冷たい人みたいな感じに見えるかもしれないですね。おきといでって。まあ、それはそれでいろんな形がある。」

「今倒れている人みてこの人って起こしたじゃないですか。見回してみて、いろんな倒れ方あるなって。千差万別で、いろんなポーズしてて、その人選んだ理由ってありますか？」

彼は、もうおきたがってましたね。細胞が。（「細胞が?!」一同笑う）寝ているのに飽きてもう立ち上がりたがっていたので、ならば欲求満たした方がいいかなと。

木「その細胞がおきたがっている感じてどこから」

身体がひくついている。上に行きたがっていたんで。各部所が。

木「（その起こされた側の人に質問する）自覚ありました？」

自覚はなかったんですが、近づいてきて、そろそろ起きるかなというのは感じていました。

木「なるほど。おこしてもらえてよかったですね」笑

これって最後まで起きないみたいなこともあるよね。

木「ありますよ、起こされないこともあるし、過去の例だとあまりにも深く昏睡していて気がつかなくて、すごいがんばって起こしてるのに起きてくれなくて、仕方ないから他のところへいくとかなった人もいます。意識がかなり深くなっていることもあるので、それは仕方ないかと。でもそれもある意味個性というか、真実なので、よいのではないかと。」

（私が起こしたのは）Hさんなんですけれど、手がういていたんですよ。こんなかんじで（と実演してみせる）なぜか。（皆笑）流れでなったようにもみえたので、ちょっと手をつついてみようと思ったら、全然ぴくりともせず。

木「つんつんってやってたよね」

やりました。ついたら動くかなと思ってたんですけど、動かなくて、背中からよっこいしょって動かしたんですけど。浮かすって発想が面白いなって。そうなっちゃったのかもしれないけれど。

木「浮かしていたつもりはないでしょ？」

わざと浮かしていたわけではない。

木「木が倒れたときにさ、ちょっと枝がおれてないのがあってというのと同じような感じなんじゃないか（あーなるほど、、、の声）なっちゃったものはなっちゃったものでいくしかない。」

「今ちょっとつんつんてやられていたのは気がついていたりしてました？」

なんか触られてるなどは。

木「でも起き上がってくるのに時間がかかるって言ってましたね」

はい。

木「この倒れ方すごくよかったとか何かあれば。」

他の人は横向きでねているのに、Bさんがうつぶせで床にべったりヒトデのようにくっついていたんです。だから、ああ、こしかない。(笑)どっぷりべったりくっついていて、起こそうとしたら介助しないのに勝手に起きてきて、あ、おきたかったんだって。

(Bさんにそれについて伺う) えっと、土に吸い込まれていくときに、どこかが吸い込まれないところが気になって、なんとかしようって、そのうちにべったりになって。それでずいぶん起こされな...と。(皆笑)なんか私は、種とかではなくて自分が層になっていて、層が一枚一枚はがされて、どろどろどろどろってなって半分くらいになったところで、上からぐわっておこされて、あたし的には「なんで、ちょっと待って!!」ってなって。はがされるっていう感じがあって。それはいやだって抵抗したんだけど、もういい自分ではがれちゃえ!!って。

なので次彼女を起こしたときにできるだけさわらないようにして、なにかちょっと風でも吹いているときにどういう反応するかみたくて。ふうーって風をかけたら起き上がってきたから、結構面白いなって。

木「でもその起こし方がそういう感じをうけたでしょ?(とその時起こされた人へ)」

そうなっちゃったと思います。

なんかちょっとゆらゆらしてなにか目眩しているみたいだったよね。

そうだと思います。

木「面白いね。ほんとに面白いですね。」

木「多分これは(映像撮影の明日も)絶対やると思うので、この動きはひとつ覚えておいてください。今起こしてくる起こし方とかは頭で考えるとわけがわからなくなるので、その時見ちゃったものと見ちゃった人でどう感じるかで言ってみていいと思います。」

#### 14:22 ワーク I 大切なもの②

エネルギーボールをつくる。立った姿勢で手を10cmくらいはなして向かい合わせ、その間にあるエネルギーを感じる。その後できる人は少しずつふくらませる。

木「これは何だったんでしょう?」

木野からそのエネルギーボールを隣の人へ渡していく。もらった人はまた隣の人へ。途中大きさが変わったりする。

木「なにか変わった形になりましたね。。。ありがとうございます。」

「かわっていいです。でも私のエネルギーという感じが伝わっているの。そんなに考えて、わざわざ変えようとかしなくてもいいですけど、かわっちゃってもいいし、ひらめいたらそれで。」

#### 2 周目：逆にまわしてみる。

木「(回り終わって最後に受け取って)何かを受け取りました。2周目回ってきたときにどんなものを渡したか、どんなものをもらったか覚えてますか?どんなものだったか言い合ってみましょうか。」

ものすごく軽くてふわふわとしていて、柔らかいもので、表面が少し光の加減か虹のように見えるもの

木「私はちなみに軽くもふわふわともしていないんですけどさらさらした粒子のようなもので、お塩みたいなキラキラ系ををささささとつまむようにお渡ししました。」

私も重いかと思ったんですが、瞬間ふわって。

木「では、それは何だと思っていましたか?」

(次に受け取った人) 氷。

いま木野さんが渡したときに液体かなと思っていたんだけど、彼女が受け取ったときにがこうなってて?って。違うぞと。四角くって。

でも私の中でまた液体になったので、液体を渡そうとしたら彼もまた固体を受け取って。(笑)

木「受け取ったときには氷のような、四角のような、そういうものがあったのでしょうか。」

(再びGさん) もらったら私の手の中でかわったんですね。かわったものをそのままお渡ししたつもりではいました。

木「何にかわったんですか?」

軽いものでした。中に空気が入っていて。光。

重いんだなと思っていたんだけど受け取った瞬間ふわってなって。

木「(渡した)Gさんの持っていたイメージと(受け取った)Bさんのイメージと大分違うようです。それはよくあることです。しかしそれはもらって氷だと思ったけれどもだ。渡すときには? (以下

それぞれの人が受け取ったものをあげていく、以下受け取ったものと渡したものを並列してかく。

(渡す側) 水を渡すつもりだったんだけど、全然何も、、(録音不明瞭)

↓

こんぺいとうのような感じで。固体。小さいつぶつぶ。かわいい感じ、キラキラ系。

↓

鳥ですね。。生き物。大事そうに抱えていたんで。(「赤ん坊かなと思った」「私も」の声)

(渡す側) 僕はこんぺいとうだったんだけども(皆笑う)。

↓

飛んできたからフランスパンのような細長い。こういう感じだったから赤ちゃんサイズの固体なんだろうなと。あ、長いと思ってその細長いようなものを渡したつもりでいました。

(渡す側) 鳥を飛ばしました。

↓

固体だと思ったね。もらった瞬間に。彼女が持っているのはなにか形が不定形のもので粒子だったんだけども、もっと固まりにして渡した。

↓

もらったときは何も感じなくて。(笑) それで何かもらったんじゃないかと探して、そしたらもこもこした暖かいものがあるって、毛玉かなと思って。もこもこ系、軽くて。

木「なかなかちょっと、いろいろありますね。自分が思っただけで作るイメージがそのまま伝わっているのかはわからない。相手が受け取る意識があればある程度は伝わるけれども、思っていることがそのまま伝わっていないことが多い。それで、結局舞台とかでも、表現しているつもり、私はこんなになんかばってやっていると聞いたとしても、実際お客さんが見て思うことは違うことが多い。特にダンスは言葉で説明しないので、全然真逆の意味でとられていることも多い。じゃあ、今のキラキラ具合をキラキラ！ってやってできるだけわかるように説明すればいいのかということということではない。その氷になっちゃった、鳥になっちゃったその違いがむしろダンスの面白さ。あえて演劇ではなくて、言葉を排除してやろうとしていることの意味だと思うんです。わかります？そこがなんか結構実は難しくって、ダンスでも説明しなきゃいけないという人たちはいるんですけども、私はその誤解はあったらあったで面白いんじゃないかなと思ってます。」

「今はえーそうなるの??っていうのはあったけれども、何となくキラキラした感じとか何となく粒子とか、固体か液体かというような質って伝わるんです。なにかこれは生き物っぽい、あたたかい感じ、冷たい感じということって言うのをむしろ大事にお伝えしてあげればそれに近い印象は伝えることができます。違うものになってしまうかもしれませんが。」

今受け取ったものをそのまま渡すというならわかるんだけど、渡すときには違うものに変えてしまうというのの違いがわかりづらい。

(例として固体を受け取ったのにフランスパンにしてしまう)

木「今説明不足でそのまま渡した人もいるし、変形しちゃった人もいるし、統一した方がいいですね。次にまわしていくときには変形させていいです。もらったものを覚えておく。そのもらったものを変えます。で、渡してあげる。」

それは何に？

木「その変えるときにですね。自分にとって大事なものを、を渡す(ようにします)。」

そのときは、ほとんどの表現に共通するものなのだけれど、研ぎすますのは感覚なんですか、感情なんですか？これは別に状況を設定しているわけではないからね。そのときのイメージをするときに、感情って言うと物語を作ること感情って言って、それとも感覚、なにかのものを伝達していくというのかな、そっちのほうが重視しているのかな。自分の中のイメージの作り方の問題なのだけれども。

木「どちらも重視とかどちらも共存していると思うんですけど。多分大事なものをもらったときに、大事なものをくれようとしているということで感情はおきますよね。でもだからってそれを「大事なものをもらったー(と大きさにみせる)」とやってしまうとそれはすごく説明をしすぎてしまう。それをすることが大事なのではなく、その大事なものをちゃんと丁寧に受け取るということが必要。で例えばそれがこの人ふわふわしたものを渡そうとしているんだとか、受け取りながら(感じる。)。確かに変えるというのはちょっと違う作業なんです。心の中で私が受け取ったものから自分の大事な物をあげたい。自分の中の大事なものをあげる」

じゃあ、ここの関係で一個終わり、ここの関係で一個終わりということですね。

木「そう。うけるととき、渡すときはおそらくちょっと感情がなくはないと思うんです。起こると思っています。そこで喜怒哀楽ではなくシンプルに渡してあげれば十分。あまり正しいはないので、でてしまったらそのままいきましょう。」

14:53 話し合いと休憩をかねて一回毛布をひろげる。  
お茶の準備。実は2時間がんばってるから等話す。  
運動量は多くないけれど集中力が。笑

体力ないから柔軟やっただけであせびっしょりなんだけれど、こっちのほうが疲れるよな。  
お茶の支度をしながら A さんは C さんと話す。新しい仕事はいつから？勤務地は？など。他の人もここ（あけぼのアートセンター）までどうやってきた？などいろいろおしゃべりスタート。

これは神奈川から持ってきたの??（毛布など）

木「今天神山アートスタジオさんというところにお世話になっているんですけども、そこにあった予備用毛布で。さすがに神奈川からはもってこれなかったですね。ライトとかは全部もってきました。トランクの中機材で一杯。服とか全部着込んできて、ズボン3枚重ねみたいなことおきてました。私は友人が教えてくれて、申し込んだんですけど。」

昔鼓の人よんで3週間くらい一緒につくったときね、ウィークリーマンションとか借りたもので、助成金のほとんどそれに消えて。10万くらいかかるから。そういうところあったらね。

木「天神山は昨年5月にできたばかりで、まだ新しいので。これから役者さんとかダンサーさんとかつかえるようになるので、ぜひ。」

天神山の話しでもりあがる。

ミントティをいれてくつろぎつつ一休み。

木「今やっていたものをおさらいしていきましょう」

（木野）母からもらった翡翠のネックレス→宝石（Eさん）鮭（一匹、ぴちぴちしているやつ、捕まえた感じで）→鮭とは思わなかったんだけどモノだと思った。（Aさん）思い出→立方体、箱、固くて重い（Cさん）ベッドの周りにはいる5、6匹のヌイグルミをちょっと磨いて渡しました。→巨大なガラス玉、すごく大事なものと思った（Hさん）段ボールにいろいろなものつめて。引越したときに生活できるような、炊飯器とか野宿しても生活できるような。→四角い大きなもの、さいころみたいな、ごきげんようでころがすようなやつ（笑）（Jさん）ビール→ビール（Bさん）

好きだろうなあって思って。Bさんのために。自分の大事な物なんてない。

木「これだけはなくしたくないとか、これだけは死ぬまで持っていくぞとか、何か誰かに遺すとしないですかね...」

僕は鮭かな...、（ぼつりとEさんがつぶやき、一同で笑う）

木「（笑いながら）大事なものっていったって鮭でいいんですかね。大事なものの生活用品、さあ、何がいいんだろうか。炊飯器大事ですけどね、私ずっと炊飯器なくて暮らしていましたよ。鍋があれば何とかなる、じゃあ鍋なのか？」

「自分の中で一番大事なものってなんですか？」

話しを一回戻して続きをきく

ビール（Bさん）ワイン（はじめ大事なものと思って帽子ってうかんでいたのに目の前でプシってあけられてふっとんじやあって、赤ワインを。帽子っていうのは必須っていうのがあって、いつもかぶっているんです。）→ネックレスなのかな粒状の、もしくはそれがつながっているような。あまり大きくないんだけど、宝石とかネックレスとか（Gさん）持ってはいませんが、砂金（金の延べ棒よりも砂金の方が隠し持って移動しやすいかと（一同笑う））→何か白っぽい、砂っぽい。でもお塩じゃないなと思ったのは確かです。（木野）

木「なにかすごく実用的な人多くないですか？」

「今あげてもらったものでもいいですし、違うものでもかまいません。自分がすごく大事にしているもの、この世に遺していきたいもの、思い入れのあるもの、短くていいので書いていただいでしょ。ある程度大きな字で。よみやすいように」

画用紙とペンを配り書いていただく。無記名、二つ折りで渡してもらう。

15:21 ワークを再開するべく毛布を動かす。

ワーク G 歩く

黒板側に一列に並び、一本の木を決める。平均台とおもって歩いてみる。

最大限のゆっくり、目線は前。

立ち方などを再度確認。

一回目 一列に並んでまずはやってみてもらおう。Amanogawa 音楽2曲目を使用。

木「結構難しいと思うんです。こういう動きに慣れている人もいると思いますが。特に昨日やっていない朝チームの人は。どうしても一本の線見ちゃうんですけど、線のところおいとくと比較的わかりやすいです。多少ずれてしまってもかまいません。自分の思うまっすぐを歩いていってください。それと重心がしっかり移動できればいいと思います。昨日いっていたのは、足の根っこが生

えている感じ、Hさんは雪をざくざくって（ふみしめて）いく感じとっていて、自分が安定する歩き方であればどういう歩き方であってもかまいません。ぐらぐらってなっちゃう場合は少しその場で止まってもいいですし、膝を曲げたままでもかまいません。それは人によって違うと思います。」

「今音をいれているのですが、この音はすごいゆっくりな速度でじわーっときます。その感覚でいくとよいのではないかと思います。」

二回目 「自分のできる最大限のゆっくりで歩きます」

そのまま右足を引いて後ろをふりかえるところまで続けてみる。

木「今歩いている時それぞれ何かを見て歩いていると思うんですけども、何かに向かって歩いていたと思うんですけどそれは何でしょうか？」

光が私をよんでいたので。ほそーい、白い、とてもまぶしい光が空間から私にのびていて、私は「ここにおいで」ってきいたような気がします。導かれていきました。

終わり、一生の終わりに向かって歩いていく。すぐはこないけれど、ずっとずっと何十年も歩いていたら、きっと人生の終わりになるのだろうなあと。曲が切ないからついそういう気持ちになってしまいました。

かぶっちゃった。天国。天国に向かっているような感じ。（「死んだ先に行くのは天国なんですかね、わからないですね」）

木「何を見ていたんでしょうか、逆に何を見ていなかったんでしょうか」

長いところ、ゴールとか見えない、すごく長い。道は見えるんだけど。廊下かなと思ったら永遠に長い。そこをあるいてる。はじめ下を見てたから廊下かなと。二回目下を見ないようにしたら（そう思った）。

木「(みていて) いろんなところを歩いているような気がするんです。皆さんの歩き方が全然違うので。」

自分の下が黄泉の国みたいな感じで。そこから落ちると死ぬみたいな。この一本道は安全圏で。下見ると引き込まれそう。

私はなんか、自分の足の感覚の方が強くて、最初は何か砂の感じ何だろうなと思って。だんだん、西部劇みたいな感じの（荒野？）埃っぽいところを歩いて、でもほんとは砂のはずなのにか思って。最後は日本海になっちゃって。その質感がひび割れた乾いた感じの中に草が生えて、海があってという。地域が移動していった。自分が足をおろすことで連れて行かれる。

木「足がひっぱってってくれるということ？みているんだけど外を見ているのではなく、どちらかというと自分の身体の中の感覚が。真っ暗闇の中とか」

それはない。どちらかといえば明るくて、でも先が何かとかそういうのは全くなくて。歩いているその感覚でかわっていく。最後の日本海のところは結構海の淵。

巖流島の海辺を歩いている。

木「もしかすると隣から（イメージを）もらっちゃったのかもしれない（一同笑）」

「今歩いているときって周りの人一緒に歩いていますか？自分の空間に他の人いますか？それとも自分は自分の空間を歩いていて自分一人で歩いている感じでしょうか？」

僕は意識しちゃうな。

木「意識しないようにしていますか？これは答えとかないんですけど、意識しないようにしているのに意識しちゃったのか、意識するのが当たり前なのかどっちでしょう？」

意識しないようにしているんだけどね。

彼が強いんだけどね（とHさんをさす）俺についてこいっとはいっていないんだけどね、なにか感じるの。そしたら（逆隣のEさんをさし）彼も感じはじめてね。3人でどっかいくのかと思ったよ。

木「確かにこの3人は同じ速度で動いていましたね。3人からあと（他の参加者）はずれていくんです。」

あわせているわけではないんだよ。ゆっくりと。

私は我が道を。1回目とか視界には入っていたけれど、2回目は我が道を我が道と思ってました。

人の存在はわかるけれど、うっとおしいなあとと思うときもありつつ、なんか、まあいいわって。気配は感じてる。

僕はみんなで天国にむかっていましたね（一同笑い）ご臨終かって。特に意識はしなかったんですけど、伝わってきましたね。

みんなはいましたね。でも私の人生上の人ではなかった。

いるなどは認識していました。でもいるなで終わった。

木「この同じシーンを新百合ヶ丘で行ったときもやっているのですが、そのときはみんな意識をそろえる練習をしたんですよ。つまりひとつの世界で生きているから。みんなひとつの世界。でも全然違う身体。なので、呼吸を合わせて一致させようとしていたんです。」

「ただ、なにか昨日もちょっといったんですけれど、皆さんの人生はそれぞれ違うんじゃないか、見ているものが違うように。みんなそれぞれ歩いてきていて、隣はいる。でも一緒に人生ではないらしい、ということのほうがもしかしたら札幌的、ある意味リアルな感覚に近いのではないかと思います。あえてそろえるのではなく。」

「自分の見ているものを認識しつつ、相手の気配も感じつつ、相手とそろえようとあえてがんばらないで自分の道を歩いていけたらと思います。それがそのまま出せたら。」

「いま、最後振り返ってもらおうというのをやってもらったんですけれども。それは明日の撮影でもやると思います。振り返ったときに、あ、学校だって思ったと思うんですけれども、振り返ったあともう一度向きを変えてここから外へできるようにしちゃいます。カメラは移動させます。

で、振り返って、もしかしたらじっと見る人もいるかもしれないし、もう私はいくわ！っていける人もいるかもしれないし、わかりませんが。振り返って一回正面をむいてから切り替えてください。速度はお任せします。最後はこの線くらいまで。」

三回目、音楽とともに、自分のタイミングでスタート。終了後戻ってきてもらいました座ってもらう。

木「2回目やってどうですか？逆にわかりづかったこととか」

みんなの気を感じた。いくぞではないんですけれども。

気配が強くなりましたね。

木「横の感覚がみえましたね（はい）でもだからといってみんなそろっているわけでもなく、」

別人ではいる。

木「なにか、がくってきたときにもそのまま意識を飛ばさなかったのはすごくよかったと思いました。ぐらついたりとかいろんなことがおこりうと思うんですが、例えばそれは人生上つまづきがとかあってもそこから少しずつカバーして戻っていくという風に。」

木「振り返りについては中川さんともあとで相談しますが、一応皆さんでそろえていただくかと思っています。で、振り返ったうえで戻ってくるときのタイミングは個人でわけてほしいし、戻ってくるときに学校とか昔の思い出といったところから出て行く、もしくは変ないい方ですが、現実に戻るリアルなそれぞれ、30代40代50代60代にもどし、でていくみたいなかんじにできたらよいかなど。

意識を少し切り替えるというか、振り返ったときと、戻ってきて外へでようとしたときはかわると思うので、そこをなにかひとつ考えてみていただけたら。もしかしたらリアルに帰る必要はないのかもしれない。ずっと続いていくものなのかもしれないです。その人によって違うと思うので。振り返ったときに感じた感情とどうつないでいくか。」

最後に明日のための説明を行う。

木「今までもずっと撮影していますが、明日、本格的な撮影になります。今日7人ですけれども、あと3人きます。撮影の内容は紙を見てください（別紙）脱力とか土になるもの、大切なもの、ゆっくり歩いていくなどです。Bさんのいっていた廊下を走るシーンとか考えています。あと夜の会合のときにGさんがおっしゃっていた雪山に登るというのも、家が雪山に埋もれてて、家がないと思ってよく見たら赤い屋根がちらりとみえて、のぼって見たら実はそれは家だったという話があつて、ちょっと雪山に登るといふのを皆さんでしようかと思って。服装がぬれる可能性があるので替えのズボン、もしくは濡れてもいい格好でいらしていただけたら。私が試したときには膝まではいってしまったところもあつて。そこだけお気をつけ下さい。雪が降って大雪などのときは内容が変わります。」

GさんDさんの旅立ちって？

20歳の旅立ち！

木「昨日ちょっと話していたんですけれども、ずっと学校も一緒に、仲良し姉妹だったのが、お仕事も全然違う職種につくし、これからかわっていくのかなと話していたので、番外編でと思っています。これはちょっと後回しかなど。」

「学校各地一部再録とあるのは皆さんそれぞれ自分の所を話していただいたんですけれども、そこから走り出すというのをもしかしたらとらしていただく可能性があります。これは再録ということでとれていない人などを優先して行います。今までやってきた内容をひとつひとつやっていくとイメージしてください。」

ワークは稽古着？

「ワークのときも稽古着でなくてよいです。ほとんど撮影になります。そのときにこの格好だったらこれできないということがおきたら困るので、その格好でやってみていただきたい。とってほし



いときの格好ですが、稽古着でもいいです。皆さんここに来る時下に着ていたりするので。その格好そのままでもかまわないんですが、本当は2011年3月11日に着ていたものというのがあります。ただ、そのときの服もっていないしとかわからないということもあるので、お任せします。すごいキラキラとかだと困りますが、、、。

外での撮影があるので、普通の格好の状態でもワークも行うことになります。例えば薄手のコートを着ていたり、上に着るものも考えてほしいです。あと、靴ですがここでも靴を履いた状態でいきます。ヒールだと大変だと思います。スパイクはないもの（床を傷つけるため）をお願いします。靴をはくと崩れるときにがったんとなったり、やりづらいということもあるので、衣装を着けてワークをやってみましょう。外履きの底をふいて使うという感じですね。もし学校の内履きがあるのであればそれでもよいと思います。外で走っていくときにそれでよければ、Cさんとかは持っているだろうけれど、他の人は持っていないと思うので、それはそれで。」

16:10 ごろ

映像上で画像をあわせるための説明、明日の時間変更（1時から5時半）などをお話して終了。

靴がかなりみな気になってしまい、最後まで話し続ける。「タングツ」という単語が中川さんには通じないのがわかる。

終了後、札幌駅へ移動。

Cさん、Dさん（アルバイト後に合流）、木野、中川で撮影を行う。

撮影後近くの喫茶店でお茶をしながら、二人に感想をきく。

その日撮影を行ってみて、やはりそれぞれの人のそれぞれのエピソードをいれていけないだろうかという話しになる。帰宅後中川さんとミーティングにより大幅に撮影内容の変更を決める。

Amanogawa プロジェクト@札幌 2015.03.08 (日) 午前、午後合同 (13:00-17:30)

参加者 : A、B、C、D、E、F、G、H、I、J

スタッフ : 木野、中川、古里、木野妹 (仕事のため 15 時頃まで)

場所 : あけぼのアート&コミュニティセンター 各所、大通公園、狸小路

この日より写真の古里さんが合流。また全員が集まるのが初めてなこともあり、簡単な自己紹介などを行うところからスタート。3月11日のときにはとそれぞれが自分が何をしていたかなどを話してくれたりする。それについては11日の記録におさめることにする。撮影ということもあり、全てを通じての録音記録などを取ることができなかったため、おおよその内容だけを記録する。撮影内容について詳細は参加者へ説明に配ったプリントを参照。7日に説明した内容と変更点が多くある。

ウォームアップとしてワークAを短縮版で行う。

◎撮影①ワークB、ワークB'・ワークI

一人光を持った人だけは目をつぶってたっている。

他の人はロールダウン、土になる

のこされた人はベルの音で目を覚まし、あたりを見回すと皆倒れている。

この人だと思ふ人を起こし、自分の光を渡す。

その光は自分の命なので、渡すと土になってしまう。

光を受け取った人は再び自分の光を誰かに託すべく立ち上がる。

光(グラスに入った炎)を具体的に持つことで、命を渡すと明確化、それを渡すということ、うけとるということを大切に行うように促す。

これを3回行い、それぞれ撮影する。

1回目は木野が、2回目はBさん、3回目はFさんにはじめにのこされる人役になってもらう。

1回目終了後

全員があたってはいるが、一度説明のために区切る。

木「大体わかりましたね。すごく、すごく重要なことがあります。このろうそくの灯は何なのかということです。今倒れていた人は何が起きていたかわからないんですが、これをもらう側の人、あげる側の人、気持ちはどういうことなのかということです。あげる側もだんだんと崩れていくのではなく、あげてしまったらもうそれは死体と一緒に。そこを大事にしないと、このものの大事さは伝わらない。」

ワークI 大切なもの②

木「皆さん円になっていただけますか？隣の人へ渡してあげてください。自分の命を、自分の大切なものを、隣の人へ確実に渡してあげてください。またきちんとうけてあげなければいけないですよ。」

「渡し方もかわるし、持ち方もかわると思うんですよ。」

「ただ流していくわけではないから。1個1個大事にしないと忘れてしまうから」

「今渡して回ったじゃないですか。もらうけれど、もらったら、その人はその場で命を失っていっちゃう。だって、光あげちゃうから。それを奪い取れるかっていったら、とれない。あげるって差しだされても、そのあと起きることがわかっていたらわかりますよね。なんかよくわからないけれども、どうけとっちゃったって思って、そこで目の前で崩れていく人見たらどう思うでしょう。」

「命の灯というのを言葉でしかみていないとふーん、灯渡すのねで終ると思うんですけど、そういうことを考えると、今起こすときにこの人に自分のかわりを任せたいと思うし、渡したら自分は亡くなってしまふかもしれないけれど、でもって」

「もちろんそんなよく知らないかもしれないんですが、今仮にこの10人でやったときにどうなるか。」

「考えすぎるとわからなくなってしまうんですが、伝えること、のこすこと、それを考えながらやっていたら」

「人生において、実際それを託せる人というのはそんなに多くない。でももしできたら、それが続いていったらそれはすごく幸せなことなのではないかと私は思うんです。」

1回目あつた人に手を挙げてもらい、当たっていない人を確認、その人たちを中心に起こすようにしていくことで、全員が体験できるように促す。(必ずというわけではない)

2回目はBさんから行うことにする(木野がBさんのグラスを持っていたためと理由づけていますが、中川さんとの打ち合わせによるもの)。

2回目終了後

木「一回区切ります。お疲れさまです。ずっと眠っていた人もいます。起きてきてください。(集合を促す)今受け渡しをした方、どなたですか？いかがですか？」

(録音不明瞭のため1人分のコメントが聞き取れず。受け取った時、という単語と歩き方がちょっとというのは聞こえる。)

自分の足下に、自分にろうそくを渡してくれた人が倒れている。ものすごい、切ないという言葉では言えないものがありました。だから自分も確実に次の人に渡しさなければならないという信念をはっきりと思いました。

木「だからこそ大切にきちんと受け取るし、きちんと渡すしとなりますね。今回のの方が歩く速度もゆっくりだったし、渡すときの渡し方もものすごく丁寧にしていたと思います。やっていない人もいますけれど。たぶんそういうことはすごく大事だと思います。あと、倒れている人が意識をまだ戻す前に渡して倒れてしまうということも実はおきていて、それはちょっと気になりました。意識がない状態で気がついたら手にあつたみたくなくなってしまつて。もしできれば何らかの形で目が合つてそれから渡す形になってほしいと思います。身体を起こしても、立ち上がったままでもいいので。大事なものを渡すときに寝ているとか倒れている人に渡すということはないでしょ?よろしくねって。灯もその人も見ると思います。この人からもらうという確認がないと。」

「実は今回2回あたりましたよね、感想とかありますか」

そんな知り合いとかではないのだけれども親近感というか(感じました)。大事なものをもらうと。

「大事なものという思いもそうだし、受け取る人が適当に受け取るとやはり悲しいし。今回あつた人(挙手してもらう)、実はまだ当たっていない人もいますし、1回目当たつたけれど今当たっていない人もいます。なんとなくみんなが全員あつてみるようにしてみましよう。(2回とも当たつていなかった) Fさんお願いしていいですか?」

### 3回目終了後

途中で参加者の一人が(日頃の疲れからか)眠ってしまい、いびきが聞こえてくる。Amanogawaの音楽といびき。他の参加者も気がついたようで、その話してもりあがる。

また、たまたまストーブのそばで横たわってしまった人が温風を顔(と髪)に浴び続け、つらそうだったこともありストーブを一回切ったなどの話しもでる。(音声記録ここまで)

#### ◎ 撮影② ワークE 私の好きな場所 再録

各自の好きな場所から走り出すところを撮影。階段、廊下、あけぼのの出入り口なども走っていく。

前日までお休みが続き、このシーンを撮影していなかった I さんには教室に残ってもらい、教室で佇んでいる(ろうそくを見つめている)シーンを撮影する。

#### ◎ 撮影③ ワークI 大切なもの②

皆が各場所から教室へ戻ってきたという設定で一人残っていた I さんから光をもらっていく。

前回(新百合ヶ丘)のときはここで既に1列になっていたが、ひとつの火から枝分かれしてだんだん増えていくという構図に変化、その後簡単な振付を覚えてもらい、ろうそくを上を持ち上げるゆっくり離れていく(ここはワークH 離れることの応用)シーンを撮影する。基本の自分の立ち位置は撮影①のときに決めた場所。

#### ◎ 撮影④

##### ワークG 歩く

撮影③と④はほぼ同時展開で進行。17時でいかねばならない C さん D さんのため、一度④へいき再び③と④を続けて撮影という形態をとる。これは外の光の変化の都合。この17時-17:30の明かりがもっとも美しい(夜になると暗くなりすぎて、みえない)ため。

それぞれの位置に立ってもらい、後ろにいる人から歩きはじめだんだんと一列を形成していく。最後に一回後ろを振り返り、自分のタイミングで外へと出て行く。Amanogawa 2曲目を使用。

全員での撮影はここまでで終了。時間的にも5時半ごろまでかかってしまう。本当は雪山での撮影も予定していたが、悪天候(予定以上にあたたかく、雪がかなりとけてしまった)とプラン変更に伴い G さんだけをお願いすることにした。

各個人の現在の生活のシーンを撮ろうということで、各自と相談し、札幌市内ロケに行くことになる。以前書いていただいたアンケートや会話のなかででてきた、現在の生活にゆかりのある場所を選んでいく。いくつかは木野、中川からの指定。

G さんの雪山登り(あけぼのアート&コミュニティセンターグラウンド)

H さんの大通公園

I さんの狸小路

B さん、A さんのアトリエ(自身の劇団の稽古場)

F さんの豊平川

E さんは理学療法士として就職が決まったものの現在は職場のようなものはないため、あけぼの内のロケとする。

C さん D さんは札幌駅と中島公園と両方で撮影、最終的に札幌駅を選ぶ。

J さんだけが決まらずその後メールなどのやり取りで相談することになる。(J さんの希望としては藻岩神社があげられたが、残念ながら天候のため中に入れないう状態で断念する。かわりに宮の沢周辺の某小学校から見た

夜景を教えていただく。）

全てを1度にとることはできないため、この日はこのうちGさん、Hさん、Iさんを撮影。

### ◎ 撮影⑤

#### Gさんの雪山登り

あけぼののグラウンドにある雪山を利用。グラウンドをまっすぐ突き抜けて歩き、登ってもらう。撮影の都合で3階からの遠景とそばからとる近景と2種類。その近景の撮影の際語り始めるGさん。

本来はそのときの感じで登ってもらうというだけであったものの、そのときの説明も克明にしていた。

（登ったあと）そこは雪捨て場になっていて向こうの人もこっちの人も（ご近所の方々）皆ここを雪捨て場にしていたんです。で、この深さで、この上にゆきがふわってかかっている、見たことのない雪原に思えたんですね。雲の上に立った神さまにでもなったような不思議な感覚が私を襲ってしまっていて。ずっとその感覚を味わっていたんですけども、ふと私は家を探しにきていたんだと、無理に現実には自分の意識を戻そうとしていたんです。

で、登ったときから気になっていたんですけども、一カ所だけ真っ黒い雪が固まったところがありまして、今時煙突掃除でもしたうちがあるのかなと思って、その黒い雪のところまであるいてきたらそれは黒い雪ではなくて、真っ黒い穴だった。で、不思議に思ってなんで雪原に穴なんてあいているんだろう？とのぞいたら見慣れた玄関のたたきがあって、非常に丁寧に作られた細い階段があって、あったーと思ってその階段を私はおりていったんです。

おなかの中には正直怒りもあったんですけども、ここは何にもふれないで、元気よくたいていまってというのが正解だなと思って、いつもの通り、とっても大きな声で「たいていま」って声をかけたんですね。

そのときの様子をとるとのことですかね。

木「そのときの様子ということだけではないかもしれませんが。今登ってきたときの感じというのは、思いだしたりとかしますか？」

えっと、、そのときはこんなものではなくて、ほんとに険しい山で。荷物も落としそうになるくらい。一步一步ここに家があると信じ込まないと登れないくらいの雪山でした。けれどもそこには人の登ったあとがあって、登った人がいる。だからきっと私も登れると思って登ったんです。だから、あの日を再現するのは難しいなと思いながら、自分なりに登りました。今の私の感情でっぺんに登りました、そのあとをとりましようということでもよしいでしょうか。

木「完全にそのときのものは出せないです。そのときのことを思い返しつつ登って、見たということですね」

そうですね。

あのときはああだったなと思いながら登ってみた、ということですね。

後ろを振り返るGさん、ゆっくりと見回す。

ザクザクと歩くが、雪山が崩れかけており、所々膝近くまで埋まってしまう。ちょうど夕暮れ時でその振り返る姿がとても印象的。通り抜けておりにてもらう。雪に埋まりながら歩いていくカット、グラウンド（ダンブなどの通った痕があり傷のように見える）をザクザクと通り過ぎていく姿、ゆっくりと見返した先には夕暮れで家々の光がみえているというシーンを収録する。彼女が見たものは家族であり、様々な思いを抱えつつも家族とともに生きている姿が現れているように思われた。

### ◎ 撮影⑥

#### Hさんの大通公園

Hさんは大通公園が好きだという。元々アンケートに書いたイメージでは夏のイメージだったらしいが、今は冬。夜になってきて、皆が思いついたのはテレビ塔。テレビ塔の下へ移動する。

ただ踊りたい、踊っていればそれでいいとっていたHさんのイメージから、実際にテレビ塔の下の部分で踊ってもらうことにする。中川さんにひいた画面でとってもらい、Hさんの踊りからテレビ塔のイルミネーションへとつないでもらう。

塔のてっぺんをめざすかのごとく。

### ◎ 撮影⑦

#### Iさんの狸小路

⑥の大通りから歩いて移動。狸小路は札幌で有名なアーケード街、非常に長い。はじめIさんは近くでいいですよ、歩くの大変だしとっていたが、Iさんの好きな7丁目エリアまでいく。6丁目まではかなり楽しんで、アーケードも立派なのだが、なぜか、7丁目にはいったとたんに寂れてシャッター街の様子になる。が、一方でその雰囲気を楽しむ人（Iさんもその一人）は多いらしく、おしゃれなカフェ、居酒屋さんなどもかくれて点在している。

人は極端に少ない。そしてとんでもなく道は広い（なにぶん6丁目までのアーケード街の延長なので）。

そのど真ん中を歩くことにする。Iさんは運動をしていたこともあり、歩き方も力強い。強い意志を感じる。

ちなみに旦那さんのスープカレー屋さんがこの近くにあるそうで、後日伺うことにする。

終了後、その場にいたメンバーで小さい打ち上げ（まだ終わっていないけれど）を居酒屋さんで行う。

札幌はじめて組の中川さん古里さんにほっけとザンギ（Jさんおすすめ）を食べてもらうことができた。

Amanogawa プロジェクト@札幌 2015.03.11 (水) 午前グループ (10:00-12:00)

参加者：A、B、C、D、E

スタッフ：木野、中川、古里

場所：あけぼのアート&コミュニティセンター 12号室、入り口周辺、駐車場、アトリエ阿呆船

10:00 ワーク A

2人組の寝るところからのマッサージ。今日がワークショップの最終回になることから話し合い中心の予定ではあったものの、基本になるワークだけでも再確認のために行う。追加して十字形で寝て転がるマッサージを行う。水身体の応用として。簡単なので一般の学生さんなどにも応用しやすいとして紹介する。簡単なストレッチ、腕回し、スイングなど。(内容は基本的に5日間同じものを維持。今日は最終日ということもあり、解説重視で行う)

10:28 ワーク B ロールダウン、ロールアップ

床まではいかない種のところまででストップして戻ってくる。今回のワークの総集編として行う。

10:30 話し合い

再び毛布を用意、それぞれのグラスに火をつけて自分の前において話し合いスタート。

その準備をする間も「うちの知り合いにも保育所で働いている子がいて」「家近いの?」「仕事も最初は衣食住が大変ね」など世間話が聞こえる(録音不鮮明により曖昧)。

木「お疲れさまでございました。今日は2015年3月11日ということであれから4年になります。ということであのお話などをお聞かせいただきたく思います。この前の撮影のときにもお話いただきましたが、再度とれればと思います。やっぱりいろいろ撮影会のときってぼろっとGさんが「あのときは」といいはじめたことによってぼぼぼとできてきたわけですが、あの日あの時どうしていたかお話しただければ。全員が話さなくてもいいのですが。順番とかもないです。」

Gといっしょにいたので何となく一緒なんですけれど、その日学校終るの早くて自宅にいたんですよ。Gは着替えていて私は制服だったんですけど、なので何となくこうちょっと(制服に似たような服をきてきた)。高校生だったんで。高校一年生の終わりだったんですけど、、、そのときは普通にこんな感じで。普通にソファに座っていたんで、自分が揺れていると思っていたんですよ。ちょっと揺れているなって。なんか洗濯物見たら洗濯物揺れていたんで何だこれはおかしいなと気づいて。ちょっと揺れが、あんまり私たちが住んでいるところが、手稲区でもあんまり揺れないところなんです。なので、そんなに大きい地震を体験したことがなくて。それでもちょっと揺れが大きくて驚いて。テレビ見てたんですけど、DVDでそれがテレビの画面に切り替わってそれで「おお!」って驚いて。

家電の技術にびっくりしたよね。前の年くらいに買い替えたんですよ、確か。

木「ちょうどあの時期が地デジの切り替え時期でもあったんだよね」

そう、そうなんです。テレビはまだかえていなくて、レコーダーだけだったんですけど、まさかそこまで察知してくれているとは思わなかったからびっくりした。

そこそそ新しめのやつだったんだよね、T社の...。(具体的な金額まででてきて「そこまでいわなくていいから」とみんなで笑う)

北海道まで津波がくるっていうのがあって。映像がずっと映し出されてわーっていう。もっとすごい映像とかあとからみたんですけど、その日は函館とか北海道ローカルの映像で(津波がくる可能性があるため)警報とかも見たことないマークがずらって並んで！日本全国みんな、黄色い線で埋まっていた見づらいなとか思いつつ、1日2日ずっと続いていました。すごいことになっているんだなと思って。

木「すごいことになっていると思ったということは、自分自身はそんなにすごいことになっているとは思っていなかった?」

思っただけです。最初は。

木「ちなみに北海道、札幌はどれくらい揺れましたか?」

震度3か4くらいだと思います。

釧路かなんかね、あそこも。

札幌でも3か4くらいじゃないかなあ。

街中は揺れましたよね。

木「ビルの話してましたよね。ものすごい揺れたとか」

3くらいならそんなに大地震って感じではないけれど、、、

木「ただ閉じ込められた経験はなかなかないですよ(8日話して下さったBさんに話しかける。会社で就業中に地震に遭い、ビル全体が大きくゆれ、セキュリティシステムが作動しビルからでることができなくなってしまったという。)」

どうやって脱出したんですか？

その、何時間か閉じ込められて、地震が起きたのが2時45分とかそれくらいだから、2時間とかかな。電話通じなくて、一人PHSかなにかだけがつながって、管理している人がいろんなところに連絡して。パソコン自体が使えなくて。それこそなにか生き埋め状態になるというか。(揺れが大きい)机の下に隠れたりとかしました。すごいびっくりしたのはパニックになる人がいないの。すごい人数、フロアごとに何十人って働いているのに、叫んだり走り出したりする人がいないの、すごいかんじ。逆に言えば、そんなに、、、何年前すごい地震あったよね(「十勝沖?」の声。このあたり音声不明瞭)、北海道の人ってそんな感覚ないから、彼女もいっていたけれど、こんな大事になるとは思っていないと思う。多分ちょっと待てば収まるかなと思ってたと思う。ただたまたま仙台とか出身の友達がいる、その人たちとかは東北だとかそういう情報はちょっとずっちはいってくるから、連絡をとろうとしていた。

でも全部パンクだったよね。

木「連絡とれないし、電話使えないし。」(そうその声)

セキュリティで全部とまってしまうから、部屋自体も出られないし。

エレベーターに閉じ込められた人はいないの？

いやわかんないけれど。

かならずね、バッグに水とね、一本あると2日くらい持つでしょ、あと袋とね。部屋の中閉じ込められたらさ、そういう可能性だとしてすごい高いわけよ、札幌だって。で、そしたら一番水とうんちが大変だっていうの。一番ね。今回のだって何時間もエレベーターに閉じ込められた人がいましたよ。たまたまのつたらね。全部シャットアウトになってしまっただけ。

木「電化製品というか電気に頼っていると一気に全部アウトというのを実感しましたね」

友達の旦那さんで、ベトナムで携帯、ちょっとエレベーターに乗ったときにおいてきたら、真っ暗になって。1時間閉じ込められたんだって。ベトナムで。一人。エレベーターだから電話通じないにしても、ちょっと部屋に携帯置いて、誰も彼がないこともわからない。

木「そういうことはありえますよね。今とか携帯持ってて当たり前でたまたま忘れたということだし、ちょっと前だと携帯なんてなかったわけだから。」

エレベーターが一番怖いね。一人でも怖いし。10人くらいとかでも怖いよね。必ずパニック起きるし。

木「仕事場とかでもその人がいなくなったとしてもわからない。私の大学のときの先生で一人暮らしをしていて、独身で。ご両親が亡くなっていて、そのお墓参りをした先で、転倒して頭をぶつけそのまま亡くなってしまったことがあって。たまたま仕事がない時期で、夏休みだったし、次仕事、あれ、こないわね、どうしたのかしら?くらいなもので、数日あいてしまっただけ。」

40万人くらいいるでしょ(孤独死についてと思われる)。

木「孤独死とはちょっと違う気がするんですけども、普通の生活をしている上でたまたま亡くなってということはある。で、例えば私が亡くなったときに気がつく人は誰かいるのだろうかとか。それこそ一人暮らしをしていて、職場もフリーランスなわけだから、どうなのかなと思います。今はご実家ですか？」

実家です。

??実家って年じゃないなあ。親も死んじゃったし。(笑)

でも若い時丈夫だった人って過信しているからあんまり気をつけなくて。すごい隣近所みんな知り合いなのに孤独死の人多いんだよね。結構。だから変ないい方するとみんな死ぬために田舎戻ってくるところあって。田舎だと家はまあ借りれるし、年寄りでも住める環境だったりするし。ちょっとみないねーってみんないってるんだけれど、ちょっとみないが1週間2週間たつて、、、都会だと新聞がたまったり(でわかると思うんだけれど)

木「でも都会でも旅行に行ってるのかもかもしれないし、ってなって、わざわざピンポン押して確認してくれるかといえば難しいと思う。」

東京ほどではないけれど、ミイラ化しているよね。

木「近くであってでもどこまでタッチしていいかわからないところもあって。何が起きているかわからない。何が起ころかわからない。それこそエレベーター閉じ込められる事件とか、事故とか、急な心臓発作とか本当に誰にでもおこりうる。」

いま、なんか電話番号とかもしらなかつたり、ありますよね。派遣なんかの仕事だと日替わりでいろんな人が仕事に来ていたりして、今日、誰が休みで誰が来るかなんて上の人にしかわからない。その人がいなかったとしても別に出勤していないからいいんじゃない？って、今日休みだからって。実際何かあったのかもしれないけれど。極端に言えば、(派遣社員の中には)住所不定の人もあると思うし。たくさん雇われたときには。

僕は3月までつとめて、次のところと違うタイプの老人施設で、利用者さんの歩行練習をしていたんです。みんなが地震だ地震だって。そのときは自分は何より利用者さん転ばせたら困って抱えて転ばないようにして。揺れがおさまったら余震が来るとのことだったので、あわてて座らせて。これはヤバいんじゃないかという話しになって。パニックにはならなかったんですけど、テレビをつけて。

そのときちょっとだけ印象的だったのが、亡くなった方が2名って書いてあって。それじゃすまないだろうって。やっぱり加速度的に増えていって。家にいるときテレビつけて。津波が収まってから孤独死とかあって、それが噂になったんです。ソーシャルワークの人で、老人施設が山の上の方であって、物資とか届かないから何もできず死を待つ人たちがいて、実際には報道されているよりひどい、と。

木「どうしようもないことだったんですね、だからといって助けられるかといえば助けられない」  
そうですね、あのときはまだ大々的に東日本といういい方をしていなかったんですよ。普通のセブンイレブンの募金箱に5000円くらい入れて。それくらいしかできなかった。すぐいってもしようもならないし、このあとボランティアの募集とかあったけれど結局いかなかったし。いけばよかったかなって。ま、僕がいって何の助けにもならないかもしれないけれど。

木「どうなのでしょうね、それは、もしかするとそれは見たり考えたりしたことをEさんが話したりすることでも影響を与えるかもしれない。私半分学生の身なんですけれども(木野は夜間大学院にてスポーツプロモーションを学んでいる)授業の一環で(東北の)施設で傾聴ボランティアというお話をきくだけのボランティアがあります。その人たちの話を直接聞く。経験そのものをきくのではなく、普通の膝がいたいとかそういうことをきく。いろんな形があるのではないのでしょうか。今でもそのようなものはあるし。そのボランティアがある方がいいのかはわかりません。向こうは向こうで大変だったりもするのでわかりませんが、今からでもできることはあるんじゃないかと思います。」

募金といえばなんですけれど。地下歩行空間(通称チカホ、札幌駅と大通り駅を結ぶ地下通路)ができたのが震災の翌日。(よりによって??等の声。地元民もあまり知らなかったらしい。)

それで報道されなかったとか。(そうだそうだという声。ちょっとしかでてなかったなどの証言。)

で、その空間で募金活動する団体が結構あって、実際にいって見たこともあって。さっきお礼はじめていれたという話しをしていましたが、このくらいの箱にすごいたくさんお礼がはいっていて。赤い羽根の募金とかもお手伝いとかしたことはあったけれど、そういう比ではないとんでもない量のお金が入っていてびっくりした記憶があります。

募金って言えばね、僕はちょうど次の芝居をする予定だったんだけど、アトリエで(チャリティー公演したんだよ)。それはすごく面白くてね。人っていうのはわかるなって。今ちょうど次の芝居するんで一般公募してて、昨日その人面接触したんだけど、はじめてですかきてきたら、省エネだといってAさんが電気使わないで演出、全部ろうそくだけだったんだよ、やったんだけど、それ見た人だったの。はじめてきて、年配の人でね。えーってあなた見たんですか？って。みましたよって。

木「そこでみたからAさんの芝居にでたいって来たんでしょね」

リアリズムのね、やったことのない、素人みたいな人が。

それで(募金が)たくさん集まった。10万くらいだったらすごい大金という貧乏劇団なのに、20万とか30万とか集まって。それで、1ヶ月後くらいだったかな東京のディプラッツじゃなくて、、、どこだっけ？そこでね踊る人ばっかしたくさん集まってね。やったの。そのときにBがでただけけれど。

4月の11日だったかな。それは前から決まっているお仕事で、3月それ(震災)あった後に、結構東京の劇場しまっていて、どうしますか？ってきいたら主催者側がやりましようよってなって。その日は1日任せられる日で、私は募金箱をおいたんですよ。主催の人達はおいてもいいよってしてくれて。ただはいるかどうかはわからないけれどねっていわれていたんです。終わったあと小さい会があって講評というのかそういうのきくんですけど、審査員の一人の人がすごい怒って。

今回の311で(外からきた人間が募金用の)箱をおいた事自体で怒って。「震災で亡くなった人たちに対して募金することがおかしい！」って。え？って思って。何だこの集団はって。彼女はコンテで他の人は舞踏だからコンテあわないんじゃないかっていうのはいいと思うんだよ、批評だから、

木「その批評自体が私はかなりおかしいと思いますけれど。そんな分類できるものなのでしょうか。おそらく舞踏発生当時も先端でやっている人たちほど自由度は高かったと思いますし。」

主催の人に気を使ってもらったのは、その劇場自体にいつも集っているお客さんがいるらしいんですよ。その人たちはすごく貧しくて、ほとんど生活保護みたくがんばっている人たちだから、募金箱おいてもはいらないわよって。主催者の人からは元々いわれていて、それはそれで仕方ないやって思っている。

私が思ったのは募金をする事自体に自己欺瞞というか自己満足したいんでしょっていう人たちがいて。私が思ったのはそのあとの小さい会（打ち上げ、講評会）のときにそれ、誰のお金でたべてんの？みたいな。主催者だったり私の売り上げだったりするわけで。そういうのはごちそうさまってなるのに、自分は100円もいれないんだなって。こういうところにはかかわれないなって感じが。

結果的にはね一般のお客さんもいたでしょ。でも1円もはいていないんだよ。誰一人いれなかったの。10円とかでもいいの、金額はどうでもいいけれど、そういう風にする関心度とか、1円もはいていないっていうのは。お前たちはみんなスルーしているのか、きかないふりしているのか、なんも認識していないでね、なんで感動とか表現とかいえるのかって思って、こんな人たちとはつきあいたくないって。

私の友達とかは募金箱あったけれど、なんかそんなことになって入れられなかったねって。なんとなくみんな残されて講評だったので。で、別の日だったダンサーの子もその考え方にはすごい怒っていて。その子東京の子なんだけれど、すごいコンタクトとって、一緒に作品つくりました。それはそれでいい出会いだった。

全部が全部そういうわけではないのだろうけれど、そういう認識がね。大御所とかね。そんなところで酒飲んだり差し入れたりする金あるんだったら、って思うよ。

木「芸術活動と別物なんですよ。おそらくちゃんとしていけばいいんだけど便乗とかねこばばしちゃう事件なんかもたくさんあったので、東京近郊ではそれに対する抵抗があったと思うんですよ。」

（街頭募金でも）「君どこの所属？」とかきくとすーっていなくなっちゃう。で別のところに立つ。そうやって何万もらえたって、そういう人もいるけれどね。

それと関連して、そのときに普段見に来てくれている人たちからも、こんなときに舞台やるなんて非常識だってすごいわかれて。買い物にも行けないそんな状況で（こんなことするなんて）とすごいいわれて。

あれから1年間くらいは「一体俺はなにをしたらしいんだ」って考えて、芝居仲間とかでもクローズする人と、僕なんかはやっぱり日常性を自分の立ち位置を今こそきちとすべきだと思って。祈りだからってする人と二つにわかれた。

そのクローズした人も、今は復活しているけれどね、間違っているとはいえない。同化してしまうというか。映像見て悲惨な映像ばかり見ていると、なんていうんだろう（シンクロしちゃうんですよと誰かの助け舟）そう。

PTSD？

木「PTSDは心的外傷後ストレス障害といって何かショックな出来事があったときにその後も繰り返す思い出ししてしまう、尾を引くというもので、サリン事件や今回の震災でも5年10年経っても、となることを指します。で、テレビでみちゃった私たちはPTSDにもはいりきれない。でもやっぱりそういう人いると思うんです。特にその1ヶ月2ヶ月はテレビなどでものすごく報道されていたこともあって、みんなが「どうしたらいいんだろう」ってつらい状態がずっと続くという。」

その後自粛されましたね。

木「その後そういうのをみせないようにというか、放映を避けるし、もっと元気にならなきゃとかポジティブメッセージに切り替えて。おそらく原発のことなども絡んでいると思うのですが。電気やガスを使ってもらわないとか。その背後にはちょっと大きな問題があると思います。今は何事もなかったかのようになっていますが。」

それは普通の人たちなんだけれど、自分の哲学とか持っている人たちでもほとんど忘却しているというか。僕は311が起ってから、僕のテーマはね、ずっと絶対的絶望っていうのを追求していたんだけど、そこからねグリーンケアっていうことに向かっているよね。（そこに本あるけれどと木野の持っていた本をさす。「悲嘆学入門」（2010）、坂口幸弘、昭和堂）絶対的絶望はどうにもならない。だからそれを癒す、札幌なんかでは専門家がなくてボランティアでやっているんだけどね。僕はね悪魔教だから、無宗教だから気をつけているんだけれどね。ソロでやったり、東京と札幌でやるときにもあまり言葉を使わない無言劇という「水の駅」（太田省吾の代表作）っていうのやったり、東京と札幌でやる311。通訳さんに「どうして今頃これをやるんですか」ときかれたときにも、僕の中では311って。最終的にはそれは祈りなのかもしれないけれど。強烈にしかしずっと続いている。今回の来週やる（4月に公演予定）わけのわからないベケットの芝居も不条理劇なんだけれども、僕のイメージは311からしばらく離れられないと思うんだよ。根底にあるのはね。それくらい強烈だ



ったんだよ。

木「今グリーンケアという言葉がでてきたんですけれども、いろんな衝撃的な出来事が起きたときにどうやって癒していけるかというのを考えると、こうやっておこしてもだめなんですよ。そのときに寄り添ってそばにいて話を聞いていくということでもしか解決しない。その話を聞くというのも、話しがでてこないところからスタートだから。ただそこにいるということが癒してはならないけれど、それだけで大分かわっていく。そういう相手がいるかどうか。そうやって話しをするということがすごく大事ではないかと。

このプロジェクト自体は、映像化して作っていますけれど、心の中に引っかかっていることをぼろぼろと、見ず知らずの人だからいえてしまうことをいうことで、だんだんそれが癒されていくというのがあって。癒しを求めるわけではないけれど、自分で自分の解決策を見つけ出していくそのために話す時間を長くとっています。共通するところは多いと思います。

朝はさわやかな感じなのですが、夜チームは家族の事とか学校のこととかへビーな話しもできています。でもそういうことを話せる関係性というのは、実は都市部ではなかなかなかったりする。そういうものを少しずつでも、たまたまであってしまったけれど、例えば震災をきっかけにはなしてみたら「ああ」って共感できたりつながったりしていけたら（と思うんです。）

僕はひねくれもんだから。

僕は今回の木野さんのやっている事自体が、今でも自分の作品の中に311のことを折り込もうとしている人がいるんだなって再認識したけれど、遠いところからくるとね、人間てね、忘れちゃうじゃないですか。で思い出すからいいんだけど。日本人の困ったところはね、こういうことすぐ忘れるくせにボランティアにいかないと、募金しないと悪になるの。すごい怖い。え、なんで助けないの？助けたことないの？って、募金したことないの？って。日本の学校教育ってそれに近いの。そのところは彼女みたいにきちっとこうやってすると、ああ、そうかなあって思うんだけど、ほとんどのマスメディアを通じてわーっってもりあがるんだよ。福島で2万人集めてロックフェスとかすごいなって、でも終わったとたんにごあって東京帰っちゃうみたいなの。だめとはいわないんだけど、そういうことの延長戦でこぼれ落ちちゃうのはなにかということししないと悪人である人が善人という区別が起きてしまうんだよ。それは本当に気をつけないと。だからそれは特殊なことだと思ってしまうからいけないんだよ。普通の困っている人を助けたり、手を差し伸ばすということであって。イベントみたいにこうやって、やって、しーらないとかいうんじゃなく。一回募金したからいい人グループって。東京行って1円もはらない募金箱、こんなことなんですか！って、なんだこの東京の連中は、1円もはっていないなんてってそういう連中と似ていると思うんだよ。そういうところ気をつけたいと思うんだよ。

木「いろんな物事には表と裏があって、例えば中川さんが倒れたときにも、私だったら助けないと思うという話しをしたじゃないですか。巻き込まれた経験もあるし、それは怖い。そういう理由がある。その理由がなくてというのはちょっと問題なんですけれど、引っかかるものがあつたりとか、そういう視点もあるんだと教えるのは大事なことはないかと思えます。おそらくその批評家の人、わからないですけど、ほんとにだめな人なのかもしれないけれど、何らかのポリシーがあつたりとかしていたのが言葉足らずになってしまって、そのままになってしまって、という可能性もなくはないですね。本当はこういうことがいいかかったのにつて。（「うん、たぶん」とBさん）それが多様性というか、話すことでしか解決していかないし、いろんな人の声をきいてみるというのが大事なテーマだと思うのです。」

ちょっと話し戻りますけれど、表現、芸術じゃなくてもし続けることが大切だなって。

僕1年後か2年後にちょうど3月11日東京の大学で理学療法の研修をうけていたんです。身体も頭もフル回転に動かしているところで、皆さんちょっとすわってくださいってとめられて。ラジオつけて。今日はあれから1年後です。2年後だったかな？黙祷しましょうと。ラジオのピ、ピ、ピっていうのにあわせて黙祷しました。そのときにボランティア団体でも何でもないのに、しかも練習中にそれをとめてするなんてすごいなって。この団体でそれをするにすごいなというのと、続けないと忘れるものだなと。忘れるのがいいことかどうかはまた別として。

あともうひとつは僕洗礼をうけてカトリックの教会に通っているんです。で、そこでなぜか震災のひと月後ぐらいから東日本大震災の被災者の祈りというのがあって唱えるようになったんです。で、最近第2弾ができて原発事故がどうたらこうたらあって守ってくださいって。それをただ見ているだけだと今更って感じがするんですけど、毎回唱えるうちにまだ続いているんだなとかつながっているんだなとか再認識させられる。募金も大切だしボランティアも大切だけれど、継続していくことが大切なのだなと思うんです。

木「たとえそれがどういう形であれ、意識するだけだったとしても、黙祷するなどということ、まだ思っているということ、4年目になったけれど再確認できるのでしょね。」

木「今原発という話しがでてきたんですけれども、北海道では原発の被害とかは特に影響は受けていないですか？むしろ皆さんが移住してきているくらいで」

そうね。

でも岩内には泊あるし、大間もあるしね。

よくいうのは釧路いくしかないよねって。

木「もしも泊で事故がおきましたとしたら皆さんどうしますかね」

札幌は壊滅だね。

木「みんな密かにそう思いながら、暮らしていますけれど、どうします？多分20キロ30キロ圏内

ではない（注：直線距離で凡そ 60km）けれど、避難区域ではないけれど、近すぎて。」

いや、壊滅だね。

逃げるところ、じいさんばあさんの田舎か。

札幌は 180 万くらい人がいるからパニックになるよ。

木「関東圏でも福島から距離があるけれど移住ラッシュが起きたんです。ちょうど 311 の 1 年後の頃とか、私の友人たちも九州とか沖縄とか。」

K さん（木野の大学時代の先輩）それで鹿児島いったんでしょ？

「それだけが理由ではないんでしょうけれど、確かに増えました。ダンサーだから身体に気を使うとか、私と同年代だと母親世代なので子供つれていたりとか。これからここで暮らしていけるのかという気持ちがあって。賃貸マンションだったりすると家賃も高いので引っ越していったりしたんです。もちろん今でも東京は大都市で、残った人はなぜ残ったのかというのは突きつけられる問題でした。本当にもっと悪化したときにどうするのかというのは私自身も答えが難しくて。」

若い人たちはね。

「そもそも脱出する、長生きをする必要があるのか？というのを私はすごく考えて。どこで生きていてもかわらないのではないかと。」

チェルノブイリからも大分たつけれど、福島第 1 原発くらいの範囲をコンクリートで固めてね。次の世代にはたくさんがん患者とかでているんだけれども、今とどん村に人が戻ってきているんだって。強制的に出したんだけれど、10 何年経ってみんな戻ってきているんだって。そこにいたら食べ物だって汚染されているしね。

人っていうのは危険だから故郷を捨てて、お金があればどこか住めるというものではないと思ったんだよね。だって、そこにいたらがん汚染されて、子供とかとどん村に人になっちゃうのに。あの秘密主義のロシアなのにねデータ出して、たった 2000 人くらいしかいないんだよ、その村。でもすごい戻ってきているの。

今、福島で全員ではないにしても、みんな戻ってきたいと思うのは一体なんなのかって思うよ。

木「福島の方々は確かに土地に思い入れがあったりして、何とかして戻りたいとか縁のところにすんでいらっしやる方とか結構多いみたいですが、おそらく北海道、札幌の人だとかなりの確率で外へ出て行こうとするのではないかと、札幌への執着が薄いんじゃないかと F さんがおっしゃっていて、札幌気質かもしれないです。」

そうかもしれない。大陸的でもなんでもない、昔はフロンティアだとかいってたけれど、そうじゃない。わりあいと物事に執着しないといういい加減さがあるのか、もっと自由度があるということか。僕なんか自由度が高くてね、劇団の方針が Nobody Nowhere。Nobody はだれでもない、Nowhere は北方性身体とかいうけどどれがと。すり足がそうなのか？とどこでもなくて、もっと自由で誰でもって。究極的にはフロンティアという言葉を使いたくないんだけど、人とかモノとかに関心ないっていう意味じゃないけども、本州の人のような土着性みたいなものはないかもしれないね。なんか血の中に。3 世代くらいずっと逃げてきて土着の人はほとんどいないわけで。100 年くらいのスパンの中で。いるのはひとつのアイヌ民族の人だけで。ここがふるさとだけだね。僕もそうだよ、僕も札幌がふるさとだけれども。

でも A さんいろんなところにすんできたから。

木「若い世代的にはどう？（と 20 代 2 人に話しかける）例えばこれから事故が起きたらどうする？」

もし泊で事故が起きてすめないとしたとしても私は離れるという選択肢を選ばないと思う。母の実家は地方なので、母の両親が生きていれば絶対逃げてきなさいっていわれると思うけど、私は逃げない。

木「札幌にいたい？」

いたい。

（外国いっちゃうかもという大人の声）

本当にその状態にならないと自分がどういう選択をするかわからないけれど、でもじゃあすぐどっかいこうとは思わない。ほんとに。逃げなさいよという圧力をかけられないかぎり多分残ると思います。

木「なぜそこにこだわるのだろう？なんだろう？札幌って。この場所が好きなのかな、それともこの自然とか、もしくは人のつながりとかなのかな」

自然よりは場所というか。

福島の人がふるさとを捨てるのがつらいついていてるの、どうしてかなって思って。自分よりも先祖代々つながっている場所を捨てるわけにはいかないっていうのはあると思うんですけど。私は祖父母もその先はさかのぼれないから、それが残るから残りたいとか思うのかなと思ったんだけど、やはりそうではなくて。自分が生きてきた場所が、戦争をしているわけでもないし、地震が起こったからって住めなくなるわけでもないとなんとなく思っているの。やっぱり離れたくないというか。その生まれ育った場所から離れたくない。

木「今自分が生きてきたって話しをしたでしょ？C さんの 20 年分の歴史が札幌のあちこちにあって、例えばこの小学校いったのねとかそういうことがつながっているから、そこから離れちゃうと自分の存在意義が薄れちゃう。薄れちゃうというのは変だけれど、振り返ることができなくなるとかそういうことかな？」

自分の通っていた小中高は他の学校と比べれば歴史は浅い方なんです。だから地震かなにかであっさりなくなってしまう

というのはとてもさみしいことで、せっかくつみあげてきた歴史があるのに、そこで母校がなくなってしまうというのは。それはさみしいというか複雑だな。なんか自分が生きてきた証がなくなる気がして。

それはわかるな（と大人の声）。僕の言葉でいうと土着性っていうのはね、わりと場、なんだけれども、土着性とか風土性とかいうけれどそれはね君にとっての、、、

だから都市部に住んでいる人はね、土着っていうと片田舎とか東北とか遠いイメージするんだけど、都会でもあなたの精神風土が＝土着性なんだよ。だからそれはね強制的にピンピンピンってやられたら逃げざるを得ないけれど、それはね、やっぱり若い人でもぼくらみたいなじじでも、日本人だと農耕民族だからそれが強いんだよ。風土に対する精神的な土着性みたいな。それで風土性の記憶みたいな育まれるんだよね。

あなたが言っているのきいてて、そうだよな。って。放射能がきて逃げる逃げないって別問題だからさ。僕なんかが考えるまあいいやっていうのと何か違う愛着があって、選択のきっかけは違うけれども、それはここにいたいですかという設問の意図によって（かわる）。私はアメリカすんでみたいなのとかいうけれどね、根っこにある部分はね都会とか田舎とか地域性のことはよくいうけれどね、そんなにね（かわらないのではないかと）思っちゃうよね

木「どこで生まれたかというのものもあるかもしれないんですけども、結局その人の存在意義というものをどこで作るかということなんです。例えばそれが人によっては家族や友達が大事という人もいますし、例えばその土地で作ってきた記憶とかそういう覚えていることが大事だったりとか、人によって少しずつ違うんだと思うんですよね。前に大切なもの、ここに遺していきたいものを書いていただいたんですけども、それをもう一度書いていただいでよいでしょうか。このワークを通じて、そのあとに今書くとしたら何をかくか。あともうひとつアンケートをお願いします。このアンケートははじめに書いたものとはほぼ同じ内容です。時間が短いので、あとで思いついたことがあれば郵送なりなんなりしていただいで。遺したいものは誰かにというのがあればそれも書いていただいでかまいません。いろいろワークをしてきたなかで、いつ誰に起こってもおかしくない。だから実際に遺せるかといったら遺せないこともたくさんあると思うんです。でもじゃあ今できることはなんだろう？って考えてみていただいたら。答えはやはりこれもなくて。全くないので、そのときによってまた変わっていくものだと思います。はじめのとき（アンケート送付時）って、私のことよく知らないということもあるし、どう書いていいやらという感じだったと思うのですが、書いてみていただくと、自分で感じるものがたくさんあるのではないかと思います。私自身も震災後何ができるのかな、何ができたのかなと思うことはあったし、特にダンスなんかはすぐに消えてしまうものなので。なんで私は踊っているのだろう、踊る必要があるののらうかと考えたりもして。なんかそのヒントがほしかったんですね。皆さんのいろんな言葉といろんな発想からもらえたらいいなと思ってはじめて。これで2回目ですけども、今回は本当に「ああ、そうなのね」って思いました。正直やっぱり時間が短くて、まだこれから話したいくらいなのですが（笑）このプロジェクト自体は出演していただくということもあり、俗にいうクラスフィーをとったりということをしていなくて、現実問題赤字になってしまう、何考えてんの馬鹿じゃないのといわれているのですが、ただ自分自身が考えさせられる会なんです。学びというか、考えさせられる。2012年新百合ヶ丘で行ったときはサポートがあったんです。そのあと2013、2014と札幌にもってこようと思ったんだけど、難しいねってあきらめていたんで。やってみてほんとによかったなと思っています。」

きのさんと中川さんね、

彼とは撮ったり興味あるからまた違う映像の話とか、僕も映像には興味があって、カメラも持ってるんだけど、まだ使っていないの。いつか教えてもらったらと思うんだけど。

二人ともエネルギーがすごいまっすぐなの。いろんな僕あうけれどね、久々あれだなあ。彼なんか30代前半だと思っいてきたらすごい結構年いってて、Bからきいたらね。30代前半くらいのストレートなエネルギーを感じたな。（木「それはいいのか悪いのか困りますね、、、」）だからね、普通僕なんか身体だって動かないし、歩くのも歩かれないのに、邪魔になるかなと思いがらきて、非常に好感を持てる場所だったなあ。そのくらいいいエネルギーもってるね。

身銭切って、それでもここまでやってきて、ほんとにやろうとあなたのいう星に向かって、あるかわかんないものにむかってね。まだ東京とかかにいてね、こういうことについてさ、（やっている人がいるんだな）すごいなあとおもったんだけどね。

木「ありがとうございます。てれますね」

九州とかさ、フランスだろうとロンドンだろうとどっかで行き倒れていても絶対踏んでいかないから。大丈夫。（笑）僕の性格は足跡（わざと）つける人だから。でも多分まだどこかでお会いすると思うけれど、踏んではいかない。そう感じたよ。札幌じゃなかなか人いないからね、

木「でも札幌も180万人いるんですよ。ただ演劇に触っている人がそんなに多くないだけで。」

情報量が少ないからね。東京がいいってわけじゃないけれど、ずっともの見方が閉鎖的ってのは思うよね。東京の人とかには北海道はいいね、自由でっていわれるけれど、血は多分そうだと思うんだけど、それはここからでて醸成されると思うんだよ。ここにずっと死ぬまでいるとね、なんかあれだなあ。彼女ら（CさんDさんを指す）二人なんかはうらやましいよ。シンプルで謙虚でいい感受性を持っていて、

こんな若い子いないよね。

そうなんだよ、これで仕事にでて汚されていくのかと思って、汚されないようにがんばれと話していたんだよ。久々にみた

んだよこんな素直な子たち。おとうさんとおかあさんの顔見たいって、いい意味だよ、普通悪い意味だけれど。非常にすくすくとさ。

お父さんなにやってるの？

児童会館の館長をしています。

すごくしっかりしているし。お姉さんしっかりしてて、甘えてる妹という図式がみえるね。双子なのに。珍しい、札幌に。出会うことないもんね。

ちょうどEさんはお手洗いにでている。

彼もそうだよ。非常に素直でいい青年で。

何歳だろう？

34、5くらいかな？すごく優しい。手が温かいの。

木「なんだか本当にそれぞれの人のよさがみんなできているといういい出会いでしたね」  
お手洗いにいったEさんが帰ってくる。

Eくんいない間に悪口いっていたよ。(笑) 手が温かくて優しいって。

え、おいくつなんですか？

ここ同年くらいですよ(と木野、中川、古里を指す)

木「いえ、ここ(3人)指しましたけれど、実は全然違うんですよ」

みんなで暴露し合う、驚きの声、若く見えるのがいいのか悪いのか微妙な年頃。え、親と一緒にくらい？そうだよそうだよともりあがる。

木「今日はこれでワークが終了なのですが、撮影がまだ終わっていないので、Eさんとアトリエの撮影を行いたいと思います。」

#### ◎ 撮影⑧

Eさんは理学療法士として就職が決まったものの現在は職場のようなものはないため、あけぼの内でのロケとする。自身の車いすを持ってきていただき、あけぼの入り口部分で外を見つめる姿、駐車場部分を誰ものっていない車いすを押ししていく姿を撮影させていただく。Eさんは車いすの運転もうまく、みせてくれる。

#### ◎ 撮影⑨

Bさん、Aさんのアトリエ(自身の劇団の稽古場)

すすきのから歩ける範囲内のところにあるアトリエ。稽古を行う他、ここでも公演を行っている。地下においていく細い階段の横には寺山作品など様々な過去の写真、チラシ、ポスターが並び印象的。ここにBさんに学校の廊下で佇んでいたときと同じようにたっていた。

Aさんには稽古場におかれた専用イスに座っていただく。劇団員の方からの贈り物だというディレクターチェア。どっしりと構えた顔は演出家のそれになっている。

現在制作中の芝居はベケット。男、妻、愛人が3人壺の中に入って顔だけ出して演技をするという。Bさんはそれに出演中。その壺(舞台セット)もあり、その中で演技をしている様子、演出している様子も撮影する。

この場所を借りはじめて10年くらいだそうだが、大家さんとも仲がよく、どっしりと根をはって活動している様子がみられる。様々な衣装などの管理問題もあり、場所には大変苦労してきたのだそう。

NONBEの会にはぜひきてねとお誘いをうける。

かなり遅くなってしまったこともあり、ご飯は？ときかれる。せっかくの機会なので、お言葉に甘えて車で某ラーメン屋さんに連れて行っていただく。札幌といえば札幌ラーメンを食べなければということで味噌ラーメンをおいしくいただきました。ありがとうございました。

Amanogawa プロジェクト@札幌 2015.03.11 (水) 午後グループ (19:00-21:00)

参加者 : F、G、H、I、J

スタッフ : 木野、中川、古里

場所 : あけぼのアート&コミュニティセンター 12号室、豊平川、宮の沢

◎ 撮影⑩

Fさんの豊平川

仕事終わりのFさんに少し早めにきていただき、そのまま中島公園そばの豊平川の橋へ移動。川を見ながら佇んでいただく。ここはCさんDさんのロケ地候補としていたが、姉妹にはヘビーすぎる感じがしていた。実際にFさんはつらかったり、しんどかったりするときに自転車でこの橋の当たりにきて佇むのだという。普段だと川のそばにおりられるのだが、雪、しかも溶けかけている危険な状態であるためおりに橋の上から遠くを見ているようにする。北海道独自の青い夕暮れ、しかも車や街の明かりがオレンジでとても印象的。ただしその日はとても寒い日で、撮影はかなり困難を極めた。

帰ってきてお茶を飲み、一息。

19:00 ワークA

2人組の寝るところからのマッサージ。今日がワークショップの最終回になることから話し合い中心の予定ではあったものの、基本になるワークだけでも再確認のために行う。他、十字で寝て行うマッサージ、軽いストレッチなども午前同様に行う。午前の会参照。

ワークB ロールダウン、ロールアップ

床まではいかない種のところまででストップして戻ってくる。今回のワークの総集編として行う。

19:35 話し合い

再び毛布を用意、それぞれのグラスに火をつけて自分の前において話し合いスタート。

木「ワークショップお疲れさまでした、映像もいいカットがたくさんとれていました」

中川「ほんとにありがとうございました」

木「まだ撮っていますけれども、今いいカットがたくさんありすぎて、どう編集しようかってなっていますよね。(中川「ねえ」)正直言って収まりきらない。とりあえず主要シーンだけ押さえておこうってつないでみたらそれだけで2時間越えていて。」

エエエー (皆の驚きの声)

木「なんだか超大作みたくなくなってしまって。ワークショップの内容とかいれようと思っていたんですけど入りきらなくて。それだと見る人も困ってしまうので、それこそ一般の人たちに(みせる)となったときに、もう少し短く、わかりやすい形にしないとねって。模索中です。がんばりますとっています。15日もしらっしゃればぜひ。きていただければと思います。もちろん15日以降DVDに焼いて皆さんにお渡しというか郵送したいと思っています。」

「ただ、まあ、このワークショップ全体の感想を聞きたいというのもあったのですが、このワーク自体が4年前の今日おきた東日本大震災を元に作っていることもあって、全員必修参加という形にしました。前回(8日の)撮影の際に既に東日本大震災のときに私こうだったといくつか伺っているのですが、改めてお話を伺えたらと思っています。2011年3月11日なにかこんなことがありましたというのがあれば」

生命保険の会社の研修で、ビルの8階くらいでやっていたんですけど、そのときやたら大きな地震で、(会社の人に)このビルは崩れることないんで安心してくださって宥められたんですけど、それでもみんなおろおろして。大丈夫だだっていったけれど、次の日テレビみたら「日本、大丈夫じゃない!」って。(笑)

木「ということは次の日テレビを見たらってことだったんですか?」

そうなんです。やたら大きな地震がきたなって。

木「札幌の揺れ具合ってどんなでした?」

どんなくらいだったんだろう?

そんなにゆれていなかったんでは?

たまたま揺れるビルにいたからですかね。

木「Bさんも同じようなことをいっていて、ビルの上の方において揺れがすごくて、ひどかったからロックされてしまって出られなくなってしまったという話を(午前の会で)していました。」

北海道でも釧路とか函館とか津波ありましたよね。(あったあったという声) そんなに大きなものではないけれど。  
木「札幌は津波の影響うけないけれど。」

一人亡くなったって聞きましたね。釧路の方で。

函館って私は聞いたのある。

寝てた人がね、そのまま気づかずにというのがありました。比較的北海道は被害が少なくて。通信が少し(つながらないというのあったけれども)。(うなづく声)

木「直接的に被害を受けたとかは、皆さんはないですかね。」

そうね。いつもよりはちょっと大きいのかなという感じで。

私もビルの上の方にいたから、ほんとにすごい横揺れで。

外見たら普通に子供が走っていたので。

意外と気がつかないんだよね、歩いていたりすると。

あれ、夢見てんのかなみたいなの。

木「まさかこんなすごいことになっているとは思わないですよ、テレビ見てうわって。すごいことになっているんだって(気がつく)」

職場の人がおじいちゃんが船渡に暮らしている人がいて、「おじいちゃん、おじいちゃん」っていったけれど、連絡すごいとれなくて。

携帯つながらなかったもんね。

木「結局その方は？」

大丈夫だったんですけども、ずっとどうしよう、どうしようって。

木「周りの方とかそういう方いらっしゃいました？親戚とか」

実際の被害があったり、肉親とかなくなったという人は周りにはいなかったですね。

うちの社員の人で青森に親戚がいて家が壊れたとかいって。そのときは福島とかまだ問題ではなかったので、青森大変なことになってたんだねってしていました。Twitter だけは動いていたから、Twitter の情報だけは自動でできるようにしておいてました。それから仙台の駅がやばいってなっていて、でも福島の話は全然できていなかったです。

すぐは情報こなかったよね。

仙台駅が倒壊したというのはでていたけれど。あと東京の方ですね。

木「関東圏確かに揺れが大きかったです。関東圏は、私神奈川県で横浜にいました。電車が全てとまってしまって。震度5とか5強くらいだったのですが、電車が止まってしまって帰れなくなってしまって、みんな歩くしかない。首都圏なんかだと家が遠い人が多くて一晩中歩いた、帰れないとかそういうことがおきていたんですが、そういうことは札幌はないですよね？」

札幌はないですね。

その日の夜になってそうだったんだって(わかりました)。連絡とろうとしてとれなくて。次の日の夜にやっとなんかあったりして。その瞬間としては、この前もいったけれど(8日に話してくださいました)、私エレベーターのメンテナンスをする会社で、地震には敏感なんです。震度4の地震が起きたら夜中でも出社しなきゃいけない。そのときは日中だったので、地震とかあるとすぐテレビとかラジオとかつけるけれど、その時津波の映像が、今こう、海からだーっとくる映像がみえて、え？え？え？って現実のこととは思えない感じで。これ人とかいるよねって。そのときはまだほんとのことのような感じがなくて。その後から続々と情報が入ってきて。しばらくかけてどれだけ大きいものだったのかわかっていった。福島原発のこととかもでてきて。本当に。

演劇をやっている、周りに活動家みたいな人が多いんですよ。泊(原発)ができるころから反対運動している人とかいて。その人が危ないって涙ながらにいざという時にどうしたらいいかというマニュアルとかくれて、ヨウドがいいとか本当に被害を受けたときにのみなさいって。そんな深刻なことなんだって思ったり。今から思うと、実感したのはその後で。

木「時間かかりましたものね、全貌がわかるまでに。思い返してみるとやっぱりすごい大事件だったわけですが、今は日常世界にもどっている状況で。やっぱりテレビや報道も大分押さえられて、何事もなかったですよという感じに近づいています。あの頃一番はじめの頃って例えば電気とか

制限があったし、いろんなことに問題意識を持っている人がたくさんいたと思うんですが、あるときを境にすーっとひいてかわった感じがする。1年もする前、3ヶ月くらい戻っていった。あれはなんだったんだろう？って」

あの後しばらく関東圏とかコンビニにもものがなかったって。流通が滞ってしまって、スーパーやコンビニにもものがないって。こっち（札幌）はそういうことなかったんですけど。この間合唱コンクールの今年の課題曲というのがラジオで披露されてそのうちの1曲が「コンビニに物がならんでいない」ってそのときのことをうたっているものなんですよ。あ、そういえばそんなことがあったって思い出したんですけど。4月くらいに東京からこっち（札幌）にきた人に「北海道コンビニにもものがある、感動した！」っていわれて、あ、大変なんですよ、って。そういう意味でもその後の大変さをリアルには体験していないんだなって思いました。

荷物とか送りましたか？

送った！東北支社に。

阪神大震災のときに（録音不明瞭）

あとCPUって複製するときに使うんですけど、それって80%か90%くらい福島で作っているんです。で、あと10%が四国。石巻が中心で。まず、それどうするかって。D（大手印刷会社）とかは海外にシフトうつしちゃって。なんだかしらなければ0とか製紙会社が全部石巻に集合していたんですよ。

それきいた。印刷関係、紙関係がすごく集中していて、不足したって。

不足してて、複製のは90%石巻で。海外のやつ使うのか、四国の10%とりあいなのか。一回規制が解除されたときに残っている、2階にあったやつとか被害がなかったやつを取りにいて流通させていたりとか、それこそぎりぎりのところだったもので、少年Jとか月刊誌とかも紙とか石巻からでていたんですけど、休刊にするとかか。

そういう影響があったんだ！！（皆から驚きの声）

海外の力かりたりとか。

木「ちなみにJさんのところの会社はどうなされたんですか？」

ストックあるところからわけてもらったりとか、D（大手印刷会社）とかに頼んだりとか、みんなに事情を話して、急がないものは待ってもらおうとか。事情をお客さん一人一人にお話して、待てるものは待っていただいて。急ぎっていうものは少ないんですけど、確保しているものを共同でわけてもらって。〇〇事務所とかかいてある（封筒など）のとかは100均とかの大量生産してできたものを使ってもらおうとかしていました。なんでかわからないけれど、全部一カ所に集中していたので。他の（製紙）会社も4つくらい石巻だったんですよ。流されて、あとはいれなかったんで。2階3階に残っていたものは皆でまわして。大変だったんで。ドキュメンタリーでありましたけれど、製紙会社の1階は全滅だったんですけど、2階に奇跡的に残った機械があって、それを半年で使えるように動くようにしたという。それは2階のやつの部品とかもなくて。職人さんとかお願いして。半年じゃ無理だ1年かかるといわれていたんですけど、それじゃお客さん離れちゃうから、って工場長が半年でやるって。（半年という）根拠はないんですけど。で、動かすのに成功して。S社（大手出版社）とかそういう大手がまわってくれたんですよ。そこだけでなくて上の方の製紙会社とかもまわってくれていたんでそれで助かったという。

あと、台湾が協力的で、募金もそうですけれど、いろんな支援をしてくれていて。

そのとき学校にいたんですか？（とGさんにきく）

ええ、生徒たちもいましたね。前もいいましたけれど（8日）、被服室で授業やっていて、「ああ、揺れたな」と思ったので、教室のドアを開けて、逃げる通路を確保したんですけど、すごく（揺れが）長くて。でも外に出すほどの揺れではないなと思って様子を見ていて。今自動的に情報がスマートフォンとかに流れるじゃないですか。ほんとは授業中だめなんですけれど、生徒が「先生情報がきているんですけどもみちゃだめですか？」ってきいたんですよ。いいよって、ポケットは持っている人、情報ちょうだいって。そしたら「東北地方震度7です」って。

7、ていうのは私の中で経験がない。私震度4が最高なんですよ。7っていうのは想像の域こえてるなと思って、思わず「それは人死んだね」っていったら、なんか空気が殺気だって、この人何非常識なことやってんのっていう視線が80の瞳からぐーって来たけれども、でも震度7ってそれは壁崩れたなって思ったんですよ。私たちは何でもなかったけれども、職員室にいったら、当時私（高校）3年の担任だったんです。それで受験にしている生徒の安否を確認してくれていわれたんですけども、うちに連絡しても、何回実家に連絡しても連絡がつかず、本人の携帯も連絡つかず。10クラス全員安否が確認できたのに、私のクラスの一人の女の子だけ連絡が取れないんです。でもなんか、私は元気なときの彼女しか知らず、大丈夫だよって思い込んでんですよ。周りは大変なことになった、教育委員会が安否確認っていつているのにN校では一名安否確認できない、大変なことになったってなってるんですよ。でも私一人大丈夫だよって思いこんでいるんですよ。

次の日には、どれくらいかなあ、本人の携帯に確認とれて。どうだったの、全然連絡とれなくてときいたら（実家について）お父さんとお母さんが飛行機で飛んできてくれましたと。飛行場で会うことができました。その日は移動ができなくて、

受験日の当日にいけるところまで列車で行って、そこからは乗り継いだり、最後は歩いたりして、受験はしました。全力は尽くせました。どんな結果であったとしても今回の地震が影響しているのはなく、それは私の実力です、と。

その子は本当はA日程でわかるはずの子供だったの。A判定しかでてなかった子で当日何かしくじって、私顔から血の気が引いて。B日程は5人しかとらなくて、この子おちたら浪人なんだって。そう思っている受験の日に(地震だったの)。選んだのがスワヒリ語とかで、その学校でないと学べないんですよ。(スワヒリ語!!と皆で驚く) どうしてそれ選んだのかわかんないんですけども、他の英語とかフランス語、ドイツ語なんて誰でもやっているしよ、世界で私だけしかしゃべれない、私にしかできないことをやりたいって、スワヒリ語。でもだめだったら来年その制度はありませんとかいって。で、うかって。私にはそのこと(自身そのもの)よりもその子の受験のことで血の気が引いてしまって。なんで受験当日にそんなことが起きてしまうんだろうって。

北海道では札幌は津波もなかったし、建物の倒壊もなかったから非常に無事で。私の中でショックだったのは北大の大学院生さんがずっと空気を測定していて、毎日毎日のことでご苦労だと思っていたんですけど、1ヶ月後に(放射能が)検出されました。と知って、1ヶ月ですか?って。私は早くても1年と思っていたので、北海道が汚染されるのは。1ヶ月で札幌まで飛んできたんだって。それからすぐですよ。北大の農学部で飼っている牛の母乳から検出されましたって。大地汚染されたんでしょ!って。で、基準値が引き上げられて、全て汚染されたんだから、そんなことを言われていられる状況では日本はもうなくなったんだって。大変だっていうか地球にどれほどの迷惑をかけながら日本という国は存在しているのだからって思いましたね。汚染水の問題も解決していませんし、人類は滅亡に向かっているんだとすごく思いました。

木「北海道、沖縄もそうなんですけれど、移住してきている人も多くて、安全なイメージがあると思うんです。少なくとも関東圏よりはいいだろうとか。関東ほどではないにしても」

北海道全域、どこまでかはわかりませんが、土壌がやられたというのは、、ショックでした。日本という国が情報をストレートに出さない政府だったというのがショックで。そういう国だったんだなって思いました。

日本からの情報じゃなくて、アメリカとかイギリスから情報が来る。向こうの人たちが調査したやつがネットとかで回って。隠していても向こうからでてくる。福島とかカタクチイワシの漁場があって、カタクチイワシをエサにしているのが鰹とかで、鰹をエサにしているのがマグロなんで、そこらへんが全て(汚染されたのではないか)。食べ物とか福島のを食べて。横浜の人たちはそうでもないんですけど、札幌とか飲み屋に行くのも不謹慎だみたいな感じになって。お金を使わないで自粛しようみたいな風潮になって。飲み歩くのは不謹慎だって。でも向こうの人たちはお金を使って流通させてほしいと考えているわけで、どちらかという周りの人の方が風潮を気にしてその後で潰れたお店も結構ある。

千歳の自衛隊とかも結構むこう(被災地)にいていたので、自衛隊の人たちが飲むのは不謹慎だとか。僕なんかは使ってお金を落としていった方がいいと思っているんだけど、一部の人はそういう風に考えているみたいで。

ボランティアは一杯きたけれど、逆に荷物とかもたくさんきてさばききれなくて、やみくもにこないでほしいって。ものをさばける人がいない。ものがきても大量に山になっているだけっていうのが3ヶ月くらい続いていて。古着とか送られてきても一カ所にたまっていて。他の村とかにいきわたっていけない。そんなのもありましたね。

木「そうですね、、その話してからまた少し戻ってしまうんですけども、北海道も泊原発もあるし、今現在も汚染され続けているといわれていて、皆さんは札幌に住み続けている。もし何か起きた時、どのように思いますか。この土地にとどまりたいと思いますか?」

泊で事故が起きたら札幌は全滅ですからね。ちょっとここはすめないとします。

木「俗にいう避難区域というぎりぎり線なんです。だから住もうと思えばすめなくはない。普段私たちはそのようなことを考えていないけれど、Fさんのおっしゃった活動家の話ではないですが、まずいでしょというのは多分昔からあったと思うんです。(うんうんとうなずく声)」

なんかその、福島から札幌に移住してきている人もいて、なんかそういうイベントとかチャリティとか物資の支給をしたりとかしていたんですけども、そうやって子供のためとかきている人もいるけれども、土地を離れられない人がすごくいるらしくて。北海道とちがって、ずっとそこに住んでいるし、離れられないんだって、話を聞くと。子供の為を思ってってお母さんと子供だけがきたり。やっぱり土地を離れることによってご近所の方に口さがなくいわれたりとか、事情があって、それはやっぱりこっち(札幌あるいは北海道)にすんでいる私たちとは感覚的に違うのではないかなと思うんですよ。北海道って土地が新しく、ひいじいちゃんくらいになれば入植してきた人で、北海道ってしがらみが少ないとかないじゃないですか。事故が起きたのがこっちだったら私結構みんな避難するのではないかなと思うんですよ。事情とか、仕事のこととか離れられない理由があると思うけれども、自分とか家族の命を優先して土地は私捨ててと思う。離れるんじゃないかなという気がして。

実際それがリアルに起きたときにどうするかというと、、本当のところはわからないけれど、ここに住みたいという気持ちはものすごくあるけれど、離れると思う、私は。

ただ、ここに住んでいる理由というのは先祖代々という土地だからとかいうのではなくて、この土地に住みたいと思って選んですんでいると思っているのね。土地とか自然とか気候とか全て含めて私はここをすごく愛していると思うし、だからそこが住めなくなるというのは考えたくないことなのだけれど。

あとはここで自分が生きてきて、人とつながってそういうものが私をつなぎ止めていると思うのね。私、実家札幌じゃないし、実家帰ればいいのだけれど、親もいるし。でも札幌に住んでいたいと思うのは、今までつながってきた人たちとか、自分のやりたいことが今ここにあると思うからだけれど、、。でもほんとに原発事故みたいなことがあったら、そういう人たちを含めて離れようよというと思う。

60、70になったら離れたくないよね。



ああ、そうかも、、、

木「チェルノブイリとかがそうですね。結構年齢のいった方が。元々過疎ではないけれど、そういうところだったけれど、そのままいつづけていると。キノコとか食べ続けて。Aさんがいうには戻ってきた人も多いと。やっぱりその土地にいたいと戻ってきた人が多いと。私はその戻ってきた話しはわからないのですが、70代80代の人が残っているという話しを聞きました。」

なんでかわからないけれど、美唄でチェルノブイリの展覧会があって、写真とかみれました。

みにいったの？

たまたま通ったら。甲状腺がやられてしまって。子供のまま年を取っていく人とか。AKIRAとか（みたく）こどもなのに白髪になっちゃうおじいちゃんとか。

ホルモンとか？おかしくなっちゃうのかな。

女の子なのに筋肉がとか、奇形児が増えてて。

木「どうでしょうか、答えがあることではないので。時間がたったらまた意識が変わるかもしれない。ちなみに（午前の会にきていた）CさんDさんは札幌にいたいといっていて。もしも何か起きても私は札幌にいると思うと話していました。生まれ育ったというのもあるし、この街での記憶というものが自分を形作っているからと。一番若いのにそういういい方をしていて、それもまた特徴的でした。」

子供の頃から育ったというのは大きいかも。私、札幌がそういう土地ではないので。大人になって選んでいる場所ではあるけれど。例えば地元の方がってなるとそっちの方が精神的につらいかも。

札幌ですけど、もし日本がだったらマレーシア行きますかってなりますよね？

私はでも生きていける場所に行くと思う。うん。

あの、私すごく迷うと思うんですね。私教育公務員じゃないですか。で、もし学校がそのまま授業続けます。一日も臨時休業せずに授業続けます。子どもたちは40人1クラスいたけれども30人通ってきます。というときに、自分は子どもたち学校に来ているのに、「先生、いなくなったって、マレーシアへ」って（いえないと思う）。

私退職まであと6年なんですけれど、6年汚染されてもいいかなって思っちゃうかもしれないと思うんです。1個人としてはこの際仕事を捨てて、次の人生にやりたいって、自分の命を守りたいって思う気持ちはありながらも、子どもたち学校に来ているのにほんとにあんたに学校捨てれるかい？っていう葛藤をものすごくすると思います。

仕事を背負っている男たちは決断苦しむと思います。妻と子どもたちは実家にとか親戚にいけといいながらも、自分は電線張らなきゃいけないとか、水道管とおるようにしなきゃいけないとか。それぞれ仕事を背負っていますので。それなりにその領域で皆社会を支えていますから、それを捨てられますかということなんですよね。1個人としては全く別なんですけれども。

木「そうですね。それこそ社会との関係性で自分の居場所とか位置がつけられているわけで、収入が云々というだけではなく、アイデンティティのひとつということ、それがあからこそ自分と感ぜられている男性、男性というよりも年齢によるのかもかもしれません。」

「結構私の周りには役者さんとかダンサーさんとか自由人が多くて、特に私の世代子供が小さい子がいたりして移住していく。九州とか。年齢とかでも、それこそ定年まで後少しかからとか、そういうことでもかわっていくのかもと思いますね、、、難しいですね。」

家族がいると全然違うと思うんですね。みんな多分一人だと思うんで。（と辺りを見回す。既婚者はIさんのみ）違うんだろうなって。

離れていくかもしれないけれど、でもすごく悲しいだろうなと。ずっと住んでいるからとか札幌がとかそういうのないんですね。そういう感情はないんだけど、でもなんとなく。それがなくなるというのが堪え難いというか。

自分一人だったら、札幌好きだし居続けると思うんですけど、ほんとに家庭とか子供とかそういうの考えると移ることも考えるかもしれないですね。

木「まあね、こういうの考える答えもないけれど、こういうことを考えるとなんでこの街がいいんだろうとか、自分の大事にしているものが何だったのか、子どもたちとの関係性とか、日々の仕事でできてきているものとか見えてくるものがあるのではないかなと思うんです。大切なものというの

を皆さんに考えてきてくださいってお願いして、午前中のクラスの人には自分たちがこの世の中に生きてきた中で遺したいもの、伝えたいもの、もしくは大切なものってなんですかってきいていたんです。皆さんにも紙に書いていただきたいと思います。（ペンと紙を差し出す）」

「難しいなと思うんですけども、、、ちょっとお話したかもしれないですが、ダンスって消えていってしまうものなんです。見た人はそのときよかったとか悪かったとかいいですけども、その場に残るものがあるってその、消えてってしまうけれどもなんで私はダンスにこだわっているのだろうって思って、結局、私が踊ったことによって私がいたということが見た人の記憶に残ってほしいんじゃないかって思って。具体的なものではなく。私がいたということを誰かに覚えていてほしいとっているんだと思うんです。でもなんだかそれを上手く言葉に表現できなくて。なぜ表現をするのか、何を伝えたいのかというのが皆さんからきけたらなと思って。具体的なものとは限らないです。」

この世に何を遺したいか？

木「誰かでもかまいませんし、何かを伝えたいとかでもかまいませんし、何も遺したくないという人もいるかもしれませんが。例えば子供がいるとかだと自分の子供に自分のいたこと、生き方を伝えていく。もしかしたら子供は全く違う生き方をするかもしれないけれど、DNA とかちょっとしょってってくれるわけじゃないですか。でも私はたまたまですが子供がいなくて、これから子供を持たないと思うのですが、自分の人生って何なんだろうってというかそんなことを思ったりして。そういう地震にあたりとか交通事故にあたりとか、心臓発作があたりとかそういうことで遺せるとは限らないです。でもどういうことを思って（生きるのか）。ちなみに前半クラスの人は書いて折って出してもらいました。なので、誰にもみせないで出せます。」

木「悩み始めるときりがないというか。思い切って書いてしまった方がいいです。なんかワークショップでもいえることなんですけれど、正しいこととかこれが正解みたいなものって人生においては無いと思うんです。ダンスって何となくこういうテクニクとか、これができないとだめとか、こういう風になりなさいっていわれて育っていくから。でもほんとはもっといろんな可能性があるし、違う発想の仕方ができる。それぞれの人のそれぞれの思想というのは既にその時点ですごいもので、すごく可能性があると思うんです。このワークショップはすごい短い時間だったけれど、そういうことに私も再確認するし、率直な思ったことを書いていただけるといいなと思います。もうひとつ、これはアンケート、一番はじめのときに書いていただいたアンケートなんです。一番最後だけ違うんですが、これで、もう一度かいてみていただきたいなと。ワークショップ中に思いついたものでも、その後に考えたことでもいいので、書いていただけますか？ボールペンとかで。（ペンを皆取り出す）」

「ちなみに私は（アンケートの設問に皆さんが書いている間に自分も答えていく）2011年3月11日、横浜駅の1階の帽子屋さんの前を歩いていました。すごい揺れで、お店にショーウィンドウのようなものがあったのですが、（ガラス張りなのと倒れる可能性があり）とにかく出させられて。その後電車が全て止まりました。ほんとはその日（自分が踊る）パフォーマンスがあって、その場所に（歩いて）行こうと思って行ったんですけども、とてもじゃないけれどそんなことができる状況ではなく、帰れる距離でもなく、泊めてもらいました。

今現在は神奈川に住んでいますが、だからといって神奈川から移ろうということは基本的には考えていません。なぜかという経済的に安く、今の活動をする上で一番経済的に楽な状態で活動ができるから、というのがありますが、それ以上にどこの土地に行っても同じであるというある種のあきらめが私にあります。それと同時に長く生きることの意味みたいなものが考えられなくて、現在あるところで今ある最大限を生きた方がよいと捉えています。なので現在も神奈川県に住んでいます。

札幌（録音不明瞭、札幌でも何かできないかと模索しているけれども）現実問題としてなかなかできていないのが現状です。

全ての条件が整ったとしても私は何も変わらない生活を送っていると思います。明日爆発が起きたりとかノストラダムスの大予言がとかそういうことが起きたとしても、おそらく同じように。

今大切にしているものは、おそらく踊る事自体よりも人と話す時間を、ものをつくる時間、それについて考える時間。

それがなくなったときを想像したことは、それを託すということは生きていうちはないだろうと思います。それがなくなる時というのは、例えば身体が不自由になるとかでも何かやっているとと思うので、（ないでしょう）。

札幌の好きな場所、私はおそらく自分の高校から見た眺めだったんですけども、残念なことにその高校校舎がなくなってしまいました。今いっても記憶のある学校はなくなってしまいました。札幌にいたのは18（歳）の頃までなので残念ながら夜の遊び場も知らず、私の知っている札幌は学校だったので、今回札幌で作るにあたって、学校がいいなあと思ったのかもしれないと思いました。円山公園とかやっぱり昔育ったところは（影響が）結構大きくなって、小さい頃すんでいたのが歩ける距離だったので今でも大事にしています。というような感じです。」

黙々と書き続けている皆さん。

隣で練習している演劇グループの声だけが聞こえる。

(ろうそく)全部液体になっちゃいましたね。間違っのんじゃいそう。とけちゃってて。

木「ぐらっとかゆらしてこぼしてしまうと、それがこのように真っ白になってしまう、、、。きれいなんですけれどね。」

たくさんの方が使ったんだろうなあって。思いましたね。

木「でも毎回洗って持ってきています。普段私が使っているわけではない違うメーカーさんのろうそくで、そのせいかでろでろに溶けてしまって。すみません、、、。シンプルですがやはりろうそくの火の光って美しくって、命の火の話が出てきましたけれども、イメージ的にも温かいし。教会、特にヨーロッパの教会だと小さなグラスを買って像の前においていくんです。お祈りする人は1ユーロとかでそれ買って。その数だけ祈りの数があって祈りとか気持ちとか思いを象徴していると思います。」

明かりをもらいますよね。それは命だと思いなさいといわれたらすごくイメージがしやすいんですけども。本当の命もろうそくみたいに私の光をあなたにあげるねみたいな形で見える形だったらとていろいろな問題が解決するような気がするんですよね。親子の問題とか私の命はここまでですって知っていたりとか。ろうそくを継ぎたせれたりとか。でも目に見えないもので私たちは生きてるので、だからそれが体験できるという事ですよね。振り返れないとか、

木「それこそ受け渡すではないけれど、後からわかるということはあると思うんですよね。あのときのあの言葉って。こういう時間を持つてるといのはすごいすばらしいことで、私はここにこれよかったと思っています。機会を持つててというか。」

私は教師をしていますけれども、50何年生きてきましたので、たまにふっとものづくりをしている人、例えばタンスを作るとか建物を建てるというようにものづくりをしている人をうらやましく思うことがあるんですよね。なりたくて、なりたくてなった職業なんですけれども。それは預かったお子さんを3年間育てているわけですから、それがどんな形に仕上がっているかを私たちは見届けることができなくて、きっとこの子は成長するって信じて送り出し、また新しい子を受け取って信じて送り出し、それをずーっと続けているんですよ。見届けたくって狂おしくって。なんか大丈夫なんだろうかって思ったときに、形を作りそれを次の人に渡しと形あるものを作っている人が猛烈にうらやましくなる時があります。だから我が子を持ちたいなと思ったこともあります。長い期間成長を見れるので。ずーっと思ってたんですけど、残念ながらそういう人生ではなかったようで。ものを作る仕事にしても、目に見えないものを作る仕事にしてもどちらにしても狂おしいんでしょうけれども。なかなか人生って思うようにならないなと思います。

木「その子がどのように成長していくかもわからないし、自分が投げたものがどのように受け止められたかも難しいし、その時受け止められなくても何十年かたってそれがつながったりする。非常に長い目でみてかかないといけない。」

結果を知ることはないの。

木「結果がないですものね。自分がやっていること、投げかけていること、それがどうなのかというのわからない。すごく難しい職業だし、本人の意識がよほど高くないと続けられないと思います。一応非常勤の講師をしていたので、今もですけど、授業を教えたりとかはしているけれども、本当に学生の生活全般家族のこととかは見れていない。短い時間での付き合いになってしまうし、それでも難しいということは見えるので。できないなあとって。」

ただ一方で我が子ではないので、冷静に、理性的に対応できる面もある。他人に育ててもらおうというのは悪いことではないなと思います。この勉強ができないというのが我が子だったらたいたいてるかもしれない。よその子供だと待てる。いろんな人に育ててもらわなければならないなあって思います。

木「話し始めるととまらないですね、ここに書ききれない分はまた後日でもいいですよ。15日ぜひいらしてください、ご招待しますし。」

いけます！私完全に間違っって7時って朝の7時かと（笑）始発が午前6時40分とかで、間に合わないんじゃないかって。西区の人しかいけないんじゃないかって。

木「全員はそろわないんですけども、映像を見つつ、私も皆さんからもらったことを元に少し踊りつつ、打ち上げもかねますので、ぜひお越し下さい。」

外からどういう風に見えるかは興味深いですね。

木「そうですね、どういう風につくるかですね」（みんなで中川さんを見る）

中川「なんですか、プレッシャーが、、、笑」

木「自分じゃない違う側面が取られていることもあるので、見方は面白い。」

私は発してしまったので、あとはまかせますー（笑）

木「古里さんの写真はまたこの後まとめていただいて。中川さんの映像も見られない方もいるので、DVD何かかにして郵送にしたいと思います。連絡先などありましたらご連絡ください。」

Jさんの撮影場所を皆で相談する。

アンケートなどを提出いただき、撮影の2人にお話いただく。

中川「個人的なことをしゃべっていただくのにカメラまわしてすみません、できるだけプレッシャーにならないようにと思ったんですが。がんばって編集しますので、よろしくお願ひします。」

古里「ありがとうございました。短い間だったんですけども、今日お話を聞いていて何となくまとまってきたような気がします。まとめたものを皆さんにお届けできたらと思います。」

木「では、最後ろうそくの灯を消しておしまいにしましょう。」

今日が最終日ということもあり、10時退出をめざしいそいで片付ける。毛布やペン、マジック、お茶道具、ろうそく、ライトなど様々な機材があり、時間がかかる。参加者の一人はこの後あけぼの内の別のワークショップに合流するということもあり、バタバタと移動しはじめた。

◎ 撮影①

Jさんの夜景

Jさんはいつも作業服でいらして、仕事がらみのお話をするときがかっこいいと中川さんと木野は職場での撮影がよいのではないかと提案したのですが、ご本人の希望もあり藻岩神社になりました。その昔昆虫採集などによくいったのだそうです。森に覆われていて、クワガタやカブトムシがざくざくとれるのだとか。

ただここ数日の温度の急上昇、雨などの影響で入り口周辺が水浸しになってしまい、靴ではとても歩かれない状況になってしまったとのこと。(前日Jさんは下見をしてくださいました。)急遽変更して宮の沢の某小学校の入り口近くから見た夜景(手稲方面)にしました。(昔空手をしていた頃、学校開放を利用してたそう)

校内で撮影したのも窓の外を見つめているため、それとポーズを似せてもらい1つ。また夜景はAmanogawaのイメージの元なので、少し長く撮影を行いました。

Amanogawa プロジェクト 札幌 20150311

石井香帆  
石井美帆  
梅村和史  
こしばきこう  
佐藤浩子  
高橋ちひろ  
福田盛雄  
平野孝  
三木美智代  
村田ひろ美

構成：木野彩子、映像：中川泰伸、写真：古里麻衣、楽曲提供：上地正彦、広報/記録：木野翠、宣伝美術：427@FOTO

後援：札幌市

協力：NPO 法人コンカリーニョ、あけぼのアート&コミュニティセンター、レッドベリースタジオ、あけぼのまちづくりセンター、天神山アートスタジオ、北海道文化財団、弦巻楽団